基本計画書

		基	本		計	画						
事	項		記	入		欄	備	考				
計	画 の 区 分	専門職大学	の設置									
フ 設	リ ガ ナ 置 者	ガッコウホウ 学校法人	ラップ ケイシンガ 敬心学園	クエン								
フ 大	リ ガ ナ 学 の 名 称		ケンイリョウセン 椿専門職大学(Ta			f Health Sciences)						
	学本部の位置		区塩浜2丁目22番		i chivorore, c	r nearth serences,						
大	学 の 目 的	敬い、自らを律 造する」の下、 の実現と発展』 を教授研究し、	単し、人々の心を 「健常者・障が を目指す」を建 豊かな人間性を	もっとも大切にし い者、若年者・高 学の精神に掲げ、 備えた「共生社会	て、一人ひとり 動齢者など多様な 実践的かつ高度 の実現と発展に	敬心学園の理念「他人を が輝いて生きる社会を創 人々が『共生できる社会 な保健医療の理論と技術 貢献する実務リーダー」 とを目的とする。						
新	サハビリテーション学部は、保健医療の専門職業人として高い専門知識と技術を涵養すると共に、多様な生活者のQOL(Quality of life、生活の質)の維持・向上に関する知見を身に付け、高度化複雑化する社会ニーズに対する課題解決力と組織の経営・マネジメントの知識を養い、共生社会の実現に貢献する理学療法士、作業療法士を養成することを目的とする。											
	新設学部等の名利	修業 年限 定員	編入学 収容 定 員 定員	*	開設時期及 び開設年次	所 在 地						
新	リハビリテーション 学部 [School of Rehabilitation]	年	、 年次 人	<u>Д</u>	年月 年次							
設学部等の概要	理学療法学科 [Departmemt of Physical Therapy]	4 80	0 320	理学療法学士 (専門職) [Bachelor o Physical Therapy]	第1年次							
×	作業療法学科 [Department of Occupational Therapy]	4 80	0 320	作業療法学士 (専門職) [Bachelor o Occupational Therapy]	第1年次 f							
	計	160	0 640									
臨床福祉専門学校(東京都江東区塩浜)												
	新設学部等の名称	講義	開設する授業 演習	科目の総数 実験・実習	計	卒業要件単位数						
教育課程	リハビリテーション学音 理学療法学科	86 科目	16 科目	25 科目	127 科目	145 単位						
MINITE	リハビリテーション学芸 作業療法学科	89 科目	17 科目	28 科目	134 科目	145 単位						

子 部 等 の 名 等 一次			W. day	hehe so	h 41.					専任	教員等				兼任	
# 9 ハビリテーション学部 建戸液医学科 (7) (1) (7) (3) (8) (0) (21) (21) (4) (4) (4) (4) (4) (21) (0) (21) (21) (21) (21) (21) (21) (21) (21			字部	等の	名 称				-	講師	助教		-		教員等	
リハビリテーション学部 作業療法学科	_	新	リハビリテーシ	ョン学部	3 理学療法	学科	(7)	(1)		(7)	(3)	(18)	(0) ^	(21)	
(15)		設	リハビリテーシ	ョン学部	作業療法	学科	-					-	· •			
 (株置会) (株置会) (株置会) (大田) (大田)	織	分		計			-					·	/ -			
							- 人	. –	人	- 人	- 人	_	人 -	· 人	人	
大学 15 15 15 15 15 15 15 1			(該当なし)				(-)	(-)		(-)	(-)	(-)	(-	·)	(-)	
接 接 接 接 接 接 接 上 上 上			合		計						-	-	/ -			
京田 東 野 野 野 野 野 野 野 野 野	*//-		職	種	É		専	任	·		兼任			計	•	
技 様	員		事 務		職	員			J			人			人	
大田 1 1 1 1 1 1 1 1 1	外		技 術		職	員		-	J		-	人		-	人	
の 機	職		図 書 館	専	門職	員	(J		-	人			人	
お	0)		その他	<u>1</u> の	職	員	(-	J		-	人		-	人	
校 図 分 専 用 共 用 共用する他の 計 特別の 計 6,757.50 m 0.00 m				計					J		-	人			人	
技 会 教 地 6,757.50 ㎡ 0.00 ㎡ 0.00 ㎡ 0.00 ㎡ 1 (4 円別間5年 1 年 1 年 1 日 1 日 1 日 1 日 1 日 1 日 1 日 1	校		区 分		専	用					用する化					
事 6,757,50 ㎡ 0.00 ㎡ 0.00 ㎡ 0.00 ㎡ 0.00 ㎡ 0.00 ㎡ 0.00 ㎡ 0.00 ㎡ 0.00 ㎡ 0.00 ㎡ 0.00 ㎡ 0.00 ㎡ 0.00 ㎡ 0.00 ㎡ 0.00 ㎡ 0.00 ㎡ 0.00 ㎡ 0.00 ㎡ 6,757,50 ㎡ 0.00 ㎡ 0.00 ㎡ 6,757,50 ㎡ 0.00 ㎡ 0.00 ㎡ 0.00 ㎡ 6,757,50 ㎡ 0.00 ㎡ 0.00 ㎡ 13,057,71 ㎡ 0.00 ㎡										2	(0.00 m	-	6,	757.50 m²	借用面積6,757.50
英田 人の他 0.00 ㎡ 0.00 ㎡ 0.00 ㎡ 0.00 ㎡ 0.00 ㎡ 6,757.50 ㎡ 0.00 ㎡ 6,757.50 ㎡ 計 0.00 ㎡ 6,757.50 ㎡ 計 日本ののの ㎡ 1,5057.71 ㎡ 13,057.71 ㎡ 0.00 ㎡ 0.00 ㎡ 13,057.71 ㎡ 0.00 ㎡ 13,057.71 ㎡ 1 公 のの ㎡ 1,5057.71 ㎡ 1 公 のの ㎡ 1,5057.71 ㎡ 1 公 のの ㎡ 1,5057.71 ㎡ 1 公 のの ㎡ <td>地</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>_</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>6</td> <td>0.00 m²</td> <td>m'、借用期間5年 (自動更新)</td>	地									_				6	0.00 m ²	m'、借用期間5年 (自動更新)
東 用			その他										-		0.00 m ²	,
技術 大田 大田 学校等の専用 13,057.71 ml 13,057.71 ml (- ml) (- ml)	等		合 計		6, 75	7.50 m²		0.	00 n	_				6,	757.50 m²	
13, 95. / 1 m			校 舎		,	,	共		7		校等の専	押				
教室等 16 室 8 室 13 室 (補助職員 一人) 一室(補助職員 一人) 専任 教 員 研 究 室 切ハビリテーション学部 55 室 図書書 リハビリテーション学部 1 (補助職員 一人) 標本 点 点 点 点 点 点 点 点 点 点 点 点 点 点 点 点 点 点 点					(-	m²)	(_	m²)	(_	m^2)	(_	m²)	
専任教員研究室 新設学部等の名称 (棚切職員 一人) (棚切職員 一人) (棚切職員 一人) (棚切職員 一人) (棚切職員 一人) 室数 数 図書 学術雑誌 電子ジャーナル (規聴覚資料機械・器具標本点点点点点点点点点点点点点点点点点点点点点点点点点点点点点点点点点点点点	教室	包等		字	演習		実制					室			- 室	
9ハミリケーション子前 20書 学術雑誌 (うち外国書) (ラち外国書) (東本 原本 原本 原本 原本 原本 原本 原本			10				新設学			(補	助職員 ·	-人)				
新設学部等の名称	専	任	教 員 研 究	室」	リハビリテ	ーション学	部								55 室	
書・ リハビリテーション 学部 日本 (19,327[325]) 毎 (55) (50[1]) 高 (55) (3,248) 21 (21) (327[325]) 日本 (19,327[325]) (50[1]) (3[1]) (650) (3,248) 21 (21) (3248) 本育館 本育館 本育館 本育館 本育は外のスポーツ施設の概要	図	新言	2学部等の名称					電子	ジャ・	ーナル	視聴覚	資料 機	後械・器	具	標本	
設備 学部 (19, 327[325]) (50[1]) (3[1]) (650) (3, 248) (21) 計 21, 327[325] 50[1] 3[1] 650 3, 248 21 (19, 327[325]) (50[1]) (3[1]) (650) 3, 248 21 (19, 327[325]) (50[1]) (3[1]) (650) 3, 248 21 (3, 248) (21) (3[1]) (650) 3, 248 21 (3, 248) (21) (3[1]) (650) 3, 248 21 (3, 248) (21) (3[1]) (650) 3, 248 21 (473.00 nl 130 ml 50,000 ml 50,000 ml 50,000 ml 50,000 ml 50,000 ml (473.00 nl 130 ml 50,000 ml 50,000 ml 50,000 ml 50,000 ml 50,000 ml 50,000 ml (473.00 nl 130 ml	書				H	}	種		5外[国書]				点		
The color of t	設	-	ビリテーション	(19, 3	27[325])								(3, 248)		(21)	
本育館	備		計													
体育館			図書館		面積			閲	覧座/		莊		収納可			
区分 開設前年度 第1年次 第2年次 第3年次 第4年次 第5年次 第6年次 図書は完成年度まで計画的に整備 教員1人当り研究費等 250千円 250千円 250千円 - 一 で計画的に整備 利 質 図 書 購 入 費 29,600千円 3,600千円 3,900千円 4,000千円 - 一 用は図書購入費に 登が			k - 本始		面積				体			ーツ施詞	没の概要		000	所・運動場10ヶ所
経費 数員1人当り研究費等 250千円 250千円 250千円 - で計画的に整備の見 共 同 研 究 費 等 2,000千円 2,000千円 2,000千円 - 電子ジャーナル費 積り 図 書 購 入 費 29,600千円 3,600千円 3,800千円 3,900千円 4,000千円 - 用は図書購入費に 会む 学生1人当り が				T E	113.34.75.15		b				四 4 万	\h- 3	ケーケッ	T :	笠 c 左 火	
表表 で表示 で表 で表 で表 で表示 で表示 で表示 で表示 で表示 であります。 であります		経			用取削平及								おり干り 一	1	-	
経費の 記稿 第 入 費 208,579千円			/ /- /-		20. 200 7 11											
程員の 見積り 及び維持方法 の概要	火工事								3, 9					+		
持方法 の概要 理学療法学科 1,900千円 1,600千円 1,600千円 - - - 作業療法学科 1,900千円 1,600千円 1,600千円 - - -	見積 及び	り 維	学生1人当り										 年次	第	6年次	
			学療法学科	1,	900千円	1,600千	·円	1,600千	円	1, 60	00千円		_		_	
学生納付金以外の維持方法の概要 経常費等補助金、入学検定料、雑収入等		作	業療法学科	1,	900千円	1,600千	·円	1,600千	円	1, 60	00千円		_		_	
			学生納付金以外	の維持だ	方法の概要	経常費	學等補助金	金、入学	検定	料、雑	収入等					

	大学の名称									
	学 部 等 の 名 称	修業 年限	入学 定員	編入学定 員	収容 定員	学位又 は称号	定 員 超過率	開設 年度	所 在 地	
	臨床福祉専門学校								東京都江東区塩浜2	1
	介護福祉教員養成学科	1.5 年	40 人		80 人		0.00 倍		丁目22番10号	
	言語聴覚療法学科	2	80		160	専門士	0.68	H15		H32年度学生募集停止
	理学療法学科 昼間部	3	80		240	専門士	1.01	H15		H31年度学生募集停止
	理学療法学科 夜間部	4	40		160	専門士	0.84	H15		H31年度学生募集停止
	柔道整復学科	3	60		180	専門士	0.32	H23		H30年度学生募集停止
	日本福祉教育専門学校								東京都新宿区高田馬	
	ソーシャル・ケア学科	4	40		160	高度専門士	0.59	H20	場2丁目16番3号	H31年度学生募集停止
	社会福祉学科	2	35		70	専門士	0.76	H24		H32年度学生募集停止
rm*	介護福祉学科	2	80		160	専門士	0.79	S63		
既設	言語聴覚療法学科	2	38		76	専門士	0.47	H13		
大	社会福祉士養成学科	1	80		80		1.04	H16		
学	社会福祉士養成科	1	80		80		0.93	H12		
等	精神保健福祉士養成学科	1	80		80		0.95	H10		
の	精神保健福祉士養成科	1	80		80		0.59	H11		
状	日本医学柔整鍼灸専門学校								東京都新宿区高田馬	
況	柔道整復学科 昼間部	3	60		180	専門士	0.93	H14	場1丁目18番18号	
	柔道整復学科 夜間部	3	60		180	専門士	0.58	H16		
	鍼灸学科 昼間部	3	60		180	専門士	1.04	H16		
	鍼灸学科 夜間部	3	60		180	専門士	0.78	H14		
	日本児童教育専門学校								東京都新宿区高田馬	
	総合子ども学科	3	40		120	専門士	0.78	H20	場1丁目32番15号	
	保育福祉科 昼間コース	2	120		240	専門士	0.97	H21		
	保育福祉科 夜間主コース	2	80		160	専門士	0.68	H21		
	日本リハビリテーション専門学校								東京都豊島区高田3	
	理学療法学科 昼間部	4	40		160	高度専門士	1.06	H09	丁目6番18号	
	理学療法学科 夜間部	4	40		160	高度専門士	1.03	H12		
	作業療法学科 昼間部	4	35		140	高度専門士	1.05	H12		
	作業療法学科 夜間部	4	35		140	高度専門士	0.97	Н09		
	附属施設の概要 (該	当なし)							•	

学校法人敬心学園 設置認可等に関わる組織変更の移行表

平成32年度	東京保健医療専門職大 リハビリテーション 理学療法学科 作業療法学科 合計	臨床福祉專門学校 <u>介護福祉教員養 言語聴覚療法学</u> 理学療法学科 昼 理学療法学科 極	<u> </u>	日本福祉教育専門学校 ソーシャル・ケア 社会福祉学科 介護福祉学科 言語聴覚療法学 社会福祉士養成 社会福祉士養成 精神保健福祉士	中二	日本医学柔整鍼灸専門 柔道整復学科 昼 柔道整復学科 委 鍼灸学科 昼間 鍼灸学科 昼間 自動灸学科 夜間	日本児童教育専門学材総合子ども学学 総合子とも学学 保育福祉科 昼間 保育福祉科 昼間	日本リハビリテーション理学療法学科 昼理学療法学科 極理学療法学科 極性学療法学科 極作業療法学科 極作業療法学科 個作業療法学科 個合業療法学科 極合計	
or 0 18 19	V 中 C 自	80 160 240 160 180	820	160 70 160 156 80 80 80	866	180 180 180 180 720	120 240 160 520	160 160 140 140 600	3526
= 0 10		40 80 80 60 60	300	40 35 80 78 80 80 80 80	553	60 60 60 60 240	40 120 80 240	40 40 35 35 150	1483
	(大)	7: 2 8 8 8 8 8 8 8 8 8 8 8 8 8 8 8 8 8 8 8		4 2 2 2 1 1 1 1		က က က က	5 2 3	4 4 4 4	仙
平成31年度		臨床福祉專門学校 介護福祉教員養成学科 言語聴覚療法学科 理学療法学科 昼間 理学療法学科 昼間 建学療法学科 夜間	ta (a	日本福祉教育専門学校ソーシャル・ケア学科社会福祉学科社会福祉学科介護福祉学科言語聴覚療法学科社会福祉士養成学科社会福祉士養成学科社会福祉士養成科精神保健福祉士養成科精神保健福祉士養成科	마	日本医学柔整鍼灸専門学校柔道整復学科 昼間柔道整復学科 昼間鍼灸学科 昼間鍼灸学科 昼間鍼灸学科 昼間白魚	日本児童教育専門学校 総合子ども学科 保育福祉科 昼間 保育福祉科 夜間 合計	日本リハビリテーション専門学校理学療法学科 昼間理学療法学科 夜間性業療法学科 夜間作業療法学科 昼間作業療法学科 昼間作業療法学科 昼間合業療法学科 夜間合計	

平成32年度	修業年限	入学定員	収容定員	変更の事由
東京保健医療専門職大学			i i	車門職大学新設
リハビリテーション学部	,	,		
理学療法学科	4	80	320	
作業療法学科	4	80	320	
古		160	640	
11 77 00 11 11 11 11 11 11 11 11 11 11 11 11				
臨床福祉専門字校 				
介護福祉教員養成学科	1.5	0	0	
	2	0	0	平成32年度学生募集停止
理学療法学科 昼間	3	0	0	平成31年度学生募集停止
理学療法学科 夜間	4	0	0	平成31年度学生募集停止
柔道整復学科	က	0	0	平成30年度学生募集停止
 		c		
<u> </u>		-	Þ	
日木短加粉弯車間学校				
コチョウジュル・ファグ	4	C	c	平成31年唐学牛募集停止
なる短が形刻	6	0		一次2.十次十十岁米7.4.1.1.1.1.1.1.1.1.1.1.1.1.1.1.1.1.1.1.
<u>计对面位于次</u> 令罐物等	7 6	0	160	十次22十次十十岁米不上
二成二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二	4 6	200	00 4	
可品物之外之本人的一种的一种人的一种人的一种人的一种人的一种人的一种人的一种人的一种人的一种人	7 +	8 6	000	
在水庙住工领风水存业,有一个一个	_ ,	80	80	
在你备位日使以存弃并与保护的事情,	- ,	080	8 8	
精神保健福祉工養以子科	_	80	08	
精神保健福祉士養成科	_	80	8	
中中		478	636	
日本医学柔整鍼灸専門学校	(Ó		
米坦铵伐子体 母间夹注整化光线	n	09	90	
米道楚伐子科 攸间 法分类权 日間	n (09	08.	
製役子卒 何回	ກ (09	08 1	
鍼灸字科 仮間	33	09	180	
- 1		240	720	
口木旧畜粉弯审用学校				
147年岁日本二十次《令人文法》第	c	Ç	130	
ボロントロント ロタイク ログラング アイファイン ログラング	0 0	5 5	040	
不再估性存 伊司石水村 人名英格兰	7 0	071	240	
保育届祉科 攸間	2	80	160	
中中		240	520	
日本ニンデニャーション 専門学校				
4 1	4	40	160	
エンダグンに 可己田学商学学科 体間	- 4	40	160	
エンダガン こ 欠 記 作業 南洋 沙女 民間	. 4	. v.	140	
作来该位于什 項目作業商注例数 体間	1 4	32	140	
	-	150	009	
a I		2	8	

	•	教 育 課	程		等		の		概		要		4 + + 1 fe	-/15/3	R伶 A 4 桃空)
リハ	ビリテーション	·学部 理学療法学科 	1		単位数	r	ŧ	受業形	能			数員等。	の配置		
	61.11		men vie		平山安		13	X # ///>	実		小口が	ス貝サ	グ配臣		
	科目 区分	授業科目の名称	配当 年次	必	選	自	講	演	験	教	准教	講	助	助	備考
				修	択	由	義	習	実習	授	授	師	教	手	
		敬心における共生論	1前	1			0		П	1					
		心理学 社会学	1前	2			0								兼1
		実務英会話	1前 1前	2			0		0						兼1 兼1
	社会	観光学	2前	-	2		0		0						兼1
		経営学	1前		1		0			1					
		音楽文化論法学	1前・後		2		0								兼1
		国際関係論	1前・後 1前・後		2		0								兼1 兼1
		職業倫理	1前	1	1		0								兼1
		チームワーク概論	1後	1			0			1		1			
	組織	リーダーシップ論	1前		1		0								兼1
1		社会人基礎力コミュニケーション論	1前・後 1前・2前		1 2		0	0							兼1 兼1
基		国際協力論	2前・後		2		0								兼1
礎科		スポーツボランティアI	1前・後		2		0					1			
目	地域・ボラン ティア	スポーツボランティアⅡ	2前・後		1				0			1			→
	/ 1 /	地域ボランティア論 地域防災	1前・後 1前・後		2 2		0								兼1 兼1
		建築・まちづくり	1前	2	2		0								兼1
		統計学序論	1前		2		0					1			1
		統計学	1後	2			0					1			ı
		生物学 物理学	1前	2 2			0			1					兼1
	科学	情報リテラシー	1後 1前・後	2	1		0								兼1
		ICT概論	2前		1		0			1					2
		健康科学	1前・後		2		0								ı
		食と健康	1前・後		1 2		0		0						兼1
		化学 小計(29科目)	1前・後	16	30	0	0	_		5	0	3	0	0	兼1 兼19
		解剖学 I	1前	1			0			1					2012-2
		解剖学Ⅱ	1後	1			0			1					ı
		解剖学実習 生理学 I	1後 1前	1					0	1					1
	人体の構造と	生理学Ⅱ	1 1 1 1 後	1 1			0			1					ı
	機能及び	生理学実習	1後	1					0	1					
	心身の発達	運動学 I	1後	1			0			1					
		運動学Ⅱ	2通	2			0			1					
		運動学実習運動生理学	2後 2前	1 1			0		0			1			1
		人間発達学	1後	1			0					1			兼1
2		病理学	3前	1			0								兼1
職業		臨床心理学	1後	1			0								兼1
専		精神医学 整形外科学	3前 2前	2 2			0								兼1 兼1
門科	疾病と障害の	神経内科学	2前	2			0								兼1
Ħ	成り立ち及び 回復過程の	小児科学	3後	1			0								兼1
	促進	内科学	2後	2			0			1					At-
		老年医学教急救命の基礎	3後 2後	2			0		0						兼1 兼1
		薬理学	3前	1			0			1					袱↓
		栄養学	1後	1			0			L					兼1
		リハビリテーション医学	1前	1			0			1					
		リハビリテーション概論	1前	1			0				1				
	保健医療福祉 とリハビリ	公衆衛生学 地域福祉論	3前 1前	1			0			1					兼1
	テーションの	地域共生のための連携活動 I	3後	2			0					1			兼1 オムニバス
	理念	地域共生のための連携活動Ⅱ	4後	1				0				1			兼2 共同
		予防理学療法	3前		2		0					1			
		リハビリテーション医療工学	3後		1			0							集中

	·	教育課	程		等		の		概		要	Ę			
ΛE	リテーション	ン学部 理学療法学科 			単位数	ά	ž	受業形!	態		専任	教員等	の配置		
	科目区分	授業科目の名称	配当年次	必	選	自	講	演	実験	教	准教	講	助	助	備考
	— %			修	択	由	義	習	実習	授	授	師	教	手	
	# 7H viii 24	基礎理学療法概論	1前	1			0		Ħ	1					
	基礎理学 療法学	理学療法研究法	3前	1				0				1			
)K124-	運動療法学総論	1後	1			0			1					
Ī	理学療法	理学療法管理学 I	2前	1			0					1			
	管理学	理学療法管理学Ⅱ	3後	1			0					1			
		基礎理学療法評価学	1後	2			0			1					
		基礎理学療法評価学実習	1後	1					0			1			
		運動器理学療法評価学	2前	2			0				1				
	理学療法	運動器理学療法評価学実習	2前	1					0			1			
	評価学	神経理学療法評価学	2前	2			0			1					
		神経理学療法評価学実習	2前	1					0	1					
		内部障害理学療法評価学	3前	2			0			1					
		内部障害理学療法評価学実習	3前	1					0	1					
ľ		物理療法学	3後	2			0					1			
		物理療法学実習	3後	1					0			1			
		義肢装具学	3前	2			0			1					
		義肢装具学実習	3前	1			_		0	1					
2		日常生活活動学	2後	2			0		_			1			
哉		日常生活活動学実習	2後	1			_		0			1			
能		運動器理学療法学	2後	2			0		_		1				
専門		運動器理学療法学実習	2後	1			_		0			1			
화	理学療法	神経理学療法学	2後	2			0								
∃	治療学	神経理学療法学実習	2後	1					0						
		内部障害理学療法学	3後	2			0			1					
		内部障害理学療法学実習	3後	1					0	1					
		小児理学療法学	3後	2			0					1			
		高齢者理学療法学	3前	2			0			1					
		スポーツ理学療法学実習	3通	2					0	_		1			
		健康寿命の延伸	3後	1				0		3	1	1			オムニ
		在宅医療・介護の推進	3後	1				0		1	1	3			オムニ
		アスレティックリハビリテーション	3後	1	1			0		-		1			集□
ŀ		生活環境学	3前	1	1		0		1	1		-	<u> </u>		术
	地域理学	地域連携学	3前	1			0			1		1			
	療法学	地域理学療法学	3後	1			0					1			
		被災支援と理学療法	3前	1	2		0					1			兼1
-		見学実習	1後	1			Ť		臨	3	1	11	2		共同 (-
		検査・測定実習	2後	2					臨	4	1	11	2		共同 (-
	臨床実習	評価実習	4前	8					臨	4	1	11	2		共同 (-
	MMV IV A D	総合実習	4前	8					臨	5	1	11	2		共同 (-
		地域実習	46	1					臨	2	1	10	2		共同(-
		小計 (70科目)	41友	101	6	0	!	_	性節	9	1	11	2	<u> </u>	共同 (-

		教 育 課	程		等		の		概		要	Ē				
リハヒ	ビリテーション	学部 理学療法学科			-										1	
	· <u> </u>				単位数	ά	ł	受業形			専任教	 負等	の配置			
	科目 区分	授業科目の名称	配当	必	選	自	講	演	実験	教	准	講	助	助		備考
	巨刃		年次	修	択	由	義	習	実	授	教 授	師	教	手		
	6た人 八甲7	共生社会の展開と実践	3後	1				0	習	2	1				兼9	共同、集中
	統合分野	小計(1科目)	-	1	0	0		_		2	1	0	0	0	兼9	
		共生福祉論	1後	2			0								兼1	
		身体障害への支援システム工学 I 身体障害への支援システム工学 II	2後 3前	2			0	0		1						
		コーチングの理論とスポーツとの連携 I	2後	1	2		0			1					兼1	共同
		コーチングの理論とスポーツとの連携Ⅱ	3前		1			0							兼1	共同
	隣	障害者の社会参加とスポーツの教育的活用 I	2後		2		0				1				兼1	共同
	接	障害者の社会参加とスポーツの教育的活用Ⅱ	3前		1			0			1				兼1	共同
	他 分	ユニバーサルツーリズムと外出支援 I	2後		2		0								兼1	
	野	ユニバーサルツーリズムと外出支援Ⅱ	3前		1			0							兼1	
手話による聴覚障害者とのコミュニケーション 2後 2													1			
③ 展 I 手話による聴覚障害者とのコミュニケーション II 3前 1																
展開		小計 (11科目)	_	5	12	0		_	l	1	1	0	1	0	兼4	
科		実務リーダーのための経営戦略論	1後	2	10	Ť	0			1	-		-	<u> </u>	/IN-1	
目																
	組織	実践マーケティング戦略	2前	2			0			1						
	織の	保健医療経営I	2後	2			0								兼1	
	経	保健医療経営Ⅱ	3前		1		0								兼1	
	マ	実務リーダーのための財務会計Ⅱ	2前		1		0								兼1	
	ネ	ビジネスのための法律	2前		1		0								兼1	
	ジメ	ビジネスのためのIT	2前		1		0								兼1	
	ン	在宅サービスの事業経営 事業計画策定概論	2後 3後		1 2		0								兼1	
	ŀ	総合事業開発	3板 4後		1				0						兼1 兼1	
		小計 (12科目)	-	8	9	0		_	0	2	0	0	0	0	兼8	
		小計 (24科目)	_	14	21	0		_		3	1	0	1	0	兼16	
		理学療法研究基礎ゼミナールⅠ	3前	1	21			0		4	-	6	-	Ů	AKTO	
	4	理学療法研究基礎ゼミナールⅡ	3後	1				0		4		6				
	総合	理学療法研究卒業ゼミナールI	4前	1				0		4		6				
	科	理学療法研究卒業ゼミナールⅡ	4後	1				0		4		6				
	目	小計 (4科目)		4	0	0		_		4	0	6	0	0	0	
		合計 (127科目)	_	135	57	0		_		12	1	11	2	0	兼40	
学	位又は称号	理学療法学士(専門職)			又は常	全科の	分野			保健	衛生学	- 関係	(リハ	・ビリラ		ョン関係)
		卒業要件及び履修方法								1			業期間			
1. 基	礎科目:必修1	6単位 選択4単位以上														
2. 職	業専門科目: 如	必修101単位							1学	年の	学期区	で分				2期
									1-7	1.42	1 /91 ⊏	-/1				2791
		4単位、選択6単位以上			-	_										
隣接他分野の選択科目のうち「コーチングの理論とスポーツとの連携I」、「コーチングの理論とスポーツとの連携II」の2科目3単位または「障害者の社会参加とスポーツの教育的活用 I」、「障害者の社会参加とスポーツの教育的活用 II」の2科目3単位のいずれかを必ず履修し、3単位を修得すること。 1学期の授業期間 15週																
4. 総合科目: 必修4単位																
5. 実験・実習科目から40単位以上																
	5. 実験・美省科目から40単位以上 うち、臨地実務実習から20単位以上															
以上	うち、臨地実務実習から20単位以上 1時限の授業時間 90分 以上、基礎科目20単位、職業専門科目101単位、展開科目20単位、総合科目4単位、合計145単位															

		教 育 課	程		等		の		概		要	Į.				
リハビ	リテーション学部	形 作業療法学科 		ı	単位数	,	ta	受業形!	ble .	1	南バギ	対員等の	の新工器			
	科目		配当						実							
	区分	授業科目の名称	年次	必	選	自	講	演	験・	教	准教	講	助	助	1	備考
				修	択	由	義	習	実習	授	授	師	教	手		
		敬心における共生論 心理学	1前 1前	1 2			0				1				兼1	
		社会学	1前	2			0				1				兼1	
	41. 6	実務英会話	1後	1					0						兼1	
	社会	観光学 経営学	2前 1前		2		0			1						
		音楽文化論	1前・後		2		0			1		1				
		法学	1前・後		2		0								兼1	
		国際関係論職業倫理	1前・後	,	1		0								兼1	
		職業無理 チームワーク概論	1前 1後	1			0				2				兼1	
	組織	リーダーシップ論	1前	_	1		0			1	_					
	市上市政	社会人基礎力	1前・後		1			0							兼1	
① 基		コミュニケーション論 国際協力論	1前・2前		2		0			1					36.4	
礎		国际励力論 スポーツボランティア I	2前・後 1前・後		2		0								兼1 兼1	
科目	地域·	スポーツボランティアⅡ	2前・後		1				0						兼1	
	ボランティア	地域ボランティア論	1前・後		2		0				1					
		地域防災	1前・後		2		0								兼1	
		建築・まちづくり 統計学序論	1前 1前	2	2		0								兼1 兼1	
		統計学	1後	2	2		0								兼1	
		生物学	1前	2			0								兼1	
	科学	物理学	1後	2			0								兼1	
		情報リテラシー ICT概論	1前・後 2前		1 1		0								兼1 兼1	
		健康科学	1前・後		2		0								NK1	
		食と健康	1前・後		1				0						兼1	
		化学 (2021日)	1前・後	10	2	_	0			-					兼1	
		小計 (29科目) 解剖学 I	 1前	16	30	0	0			3	4	1	0	0	兼18	
		解剖学Ⅱ	1後	1			0			1						
		解剖学実習	1後	1					0	1						
		機能解剖学	2前	1			0			1					shife s	
	人体の構造と	生理学 I 生理学 II	1前 1後	1			0								兼1 兼1	
	機能及び 心身の発達	生理学実習	2前	1					0						兼1	
		運動学 I	1後	1			0				2					
		運動学Ⅱ 運動学実習	2前	1			0				2		0			#⊟
		運動生理学	2後 2後	1			0		0	1			3			共同
		人間発達学	1後	1			0			1						
② 職		病理学	2前	1			0								兼1	
業専		臨床心理学 精神医学	1後 2後	2 2			0				1				兼1	
門		整形外科学	2前	2			0								兼1	
科目	疾病と障害の	神経内科学	2後	2			0			1						
	成り立ち及び 回復過程の	小児科学	3前	2			0								兼1	
	促進	内科学	2前	2			0								兼1	
		老年医学教急救命の基礎	3前 2後	2			0		0						兼1 兼1	
		薬理学	3前	1			0			1						
		栄養学	1後	1			0								兼1	
		リハビリテーション医学	3前	1			0								兼1 ※ 1	
	保健医療福祉と	リハビリテーション概論 公衆衛生学	1後 3後	1			0								兼1 兼1	
	リハビリ テーションの理念	14. 14b 1= 1-1-24	1後	1			0				1				>45.4	
	2	地域共生のための連携活動 I	3後	2			0			1		1				オムニバス
		地域共生のための連携活動Ⅱ	4後	1				0			1	1			兼1	共同

11 *	III = 12 = 5 := 5 := 4	教育課	程		等		の		概		要					工业工
リハヒ	リテーション学	部 作業療法学科			単位数	ζ	f	受業形!	態		専任教	枚員等(の配置	:		
	科目		配当	21	NAW.	ф	>##	Neiter	実	+44	V4-	3#k	ш	nı.		ru, la
	区分	授業科目の名称	年次	必	選	自	講	演	験	教	准教	講	助	助		備考
				修	択	由	義	習	実習	授	授	師	教	手		
		作業療法学概論	1前	1			0			1						
	基礎作業 療法学	作業療法学各論	2前	1			0			1						
	源仏子	基礎作業学演習 I 基礎作業学演習 II	1前	1				0			1	,				
	Ma Mikurba VI.		1後	1				0		1		1				-
	作業療法 管理学	作業療法管理学Ⅰ	1前					0		1	1					
	日在丁	作業療法管理学Ⅱ 作業療法評価学概論	4後	1			0			1	1					
			1後	1			0			1						
		身体機能作業療法評価学	2前	1			0			1						
ĺ	作業療法	精神機能作業療法評価学	2前	1			0			1						
	評価学	発達障害作業療法評価学 事	2前	1			0			1						
		高齢期作業療法評価学	2前	1			0			1						
ĺ		高次脳機能作業療法評価学	2後	1			0				1					
ĺ		日常生活活動作業療法評価学	2後	1			0					1				
ĺ		身体機能作業療法治療学 I	3前	1			0				1					
		身体機能作業療法治療学実習 I	3後	1					0				1			
ĺ		身体機能作業療法治療学Ⅱ	3前	1			0		_		1					
		身体機能作業療法治療学実習Ⅱ	3後	1			_		0		1					
		身体機能作業療法治療学Ⅲ	3前	1			0			1						
ĺ		身体機能作業療法治療学実習Ⅲ	3後	1					0		1					
		精神機能作業療法治療学	3前	1			0			1						
		精神機能作業療法治療学実習	3後	1					0	1		1				共同
		発達障害作業療法治療学	3前	1			0			1						
2	作業療法	発達障害作業療法治療学実習	3後	1					0	1						
職業	治療学	高齢期作業療法治療学	3前	1			0					1				
専		高齢期作業療法治療学実習	3後	1					0			1				
門		高次脳機能作業療法治療学	3前	1			0				1					
科		高次脳機能作業療法治療学実習	3後	1					0		1					
目		日常生活活動作業療法治療学	3前	1			0					1				
		日常生活活動作業療法治療学実習	3後	1					0			1				
		日常生活活動支援治療学	3前	1			0			1						
		日常生活活動支援治療学実習	3後	1					0		1					
		健康寿命の延伸	3後	1				0		1	1	2			兼1	オムニバス
		在宅医療・介護の推進	3後	1				0		1	3					オムニバス
		生活行為を支援するための環境整備	3後		1			0			1					集中
		緩和ケアと作業療法	3後		1			0							兼1	
		地域作業療法学	3前	1			0				1					
		就労支援論	3後	1			0			1						
	나타 남아 16~ 개우	生活環境学	3後	1			0				1					
	地域作業 療法学	地域作業療法学実習	4後	1					0		1		5			
	W 177 1	障害児教育と作業療法	3前		1		0								兼1	
		発達・精神障害に対する社会生活力と 作業療法	3前		1			0							兼1	集中
		体験実習 I	1前	1					臨	3	5	3	5			共同 (一部)
		体験実習Ⅱ	1前	1					臨	3	5	3	5			共同 (一部)
		評価実習I	2後	3					臨	5	5	3	5			共同 (一部)
	臨床実習	評価実習Ⅱ	2後	2					臨	5	5	3	5			共同 (一部)
		総合実習 I	4前	9					臨	5	5	3	5			共同(一部)
		総合実習 II	4前	9					臨	5	5	3	5			共同(一部)
		地域実習	4後	2					臨	3	5	3	5			共同 (一部)
		小計(77科目)	-	101	4	-		_	HILL	8	7	3	5	0	兼14	•

リハビリテーション学部 作業療法学科	#3 共同、集中 #3 #1 #1 #1 #1								
経験科目の名称	 兼3 共同、集中 兼3 兼1 兼1 兼1 兼1 								
経験科目の名称	 兼3 共同、集中 兼3 兼1 兼1 兼1 兼1 								
株合分野 大生社会の展開と実践 3後 1 0 0 5 4 0 0 0	兼3 兼1 兼1 兼1								
株主社会の展開と実践 3後 1 0 0 5 4 0 0 0	兼3 兼1 兼1 兼1								
小計 (1科目)	兼3 兼1 兼1 兼1								
コニバーサルツーリズムと外出支援 I 2後 2 1 1 1 2 2 2 3 3 1 2 2 3 3 1 2 2 3 3 1 2 3 3 1 2 3 3 3 3 3 3 3 3 3	兼1 兼1 兼1								
コニバーサルツーリズムと外出支援 3前	兼1 兼1 兼1								
美容ケアによるQOLの維持向上II 2後 2 ○ 1 養客ケアによるQOLの維持向上II 3前 1 ○ 1 音楽療法によるQOLの維持向上II 3前 1 ○ 1 身体障害への支援システム工学 II 2後 2 ○ 身体障害への支援システム工学 II 2後 2 ○ 事話による聴覚障害者とのコミュニケーション II 1 ○ □ 小計 (11科目) - 5 12 ○ - 2 0 1 0 実務リーダーのための経営戦略論 1後 2 ○ 1 1 0 0 組織・人材マネジメントの理論と実践 1後 2 ○ 1 1 0	兼1 兼1 兼1								
接接	兼1 兼1 兼1								
(3) 展開 日本 (1) を表現しているの目の維持向上 I 音楽療法によるQOLの維持向上 II 2後 他 音楽療法によるQOLの維持向上 II 2後 2 9 9 体障害への支援システム工学 I 2後 2 9 9 体障害への支援システム工学 I 2後 2 2 9 9 体障害への支援システム工学 I 2後 2 2 9 9 1 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0	兼1 兼1								
### 1	兼1								
分野 身体障害への支援システム工学 2後 2 0 0 0 0 0 0 0 0 0	兼1								
野 身体障害への支援システム工学II 3前 1 手話による聴覚障害者とのコミュニケーションII 3前 1 小計 (11科目) - 5 12 0 - 2 0 1 0 実務リーダーのための経営戦略論組織・人材マネジメントの理論と実践組織・人材マネジメントの理論と実践経営 I 2 0 1 1 1 経 保健医療経営 I 2後 2 0 1 1 営 実務リーダーのための財務会計 I 1後 1 0 1 学務リーダーのための財務会計 I 16 1 0 1 マ 実務リーダーのための財務会計 I 2前 1 0 マ ジネスのための活 2前 1 0 アジネスのためのIT 2前 1 0 本 ビジネスのための正 2後 1 0 ア テ サービスの事業経営・事業計画策定概論 3後 2 0	兼1								
(3) 展開 押入目 手話による聴覚障害者とのコミュニケーション II									
3 1 1 1 1 1 1 1 1 1	兼1								
展開科目 手話による聴覚障害者とのコミュニ ケーション II 3前 1 ○ 2 0 1 0 0 自用科目 ・ 小計 (11科目) 一 5 12 0 一 2 0 1 0 0 自用科目 ・ 実務リーダーのための経営戦略論 1後 2 2 0 1 <td></td>									
科目 小計 (11科目) - 5 12 0 - 2 0 1 0 0 実務リーダーのための経営戦略論組織・人材マネジメントの理論と実践程識のの保健医療経営 I 保健医療経営 I 保健医療経営 I 2後 2 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0	兼1								
組織・人材マネジメントの理論と実践 1後 2 0 1 1 2 1 1 2 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	兼3								
組 織 の 保健医療経営 I 経 保健医療経営 I 営 実務リーダーのための財務会計 I ・ 実務リーダーのための財務会計 I ・ 実務リーダーのための財務会計 I ・ 実務リーダーのための財務会計 I ・ 実務リーダーのための財務会計 I ・ 実務リーダーのための財務会計 I ・ とジネスのための法律 ・ ビジネスのための活律 ・ ビジネスのためのIT メ 在宅サービスの事業経営 ト 事業計画策定概論	兼1								
織									
の 保健医療経営 I 2後 2 ○ ○ 経 保健医療経営 II 1 0 ○ 1 ○ ○ 1 ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○									
営 実務リーダーのための財務会計 I 1後 1 マ 実務リーダーのための財務会計 II 2前 1 ネ ビジネスのための法律 2前 1 ジ ビジネスのためのIT 2前 1 メ 在宅サービスの事業経営 2後 1 ト 事業計画策定概論 3後 2	兼1								
・ 実務リーダーのための財務会計 II 2前 1 マ ビジネスのための法律 2前 1 ジ ビジネスのためのIT 2前 1 メ 在宅サービスの事業経営 2後 1 ト 事業計画策定概論 3後 2	兼1								
マ マ ネ ビジネスのための法律 ジ ビジネスのためのIT メ 在宅サービスの事業経営 り 2後 事業計画策定概論 3後	兼1								
ジ ビジネスのためのIT 2前 1 ○ メ 在宅サービスの事業経営 2後 1 ○ ト 事業計画策定概論 3後 2 ○	兼1								
メ 在宅サービスの事業経営 2後 1 ○ ト 事業計画策定概論 3後 2 ○	兼1								
→ 事業計画策定概論 3後 2 ○ ○ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □	兼1 兼1								
	兼1								
	兼1								
小計 (12科目) - 8 9 0 - 2 0 0 0 0	兼8								
小計 (24科目) - 14 21 0 - 5 4 1 0 0	兼13								
④ 作業療法研究基礎ゼミナール I 3前 1 ○ 2 5 3									
作業療法研究基礎ゼミナールⅡ3後1○□253									
合 作業療法研究卒業ゼミナール I 4前 1 0 2 5 3									
科 目 作業療法研究卒業ゼミナールⅡ 4後 1 ○ 2 5 3									
가計 (4科目)	0								
合計 (134科目) - 135 55 0 - 11 7 4 5 0	兼42								
学位又は称号 作業療法学士(専門職) 学位又は学科の分野 保健衛生学関係(リハビリ	テーション関係)								
卒業要件及び履修方法 授業期間等									
1. 基礎科目: 必修16単位 選択4単位以上									
1学年の学期区分	2期								
2. 職業専門科目: 必修101単位	2 <i>5</i> 9]								
3. 展開科目:必修14単位、選択6単位以上									
隣接他分野の選択科目のうち「美容ケアによるQOLの維持向上I」、「美容ケアによるQOLの									
維持向上Ⅱ」の2科目3単位または「音楽療法によるQOLの維持向上Ⅰ」、「音楽療法による QOLの維持向上Ⅲ」の2科目3単位のいずれかを必ず履修し、3単位を修得すること。 1学期の授業時間	15週								
4. 総合科目: 必修4単位									
5. 実験・実習科目から40単位以上									
うち、臨地実務実習から27単位以上 1時限の授業時間									
	90分								
以上、基礎科目20単位、職業専門科目101単位、展開科目20単位、総合科目4単位、合計145単位	90分								

11.5	₽ 11 = - ≥ ≥	授業	科 目 の 概 要	
9/	科目	·学部 理学療法学科 	講義等の内容	備考
基礎科目	社会	敬心における共生論	敬心学園の一員として、学園理念「他人を敬い、自らを律し、人々の心をもっとも大切にして、一人ひとりが輝いて生きる社会を創造する」を踏まえ、「共生社会」や「リハビリテーション」さらには「QOL(Quality of life)の向上・獲得」について理解を深める。敬心学園の理事長や大学の学長等、本学のリーダーから、「理念」や「養成する人材像」について、直接学ぶ機会を設け、その真意について学ぶ。 共生社会における自らの役割について考える。	
基礎科目	社 会	心理学	心理学は、全ての専門職の基礎となるコア学問である。心理学では、専門職業人として心理学を学ぶ学生に対し、心理学とはどのような学問で、どのようなことが研究され、どのようなことが明らかにされてきたのか、そしてそれが私たちの日常生活や職業生活にどのように関係するのかについて学ぶ。また、心理学的知見を自己理解や他者理解、障がいを持った患者の心理の理解や精神的健康の維持・促進のために応用できることを目標とする。具体的には、授業は、知覚心理学、学習心理学、認知心理学、動機づけ・感情心理学、人格心理学、発達心理学分野における代表的な心理学実験などを模擬的に体験することを通して学ぶ。	
基礎科目	社 会	社会学	この授業では、受講者が社会学の基礎的な理論や概念を学び理解するとともに、実社会におけるさまざまな現象や問題を考える視座を獲得することを目標とする。テーマは、自己、人間関係、家族、ライフコースといった身近に経験されるものを中心としつつ、その背景にある現代の社会・政治問題や、参照軸としての歴史や海外の状況まで幅広い視野を得られるような構成とする。受講者は、社会のなかで「これが当たり前」とされていることを定式通りに考えるのではなく、それに疑問を感じ、新たな視点や切り口でその問題を考え直し、社会学的な見方で考察できるようになることが求められる。講義を中心とするが、可能な限りグループワーク等も積極的に取り入れる。	
基礎科目	社 会	実務英会話	近年、グローバル化の波が、福祉の分野にも押し寄せつつある。そうしたことから、英語コミュニケーション能力を高めるため、保健 医療福祉の様々な状況の場面を設定した教材を用いて学習をすすめる。それぞれのユニットの登場人物となり実際に演じることにより 将来実際に起こりうる場面でも活用されることを期待している。また、ダイアログやエクササイズから保健医療に関する専門用語などを覚え、関連表現を学び現場で役立つ英会話力を身につける。 授業 はテーマと場面設定等を複数提示し、それに応じたペア、グループ などを組み、英語でコミュニケーションをとりあうことを重ね、実践に役立てられる英会話力を身につけることを目指す。また福祉英語検定への挑戦の機会としたい。	
基礎科目	社会	観光学	国を挙げて力を入れている観光・ツーリズムとはなにか、基本的なものを学ぶ。 移動・交流に係る観光を支える産業(旅行、宿泊、観光産業等)の特性や事業の仕組みについて、及び、日本各地の観光振興事業等、観光客を受け入れる地域の様々な取り組みなどについて学ぶ。また、OTA(オンライントラベルエージェント)、インバウンド(訪日外国人旅行)、民泊など、近年の動向についてもとりあげる。	
基礎科目	社会	経営学	経営について初めて学ぶ学生が興味を持てるように、経営学の基礎的な内容を、実務家教員がビジネスパーソンとして直面した経験・事例の紹介を交え、実践的な授業を行う。経営者・マネジメント層の役割について解説する。ヒト・モノ・カネ・情報あるいは昨今注目されるデザインといった側面から経営の基礎について分かり易く解説する。理論的な解説を土台にしつつ、学生自らが主体的に調査し、議論するプロセスを重視する観点から、グループディスカッション及びプレゼンテーションの機会を設け、実践的な学びの場を提供する。	
基礎科目	社 会	音楽文化論	音楽は趣味として楽しむだけでなく生活の中の様々な場面で活用されており、保健医療の現場も例外ではない。生物と人類の歴史の中で音楽はどのように生まれ、どのような社会的機能を果たしてきたのか、様々な文化の中でどのように発展し、また変容してきたのかを、民族音楽学・音楽人類学・音楽社会学の視点から、西洋音楽・ポピュラー音楽・日本の音楽の歴史を通して見てゆく。最後に、保健医療の現場での音楽の活用例について紹介する。	

		授	業科	目	Ø	概	要	
リハ	ビリテーション	学部 理学療法学科						T
	科目 区分	授業科目の名		Ē	講義等の内容			備考
基礎科目	社会	法学	おける身近な 講義する。具 ブル、犯罪行 その中で、憲 て必要とされ 生の関心が高	事例を通して、 体的には、毎 為、パワハラ 法、民法、刑	法律の基礎 回のを を いた は いた の の と 、 労働 は る 基本 の る 基本 の の と の の は の り の は り の は る し る し る し る る と る る と る る を る を る を る を る を る を る	知識や原則 いの と 基 養 を 身 を 身 で の 番 を 身 で の る で の る で の る を 身 で の る る る る る る る る る る る る る る る る る る	し、社会人とし ける。また、学 (事例も取り上	
基礎科目	社会	国際関係論	今日の国際社 毎の国際 一の国際 一の解決 一の形 一の形 一の形 一の形 一の形 一の形 一の形 一の形	会がは、大きないでは、大きないでは、大きないのでは、ないのではないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのではないのでは、ないのでは、ないのではないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは	諸会・では、 題におりない。 をこれでは、 でするでは、 でするでは、 でするでは、 できるが、ないまない。 できるが、ないまない。 できるが、ないまない。 できるが、ないまない。 できるが、ないまない。 できるが、ないまない。 できるが、ないまない。 できるが、ないまない。 できるが、ないまない。 できるが、これが、これが、これが、これが、これが、これが、これが、これが、これが、これ	で で で で の の の の の の の の の の の の の	を理解し、1つ1 日本の食料自給)食卓が他国の生 が議論されるの 来に向けてどの	
基礎科目	組織	職業倫理	められる倫理 規範のことでいる。 医療 とで個人 課せられていて 働いていく	!」のことをい : あり、多くの取 : 祉に係る限り、 情報を得ること : る。仕事に従	う。職業人と 職業人と 業能団体が職 とができる仕 事する人最新の れる。最新の	しての行動 業倫理を定 人情報を得 事には、す ひとりが、	たは職業人に求 力を律する基準・ とが、明とが私 きることが秘義務が、 職業倫理を持っ も題材にして、	
基礎科目	組織	チームワーク概論	ら、のよう 大のよう 大のよう 大のよう 大のよう 大のよう 大のよう 大のまる 大の表し、 後の表し、 後の表し、 後の表し、 後の表し、 後の表し、 後の表し、 はのまるので、 はのまるで、 はのまるで、 はのまるで、 はのまるで、 はのなで、	その家族の生活を活用し場で、 を活用し場でで、 医療の現場高まで、 必要性がのとに、 を理解し、本学のための連携が、 のための連携が、	舌支援の 大 受視れて 大 で 大 で た り 、 で の で の で の で の で の で の で の で の の の の	にでチ携多り間に多あーを職るム念種・連ののでき職・である。と頭連シ携げると頭がある。	門性を持会は 講義り 明性を おび源義して、 は の で と 表 の で と 表 の で と 表 の で と 表 の で と と を 目 を を と と を 目 ま な と と を 目 ま な と と を 目 ま な と と を 目 ま な と と を 目 で よ と と を 目 で よ か こ こ と	
基礎科目	組織	リーダーシップ論	医療現場では たっている。 は、従来のよ 援するリーダ の二大機能で	そういった組結 うな統率型だい ーシップ」が3	哉でリーダー けではなく、 求められる。 幾能と課題達	シップを発 「チームと そのために 成の二大機	個人の成長を支 リーダーシップ 能を理解し、支	
基礎科目	組織	社会人基礎力	ニケーション Face to Face はでいるではない。 代から「前にカー に12のまりコー すのにカー かにカー かにカー たい。 でありコー たい。 でありコー たい。 でありコー たい。 でありコー たい。 でありコー たい。 でありコー たい。 でありコー たい。 でありました。 でありました。 でありました。 では、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これ	である。近年、の心を添わせたの心を添わせた。自発的ることがいることがいる。とがいる。とがいる。本でリーので、表表を授り、一ので、表表をでした。	SNSの発達に たコニケーの カコニケール。カリニューションの をユニシーの をフェーシーの カリーの	エより 利 シ シ シ 能 産 チ で に ま を ま ま ま ま ま ま ま ま ま ま ま ま ま	の一つがコミュ 生は高まったが ぶ不足しているでは学生に があるには学生の が働く力」を基間 材の養成を積極 対な授業」を積極 はたおける はたおける	

		授	業	科	B	Ø	概	要	
リハ		学部 理学療法:	学科						
	科目 区分 	授業科目の				講義等の内容			備考
基礎科目	組織	コミュニケーシ	ョン論	多様性のある ケーション人 多くの人を阻む ションを阻む について体験	人材が集まるし ールルを発いる。 要因を手掛か 的に学び、活 効果的に解決	組織や職場の てこの に、この に、 はに きるよう に きるよう	の中では、こ コミュニケム では、友子的 コニケーショ うにする。さ	われる。そして れだけつの問題な ショミュ ショミュ シの主要なな シのに様だく いただく ことを いただく	
基礎科目	組織	国際協力論		日本政府の政の の具体的な事 いて解説する た共生社会で 世界各国での	女府開発援助 「例を元に、国 。さらに、「 づくり(CBID) OCBIDの展開『	(ODA) 、 際協力におい 国際関係論」 」につい 事例を取り_	記間の国際協 する参加型開 で教授した て、より専門 とげ、そのき	向を理解する。 力や国際交流等の手法にの 発等の手法にも 「地域に根がありいい。 かいけ、活動内 ための考え方を	
基礎科目	地域・ボランティア	スポーツボラン	ティア I	かを学ぶ。さ で 理解を 下 深を に で 深を で で で で で で で で で で で で で で で で で	まざまな領域はない。者解いてはいい、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、	で行われてい 値、意義、イポーンで、 があるで、 である。 で、 で、 で、 で、 で、 で、 で、 で、 で、 で、 で、 で、 で、	いるボランテ と割、実際 を割すする でがでいる でがでいる でのの での での での での の の に の の に の の に の に の の に の の に の の に の の に の の に の の に の の に の の の に の の の に の の の の の に の の の の の の の の の の の の の	のためにするの にする通い 活動等に地域実際障が 割かし、将かい を生して を関わなるのが をとして も関わなるのがに	
基礎科目	地域・ボランティア	スポーツボラン	ティアⅡ	がスポーツイ て参加く、実現す はな会を実り返 後、板中で実践 がスポーツを	ベントの運営 スポーツイベ い者の「社会 るために何が のグループデ 力や応用力の レクリエーシ	に関わる機会 ントを「場」で 参加の場」で 必要かを体 マスカッシに で で で で で で で で で で の で の で の り で の り で り で	会を設け、ぶで をを設け、とけいという。 をの位置に学いない。 はいないでではない。 できないできない。 できないできないできない。 できない。 とっと。 とっと。 とっと。 とっと。 とっと。 とっと。 とっと。 とっ	様々な知見に触 障がいのある人	
基礎科目	地域・ボランティア	地域ボランティ	ア論	義や課題等に 理解、欧米と ボランティア 相違等を理解 ングについる いかせている かせどのよう	ついて多角的 日本の先進事 活動の先継来の の理解・いる ランテできるか とができるか	に考察する。 できない できない できる できる できる できる できる できる できる できる できる かい できる かい できる かい	「ボランタ する記 うるい で で で で で で で で で で で で で で で で で で で	におけるその意の リズム」の比較、 助実態の活動の ービス・柱の一円 再関に展開して うにター地域ボラン る。	
基礎科目	地域・ボランティア	地域防災		ちづくり等、 の災害のと でいりで でいりで でいりで ではいりで ではいりで でいりで でいりで でい	地域防災の理 、災害の地域 る。後半では 概念、学校り 自治体の事例 体験ワークシ	論と実 実 実 族 り に 災 ち に 災 り に 災 り に り の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に に の に に に で で に で に で に で に で に で に に で に に に に に に に に に に に に に	ついて学ぶ。 でいて学ぶ。 でいまでのとう でいるでいる。 でいるではいいでいる。 では、 でいるでいるでは、 でいるで。 とっと。 でいる でいるでは、 でいるでは、 とっと。 でいるでは、 とっと。 でいるでは、 とっと。 でいるでは、 とっと。 とっと。 とっと。 とっと。 と。 と。 と。 と。 と。 と。 と。 と。 と。 と。 と。 と。 と	による防災の日本 前援行で政の日本 接行で政の中地域の シャ活動地域の が、 が、 が、 が、 が、 が、 が、 が、 が、 が、 が、 が、 が、	

		授	業	科	目	Ø	概	要	
リハ	<mark>ビリテーション</mark> 科目 区分	·学部 理学療法学 授業科目の				講義等の内容			備考
基礎科目	科学	建築・まちづくり		建築についてに、では、これで、で、で、で、で、で、で、で、で、で、で、で、で、で、で、で、で、で、で	計はおいていまないのはいいでは、まないでは、おいでは、おおいでは、ないでは、ないでは、ないでは、ないでは、ないでは、ないでは、ないでは、な	設計や建築記れいや建築記れいで都市基盤の、、基盤の方は、基盤の方は、基盤の方は、基盤の方は、基盤の方に、は地域のマギー	十画の基本を 記り事の基本を 記り事を開いる でした でした でした でした でした でした でした でした でした でした	学ぶとともいれた。 都市計画の表 方の主体のあり、 ど専門科目の 公共空間の和	こ近 基本 ング方 と の 利活
基礎科目	科学	統計学序論		や研究の分野 計に考察でい に考察できるよ 学ぶ。なお、	携わるでに、るのでは、 で礎的な要ながまれた。 ないので知識があるでのでのでのでのでいいでいい。 ないでのでのでいいでいる。 ないのでではいいできない。 はいいではいいできない。 はいいではいいできない。 はいいではいいではいいできない。 はいいではいいではいいできない。 はいいではいいではいいできない。 はいいではいいではいいではいいではいいではいいではいいではいいではいいではいい	。特に統計等 修得と技能の てるとともに 方、考え方、 ・統計を学る	学を学ぶにあ つ習熟を図り こ、数学的な 応用と具体 ぶ者にとって	たり確率及び 、事象を数さ 見方や考える 的な計算方法	が統 学的 けを 去を
基礎科目	科学	統計学		解析手めび学の解手のではない。	仮説を示されている。 仮ら、る。 がまる。 はよりがをできる。 はないでもな。 はないでもなでもなでもなでもなでもなでもなでもなでもなでもなでもなでもなでもなでもなで	実を発見した データの整見 で率、母的に対 は統計ソフト を理解できる	とりするとき 型の仕方は 型、標本 推定、検 を Rコマンダ るようにする	に役立つ統言 均、分散等る 、確率分布を いった推測系 一を使用し、	+的 シ求 シ学 充計 結
基礎科目	科 学	生物学		その特性や機 源、生物の多 動物の社会、 かわりを学修	個々の生物の 構を分子レベ 様化、ヒトの 生態系のエネ する。最後に による環境へ	ルに至るまで 起源と進化を ルギーの流れ 、地球環境と	ご学修する。 と学び、次に 1を学び、生 ことトとの共	さらに生命の 、生物の集団 物と環境との	D起 団、 Dか
基礎科目	科学	物理学		利用する上で理場では、これでは、これでは、これでは、これでは、これではがない。これには、これではがないが、題材としたデ	科学の学の 中間の 中間の 中間の 中間の は日理を は明理を は明れて にある にある にある にある にある にある にある にある	ある。 今回 前 が い に と が で る 無 理 は が で を に と が て 履 し に を る に り に を り に を り を り を り を を を り を を を を	は物理学の記 関域を中心に あり、入学い を、入学る。 をできる予定で でる予定で	諸領域の中で 講義を展開っ 簡単な実験い に物理学に対 業は自然科 あり、アクラ	も けこ
基礎科目	科学	情報リテラシー		速に普及し、 系科目の基盤 組みと効果的 情報分野の基	とインターネ 生とだとて、 生として、方、 をして、方、を で、方、と を概念と を でいず が、 でいず が、 が、 が、 が、 が、 が、 が、 が、 が、 が、	スの仕組みを ピュータとイ キュリティの 用語の正確な	と大きく変え インターネッ つ課題と対策 は理解、情報	た。今後の作 トの基本的な を中心に学 システムの	青報 公仕 ぶ。 基本
基礎科目	科学	ICT概論		Things) に焦 な適応事例と て学ぶ。 次に、ICTの過 ついて、省力	るものとして/ 点を当て、AI してのスマホ 進化による医療 化とQOLの向」 における考察	とともに、そ アプリや音声 寮福祉分野に 上の観点から	その特徴と今 言認識サービ おける今後 、同分野に	後の動向を身 スの体験を追 の活用見込み	 第近 通し に
基礎科目	科 学	健康科学		式では、生活 素である運動	食、不規則な 習慣病のリス 、栄養、休養 進するために る。	クが大きくた を中心に講拿	よっている。 衰し、対象者	健康作りの: や自分自身の	3 要 ② ② ② ② ② ③ ③ ③ ③ ③ ③ ③ ③ ③ ③ ③ ③ ③ ③

		授	業	科 目	Ø	概	要	
リハ	<u>ビリテーション</u> 科目 区分	学部 理学療法 授業科目(講義等の内容	 容		備考
基礎科目	科学	食と健康	こと 氾濫習 進 また、	を目的とする。 する様々な情報が 得することでがう ていく力を養う。 、食事の在り方や	の観点から「健康」 いら適切な知識を表 ランスの良い食生活 や留意点などの基础 きる能力を習得する	選択し、活用 舌を実践し、 と と と と と は が は が は が は が に が が に が に が に が に が に が に が に が に が に が に が が に に に に に に に に に に に に に	していくスキル 健康を維持・増	
基礎科目	科学	化学	で我学を種質のたと	り、様々の有用なの体内で起こる核 の体内で起こる核 諸領域の中から、 開する。化学では 関連を持っている ちの相互の関係を	生質さらにそれららまから、貝様なな現象を説明で関わり、貝様なな現象を説明で基礎となってラボラムということを認いといいに必ないに見ないにかないに対するといかにかないに見れば、	興味深い理論 けると無で と学と見える性 ますることが 異で統一的に	体系を持ち、 ある。今回は講 質が、にはある 大切であり、物 理解するかとい	
職業専門科目	人体の構造と機能及び	解剖学 I	る保続にはいる 保続に おいま おいま おいま おいま かいま かいま かいま かいま かいま かいま かいま かいま かいま か	節からなる骨格系などに関与する系血管およびリンパの のではいないが肝臓や膵臓などれている。この がはこの後に学ぶりしたなる重要なのした。	さまな形作に作物400個の一体筋ができた。それらの個の一体筋ができた。 できたが、できた。 できた。 できた。 できた。 できた。 できた。 できた。 できた。	対着して身体 が すらかななななどが ととを を と を き) で は り が と を が よ る な る な る な る な る な る な る な る な る な る	の運動や姿勢の 、心臓とそれに 環器系、胃や腸 合計10の系統で 解剖学であり、 理学などの科目 体を構成する10	
職業専門科目	び心身の発達人体の構造と機能及	解剖学Ⅱ	神経 衡聴 尿器 構造 学び 受け;	および自律神経系覚器、皮膚)、お系、生殖器系、内心ので学修する。	(脳と脊髄からなる 系からなる末梢神線 および内臓と呼ばれ 対分泌系の合計 7 9 5。これらの系統で が人体のその位置し ジ成される先天性を トる。	至系) と感覚 れる消化器系 系統の構造を では始めにそ こあるかなど	器(視覚器、平 、呼吸器系、泌 肉眼および微細 の器官の発生を 、胎児の時期に	
職業専門科目	び心身の発達人体の構造と機能及	解剖学実習	識を 教材 通また ける する	実際の骨・筋の 等により、「見る て理解を深める。 、学生同士による 筋・骨・内臓器や	詳Ⅰ」「解剖学Ⅱ」 ○人体標本やプレル 6」「触る」「動から 6 視診・触診・聴き ○感覚器等の部位を 3 体構造」と合わせ トる。	ペラート標本 いす」等の学	、DVD等の視覚 生自身の体験を より、人体にお 大きさ等を体験	
職業専門科目	人体の構造と機能及び	生理学 I	一内系つ性は化観点 (化観点)	各細胞・組織・岩 関与する部分は生 節機構の概説に対 胞の性質、興奮を 子レベルから、心 それぞれは器官と から代謝について	常機能について研究 機能に個体維持に扱い 長理学Ⅲ細胞膜の 台まり、細胞間の情報 会議をの機能を はい はい はい はい はい はい はい はい はい はい はい はい はい	る ・ ・ ・ け 、 ・ し ・ け 、 に に に ま に で に で に に で に で に に で に で に で に に で に に に に で に に に に に に に に に に に に に	理解する。神経では、生体の特 をは、生体の特 を を が が が が は 様 に い い に い に い に い に い い に い に い に い に	
職業専門科目	人体の構造と機能及び	生理学Ⅱ	なか 神経と 成 覚 の 出 ら と い と い さ と い こ と い ろ ら と い と い と い と い と と い と い と い と い と い	った神経系を中心系)、 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	常機能について学術 心に学修する。末村 系(大脳皮質からま 本性感覚と特殊感動 下で現代と情報のは 睡夜に記憶のても、 免の。講義だけでに ることで理解を促っ	ド神経系(体の 管 体 を は で を で に で に で に に の に に の に に の に に に に に に に に に に に に に	性神経系、自律 ニュリの ・ は ・ は ・ は り の り で り で り で り で り で り で り で り で り で	

		授	業	科	目	Ø	概	要	
リハ	ビリテーション	学部 理学療法学	学科						1
	科目 区分	授業科目の)名称			講義等の内容	容		備考
職業専門科目	人体の構造と機能及び	生理学実習		データを取り データを 関い で で で で で で で で で で で で で で で で で で	まとめるためるための理がである。 医したの ととり という という という という という は 持機 析等 を は ない かい	の最小限の総 的なレベルだ 体の持つ統領 の測定原理だ となるバイク 申経伝導速度	統計処理方法 いら前庭動眼 即メカニズの いらその取り マルサインの の計測、筋	学修する。実験を学習し、浸透り 反射に至る個体について実験を 扱い方法を学習 計測、体力と分 計動の記録とのでも まましたができます。	を 本 ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・
職業専門科目	及び心身の発達人体の構造と機能	運動学 I	, :	度、また重力 義により学ぶ 本科目の内容 うな基礎代謝	や時間的な変。 は、力学的な は、呼吸・循環 とを解剖学・	位などの基本 基盤とともに 、疲労等を含	的な知識を こ、運動生理 るみ、人間が	要なトルクや近中心として、記学につながる。運動する(動ながら、理解で	5
職業専門科目	び心身の発達の発達を機能及	運動学Ⅱ] ;	動(動き)をしかる。 動動を統の内では、 動動ををしている。 動いるが、 動いるが、 のいるが、	理解する上で た観点から運 は、静止姿勢 ージを、座位 り・歩行とい	必要な時間自 動につい連絡 や立を動を立り ・たを 動する(動する)	内な連続り は は は は は た と と き き き き き き き き き き き き き き き き き	いう視点での過 持調節、寝返 結果の運動(重 とを解剖学・2	节 重 功
職業専門科目	人体の構造と機能及び心	運動学実習		の知識を基盤 ように調(動) 「運動(からながながなり、 ながかがい。 ながかがいる。 ないないでは、 でいるがいます。 でいるがいといるがいます。 でいるがいます。 でいるがいます。 でいるがいます。 でいるがいます。 でいるがいます。 でいるがい。 でいるがい。 でいるが、 でい。 でいるが、 でい。 でいるが、 でい。 でいるが、 でい。 でい。 でい。 でい。 でい。 でい。 でい。 でい。 でい。 でい。	とて、「ない」に、「かい」に、のかいでは、運動生産の動性が、運動が、は、重要が、重要が、は、重要が、重要が、動物が、動物が、動物が、	動」がどの。 どのように見 ついて学生同 学の講義内名 等を題材とし 器や反力計等	こうにして起いて起いています。 とうにしてき いいかい はいい はいい はい	だ運動学の講覧とこるのか、どの 等の観点から、 習等により学に加えて、動作 生によるである。 「運動(動き」	10000000000000000000000000000000000000
職業専門科目	び心身の発達人体の構造と機能及	運動生理学	: 	践に結び付く に着目した内 本科目の内容 「運動と循環 む)」「運動	実験的な体験 ような講動に を講動に着 機能」「運動	による理解を運動(動きを観点) とのできる (動きを) といる (動きを) といる (はない) という (はない) といない) という (はない) といい) といい (はない) といい) といい (はない) といい) といい (はない) といい) と	を基盤として ことによる いら、「運動 「運動と栄養	知識と「生理性 、理学療法の多 生理学的な機能」 と呼吸機能」 :(消化と吸収を ・一マを設定し	נגנג אמן
職業専門科目	及び心身の発達人体の構造と機能	人間発達学		を発達(広義 て、講後化 でまなイクルと 成人期以降の)に捉えて、 じて学ぶ。特 退行による課 いう観点から	運動発達と*に、成人から題も一連の対人関係などについての	精神心理的なっ を年期、終れとしったといった。 でいるといったといったといったといったといった。 おおれた。 おおれた。 おおれた。 おおれた。 おおれた。 おれた。 おれ	から終末期まっ 発達を中心とし 未期では、さき えることやラッ ・一ション、まり しての一生涯さ	
職業専門科目	立ち及び回復過程疾病と障害の成り	病理学		論を基盤に「 についての基 内容としては パラートなど	正常な状態」 本的な考えを 、解剖学や生 の病理標本等	から逸脱した 、講義により 理学の基本的 を観察するこ	c状態という) 学ぶ。 内知識を踏ま ことで、病気	、組織学的な3 「病気」の原[:えながら、プ ((疾患・疾病 足解することを	因

		授	業	科	目	Ø	概	要	
リハ	<u>ビリテーション</u> 科目 区分	学部 理学療法等 授業科目の				講義等の内容	容		備考
職業専門科目	ち及び回復過程の促 疾病と障害の成り立	臨床心理学		なる学問であるためには、 る。具体的に 実践において しての傾聴技	る。患者の二 臨床心理学の は、フロイト 必須であると 法や共感技法 心理療法の基	ーズを的確し 知識と対人 精神分析学の 考えられる などのカウン	こ把握し、息 爰助スキルに の基礎や認知 コジャーズの ンセリングも	の基礎(コア)と 患者から信頼され は必要不可欠であ 即行動療法、医療 の対人援助技法と を法から各種心理 について、座	
職業専門科目	立ち及び回復過程疾病と障害の成り	精神医学		等の疾患疾病 心理的な疾患 内容としてさい の読影を含む もに、精神心	による病理や 疾病(認知症 、診断のため)、治療学と	治療法に当た を含む)に の各種検査 しての行動が ら表出する行	たる各論を中 ついて、講 き とその結果の 療法やその他 「動に対して	器質性・気分障害 可として学ぶ。 でではないではないではないではないではないではないではないではないではないではな	
職業専門科目	及び回復過程の促進疾病と障害の成り立ち	整形外科学		による各論に 傷、脊髄損論 治療の延伸と 内容として 等の読影を 療法につい	より、理学療等の神経障害 ついて、またの関係につい、診断学のうむ) や観血的	法の対象とが 、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、	なりやすい情気をといればいます。というないではいます。これではいいます。これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、	論と各身体部位等計がや筋・腱損 可断などの診断とコームなどと健康 コームなどと健康 ラ(X線、CTやMRI この他の保存的治 対り扱う。	
職業専門科目	ち及び回復過程の促 疾病と障害の成り立	神経内科学		断(検査を含 (認知における (関域にしている 大容と含む) なお、脳血管	む)等の総論 む)等の診断 疾患疾病の在 、診断学のう や投薬等の治	と脳血管疾患 と治療のの に宅医療につい ち各種検査 療方法につい 傷等に起因	も、神経・船論につい講義をおきまままままままままままままままままままままままままままままままままままま	f (CTやMRI等の)。 後能障害や認知症	
職業専門科目	及び回復過程の促進疾病と障害の成り立ち	小児科学		齢期に発症等 総論と感染、 内容ととして MRI、としの他の てなる。 は理解、新生児 にない た年齢に因ら	による疾患疾 代謝、神経・ 通じて学ぶ。 、診断学のう の発達学的諸 期に関連する	病の発現機所 筋等の疾患が ち各種検査の 検査を含む) 周産期や胎り ことする場合の	字等の診断 疾病の診断と の結果の考え や投薬等の 見期からの第 の背年期や成	を中心とした年 (検査含む)等の 治療の各論につ た方(X線、CTや 治療方法につい き色体異常等、ま 文人期等の対象に	
職業専門科目	ち及び回復過程の促 疾病と障害の成り立	内科学		査を含む)等 診断と治療の 内容としては 生化、X線、C る。 特に、糖尿病	の総論と呼吸 各論について 、診断学のう T・MRI等を含	器・循環器 、講義を通り ち各種検査の む)や投薬等 生活習慣病等	・消化器・代じて学ぶ。 の結果とその 等の治療方法 等、その危険	等による診断(検 大謝・感染症等の の考え方(血清・ たについて理解す を因子等の理解に 目で取り扱う。	
職業専門科目	及び回復過程の促進疾病と障害の成り立ち	老年医学		する疾患を病心 な疾患をたぶ。 で容評価、 にTや にTや がんに がんに	の発現機序等 とするほか、 イルなど健康 、診断学のう MRI等を含む)	による診断 認知症を含め 寿命の延伸の ち各種検査の や投薬等の 期や緩和ケン	(検査を含む めた診断と沿 の阻害要因な の結果とその 治療方法に アの考え方や	医的変化を主変と の)等の各論とと なども、講義を の考え方(認知機 のおたて理解す の見取り、健康寿	

		授	業	科	目	Ø	概	要	- 未况俗八4袱生)
リハロ	-	学部 理学療法学	学科	1				T	
	科目 区分	授業科目の)名称			講義等の内容	3		備考
職業専門科目	過程の促進 り立ち及び回復 疾病と障害の成	救急救命の基礎		につけるべき 内容としては マッサージ、	対応を、実技 、ABCDEアプ AEDの取扱い (安全確保)	(実習)を通 ローチ、気道 等のほか、外 や搬送法等を	自じて学ぶ。 の確保、人 傷の応急手 体験するこ	ンて、一般的に身 工呼吸、心臓 当(止血法)、 ととで、救急救命	
職業専門科目	ち及び回復過程の促 疾病と障害の成り立	薬理学		のような影響 を、講義を通 内容とは いった臓器別 害事象につい	を与えるのか じて学ぶ。 、炎症、免疫 、腫瘍等の疾 ても理解する では、最近の	いという効果の で代謝等の症 患疾病等に対	機序等の基 同因別、呼吸 けする効果の	生体に対してど 生本的な考え方 と器・循環器と 砂機序とともに有 川訴訟等について	
職業専門科目	及び回復過程の促進疾病と障害の成り立ち	栄養学		で代謝として疾病として疾法過程をめずる大態・活動者を対象を対象を対象を対象を対象を対象を対象を対象を対象を対象を対象を対象を対象を	エネルギーを する多くの傾り し、リハビリ ぶことが必要 素摂取の方法 社会参加、 。また、疾患	・取る。食事場 原状態の重型に である。積極 である。理様 でを維持を理解 の上を最大限場 のの予防や治場	E E E E E E E E E E E E E E	をを接取した。 をを要求で をを受ける。 をを受ける。 をを受ける。 をでいる。 をでいる。 をでいる。 をでいる。 をでいる。 をでいる。 をでいる。 をでいる。 をでいる。 をでいる。 をでいる。 をでいる。 をでいる。 をでいる。 をでいる。 をでいる。 をはる。 をはる。 をはる。 をはる。 をはる。 をはる。 をはる。 をはる。 をはる。 をはる。 をはる。 をはる。 はる。 はる。 はる。 はる。 はる。 はる。 はる。	
職業専門科目	リテーションの理念保健医療福祉とリハビ	リハビリテーシ	ョン医学	のうち、「医 外傷等に(検査 る障害の診断 内容としてむ)や治療方	学的リハビリ きまさか)等 を含療の と治療の と治療に 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、	テーション」、 (書に対対対象とは について象とは についてを にな各種検理は 禁忌のうち	を中心とまの そする疾患じて は な線、CTや 療法 動負荷の程 動力	MRIの読影を含 毎聴覚療法等に対 B度や運動・動作	
職業専門科目	ハビリテー ションの理念	リハビリテーシ	ョン概論	ションやIL(と日本のリハ また、関連す のようなこと	(Independent バビリテーショ つるさまざまな をしているの 等について知	living:自立 ンの考え方の 職種が、どの か、またどの	(生活) のき)相違などを)ような定義)ような場所	よノーマライゼー 考え方、また欧米 と学ぶ。 とに基づいて、ど 所(施設等)で働 月性と他職種の専	
職業専門科目	ハビリテー ション の理念 の理念	公衆衞生学		等の幅広い領身の健康の維 内容としては による早期発 めた健康寿命 る。	域を持つ公衆 持・向上を図 、生活習慣改 見・早期治療 の延伸に関わ	衛生のうち、 る方法等につる 香等の健康は 社会生活約 る様々な課題	疾病予防、講教の (表別では、 検診の (表別では、 検診の (表別で) を (表別で)	及保健、母子保健 生命の延長、心 きを通じて学ぶ。 と受診すること等 う社会復帰等を含 さについて理解す	
職業専門科目	テーションの理念 保健医療福祉とリハビリ	地域福祉論		や団体につい 歴史、ひは をにつの機能、NF な機関コミュ からな りない からな りない からな りない からな からな からな からな からな からな からな からな からな からな	て理解する。 つい文化で では、文化の では、 では では では で で で で で で で で で で で で で	前半は古代かわかいます。 わが国現れるの現れを をはまれるのでは と課題といった。 といったを は、 にないのでは になった。 にないのでは にないのでで にないのでは にないでも にないので にないで にないで にないで にないで にないで にないで にないで にない	ら現代まで、 この現代域点と現代域点と現地域点とという発展域、といるでで、 でででででいる。 では、このででは、このでは、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、	重する様々な組織での、地域福祉の 比の様相と力を身 の機相する力を身 を推進する社協様を を推進すイリー での地域深めるた での地域深めるた での地域深めるた でのでする。	

			授	業	科	目	Ø	概	要	
リハ	ビリテーション! _{利用}	学部	理学療法学	科	1					T
	科目 区分		授業科目の	名称			講義等の内	容		備考
職業専門科目	保健医療福祉とリハビリテー ションの理念	I			取生どは連こけ働生的 (地 (各てり活ス、携のるとのに オ 域 種の事協義で戦はぶ ニ 単 (事制事例のとなる話者働のではな ニ (地 (各て)をををするという。	行いをあ地特役とけを 方 と携 修当しっ一る域に割のて目 式 孝話 泰し、い、的人民本地互礎と 全 主に /上上のとの人域的がす 1 / 2 / 2 / 2 / 2 / 2 / 2 / 2 / 2 / 2 /	そ医有のッそ民係き。))るり)るりりりりりりりりりううううううううううううううううううううううううううううううううううううううううううううううううううううううううううううううううううううううううううううううううううううううううううううううううううううううううううううううううううううううううううううううううううううううううううううううううううううううううううううううううううううううううううううううううううううううううううううううう<!--</td--><td>みの果的と少生参通か 使用的と少活かし、 性がでは、 世がでは、 世がでする。 世がでする。 世がでする。 世がでする。 世がでする。 と は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、</td><td>自域にしています。 はないしています。 はないであれば、人のでは、人のでは、人のでは、人のでは、人のでは、人のでは、人のでは、人のでは</td><td></td>	みの果的と少生参通か 使用的と少活かし、 性がでは、 世がでは、 世がでする。 世がでする。 世がでする。 世がでする。 世がでする。 と は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、	自域にしています。 はないしています。 はないであれば、人のでは、人のでは、人のでは、人のでは、人のでは、人のでは、人のでは、人のでは	
職業専門科目	テーションの理念保健医療福祉とリハビリ	地域。Ⅱ	共生のための	7)連携活動	それぞれの地とその科目では この科目では 」」がでっている でいるでは でいるでは がいっている だいででする だいででする だいできる だいできる たいできる たっと たいでも たいでも たいでも たいできる たいでも たっと たっ たっ たっ たっ たっ たっ たっ たっ たっ たっ たっ たっ たっ	域の特性に応 のつい特性に応 のつかないのがいかい でからないでは がいいないでは がいいないでは がいいないで がいいないで がいいないで がいいないで がいいないで がいいないで がいいないで がいいないで がいいる でいる でいる でいる でいる でいる でいる でいる でいる でいる	じ重クとドついす連種間る。、学にいまで論て一てはとないではと乗にいてる難をしまれた。	の連携・協 「地域共生」 「単を横断しより周辺地」 表のための 他の症例	繁に当たっては、 動、また、対象者 のための連携活動 た小グループでイ 域での現状やニー プレゼンテーショ ですりを共とその家 、対象者とその家	
職業専門科目	リハビリテー リハビリテー 保健医療福祉と	予防:	理学療法		テーションに 介入へと広が 内容を、予防	留まらず、健 っている。他 理学療法学と とで、健康寿	康寿命の延 の専門科目の いう視点で 命の延伸に	申のための の一部とし 理学療法士	におけるリハビリ 予防を目的とした て触れられてきた の役割、活動内容 の基礎的な知識を	
職業専門科目	理念 テーションの とリハビリ と明れビリ	リハ 学	ビリテーショ	ョン医療工	て工学的アプ は、医工学で 学的アプロー・ る。	ローチを用い 必要な計測を チを理学療法	て解決を考. 学び、近年、 士の視点か	える学問で , 加速的に, ら理解する	障害の問題に対し ある。本科目で 広がりつつあるエ ことを目的とす	
職業専門科目	基礎理学療法学	基礎	理学療法概認	侖	ついて、理学 解説し、理学 とりあげて解 解し、基本的 法、理学療法	療法の歴史との 療法する 原法する での なの なの でいる でいる でいる でいる でいる でいる でいる でいる	今後の展望・ 活動や入学 、理学療法・ 紹介・体験・ 設別と急性。 とその役割、	や、関連法 後の学修活 の対象とな する。さら 朝、回復期	要性や業務内容等を規、職業内容等を規、職業内容等を動に必要な事事を理な疾病を療力を表して、維持路はえたたので、	!
職業専門科目	基礎理学療法学	理学	療法研究法		検索による情報を それら一連の 程とその手法 倫理指針、動物	報収集、適切 研究過程を経 を学ぶ。併せ 物実験の適正 ついて理解す	な手法の選 て、問題解 て、人を対 な実施に向	沢・設定を 決能力を高 象とする医 けたガイド	題を探求し、文献中心に展開する。 中心に展開する。 めるための思考過 学系研究に関する ラインなどを通し 分野におけるト	1

		授	業	科	目	Ø	概	要	
リハ	-	学部 理学療法学科	料						
	科目 区分	授業科目の名	占称		Ī	講義等の内容	3		備考
職業専門科目	基礎理学療法学	運動療法学総論		よび変遷、運 種類や適応と に際し、関節	動療法の概念、 禁忌を学び、相 可動域運動、簡	身体機能と 様々な機能障 第力増強運動	運動、基本 害に対する 、持久力増	職として歴史お 的な運動療法の 運動療法の実践 強運動、協調性 め方や運動内容	
職業専門科目	理学療法管理学	理学療法管理学 I		な活動につい 領域において インフォーム トなどについ ンを通して、	ての概要を学え 就労する理学療 ドコンセント、	ぶ。さらに保 療法士として 守秘義ロース また、ロール 受する対象者	健、医療、 の心構え、 インシデン プレイ等の およびその		
職業専門科目	理学療法管理学	理学療法管理学Ⅱ		全対策につい 域などさまざ また、安全文	て理解する必要 まな場面でのほ 化を形成する7 深める。その_	要がある。医 医療安全およ こめの、施設	療機関に限 び管理方法 組織および	に応じた管理安 らず、施設、地 について学ぶ。 実践活動のシス 、システム変革	
職業専門科目	理学療法評価	基礎理学療法評価		の流れを学ぶ。 な形態計測、 に必要な情報	。理学療法評价 関節可動域、角	面として基本 第力の評価能 吉果の記録方	的な問診、 力を学修す 法、問題点	解釈までの一連 観察から基本的 る。また、評価 の抽出から、理	
職業専門科目	理学療法評価	基礎理学療法評価		い、基礎理学 から基本的な	療法評価技術 を 形態計測、関係	を高めること 節可動域、筋	を目的とす 力の評価ま	ついて実習を行 る。問診、観察 でを実際に行 必要な技術を修	
職業専門科目	理学療法評価	運動器理学療法評		対象として理	学療法が実施る	される。運動 寺徴と評価方	器理学療法 法について	る運動器疾患を 評価学では、各 学修し、各運動	
職業専門科目	理学療法評価	運動器理学療法評		動器疾患を対 的とする。ま	象とした評価フ	5法と技術を 患における病	実習し、習	学で学修した運 得することを目 評価方法につい	
職業専門科目	理学療法評価	神経理学療法評価		分析など神経 し、障害像を せて、疾患ご	理学療法領域 把握するための	で共通して, の具体的評価 固別の検査、	用いられる i方法につい 評価方法を	&能、ADL、動作 検査手技を学修 て修得する。併 学び、障害の重	
職業専門科目	理学療法評価学	神経理学療法評価		反射反応、意 域で共通して の具体的評価 れる疾患別の	識、高次脳機 用いられる検3 方法について習	能、ADL、動 を手技を実習 習得する。併 去についても	作分析など し、障害像 せて、神経	おいて学修した 神経理学療法領 を把握するため 疾患ごとに行わ 害の重症度と問	
職業専門科目	理学療法評価 (内部障害理学療法		で、各病態に 査・測定法お	起因する身体道 よび理学療法記	重動障害の要 平価法につい	因を明らか て学修する	に理解したうえ にするための検 。また、内部障 礎知識を修得す	

	1 175	-MILE	4.1	_	_	Jone .		
	授 	業	科	目	Ø	概	要	
	学部 理学療法学 	4科	<u> </u>					
区分	授業科目の	名称			講義等の内	容		備考
理学療法評価学	内部障害理学療法 習	去評価学 実	学修した内容 害を正確に評 査・測定法を 謝機能検査の	を踏まえて、 価し、各内 実習を通じて 目的や実施力	内部障害の 部障害の病態 学修する。 対法を習得し、	各病態に起因 を把握する また、呼吸機 , 得られた情	する身体運動障 ために必要な検 能、循環機能代 報を解析・分析	
理学療法治療学	物理療法学		身体に与える 療法学でネル 理的エネネルギ 光線療る。物理 とが重要 とが重あ	影響について 物一一学療法と療 療法を 療法を 療法と がは とから がいて を を を を を を を を を を を を を	正しく理解に 目いる応見の応 を対し 超音がで 超いた治療を治療を治療を 関いたネルに の理療法と	する な な に に に に に に に に に に に に に	要性を含めている。物理を生き、制度をは、制度をは、制度をは、制度をは、制度をできた。 できる はいい できる はいい かいがく はいい かいがく はいい かいがい かいがい かいがい かいがい かいがい かいがい かいがい	
理学療法治療	物理療法学実習		である治療法 理療法におい 用いた実習よ	で、物理療法 て用いる各機 り物理療法に	機器の特性 と器を使用し よる生体反	と操作方法を 実習を行う。	学び、実際に物 さらに、機器を	
理学療法治療学	義肢装具学		義肢装具の概 応について理 役割や位置づ 解を深め、様	念とその歴史 解しているこ けを各領域に 々な障害に対	を解説し、 とが求められ おけるリハ おにした義肢	義肢と装具の れる。また、 ビリテーショ 装具治療、及	種類、構造、適 義肢と補装具の ンの視点から理 び日常生活活動	
理学療法治療学	義肢装具学実習		力学、バイオ 理について理 肢装具の目的 学修を行う。	メカニクス、 解をする。 ・機能的分類 さらに、義服	装具の構造、 を肢装具療法と ほ・身体に使り な装具の作成	. 使用する部 こおける実際 用する部位別	品、組み立て修 に使用される義 の分類について	
理学療法治療学	日常生活活動学		生活支援に必 し、在宅を を障が立立 を がラム概念 活動の関係の 生 る 日常の 生 の 関係の と の と の に の に の り の り る り る り る り る り る り る り る り る り	要となる日常のとなる日常のでは、またので、意とので、意とでは、またので、意とでは、またで、またでは、またでは、またでは、またでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これ	き生活状況のから 神には 神に 神に 神に 神に 神に 神に 神に 神に 神に 神に 神に 神に 神に	分析・評価方でとかれて前には大きなではは、まれては、またのでという。またのの方でといいます。これの方でといいます。またいの方でといいます。または、これには、これには、これには、これには、これには、これには、これには、これに	法について学修 生活す方法、常生活 また、分類(ICF) 機能の理解を学び、 を学び、	
理学療法治療	日常生活活動学身	美習	動への援助の る疾患特異的 方法を実際に	ための具体的 ではない基本 実習し、理学	カ方法のうち、 こ的な日常生活	基本的に共 舌活動の障害	通項目となりう 程度を測定する	
理学療法治療学	運動器理学療法等	34.	に対する理学 態運動学を変形性関 スク管理の イント療 理理 種運動技 ティブシンド	療法を修種などを修理を 療び症などがを ををといるを を物して をもれると をもれると をもれると をはる。 をはる。 をはる。 をはる。 をはる。 をはる。 をはる。 をはる。 をはる。 をはる。 をはる。 をもれる。 をはる。 をはる。 をはる。 をもれる。 をはる。 をもれる。 をはる。 をもれる。 をはる。 をもれる。 をはる。 をもれる。 をはる。 を。 を。 を。 を。 を。 を。 を。 を。 を。 を	る。では る。 る。 でのででで ででで ででで、 ででで でで で で で で で で で で で	かすけ、大きないでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これ	機能解剖学、病 め、各種の骨折 評価気診断のポ てえるよう、名 を学ぶ。ロコモ	
	科区	ビリティス 理学療法治療学 学 部 理学療法治療学 理学療法治療学 理学療法評価学 理学療法治療学 理学療法治療学 理学療法治療学 学学 理学療法治療学 学学 理学療法治療学 学学 理学療法治療学 学学 理学療法治療学 学学 理学療法治療学 学学 理学療法治療学 理学療法治療学 理学療法治療学 学学 理学療法治療学 理学療法治療学 理学療法治療学 学学 理学療法治療学 学学 理学療法治療学 学学 理学療法治療学 理学療法治療学 理学療法治療学 学学 理学療法治療学 理学療法治療学 理学療法治療学 学院法治療学 理学療法治療学 <	ビリテーション学部 理学療法学科 授業 母の名称 授業 母の名称 授業 母の名称 内部障害 理学療法評価学 地理療法治療学 理学療法治療学 理学療法治療学 理学療法治療学 理学療法治療	 ビリテーション学部 理学療法の名称 学事務 理学療法学の名称 学事務 理学療法・治療学 理学性理学療法・治療学療法・治療・学療法・学療法・治療・理学療法・治療・学療法・治療・学療法・治療・学療法・学療法・治療・学療法・学療法・治療・学療法・治療・学療法・学療法・治療・学療法・治療・学療法・学療法・治療・学療法・治療・学療法・治療・学療法・学療法・治療・学療・療療・薬療・薬療・薬療・薬療・薬療・薬療・薬療・薬療・薬療・薬療・薬療・薬療	世リテーション学部 理学療法学科	世リテーション学部 理学療法学科 科目	## 20	### ### ### ### ### ### ### ### ### ##

		授	業	科	目	Ø	概	要	
リハ	<u>ビリテーション</u> 科目 区分	学部 理学療法学 授業科目の			= D	講義等の内容	÷		備考
職業専門科目	理学療法治療学	運動器理学療法学	学実習	障害に対する に、関節可動 や筋力・持久 る。また、物	理学療法技術を 域改善のための 力増強、協調性	と、実習を通 り関節包内運 生向上のため 食証を行い、	して習得す 動やストレ の理学療法	ッチ、疼痛抑制	Į l
職業専門科目	理学療法治療学	神経理学療法学		治療まで、運営で、経験では、経験では、経験では、経験では、経験では、経験では、経験では、経験で	れについて理解 失調などの格 に伴う機能解 害によるを 事 と と 学 に と 学 に よ る も る も る も る る う る し す る る う る し す る る う る る る る る る る る る る る る る る る る	ない。 ない。 ない。 ない。 ない。 ない。 ない。 ない。	主に脳血管 基本理解した 見を見たいない。 まで見たのででは はないででは に で を は で に を に を に に に に に に に に に に に に に に に	脱し、評価のというでは、一個のでは、一個では、一個では、一個では、一個では、一個では、一個では、一個では、一個	
職業専門科目	理学療法治療学	神経理学療法学	実習	価、検査・測 きるよう概説 ついて実技指 深め、臨床的	する。様々な「 導を実施する。	曲出、目標の 中枢神経系疾 更に、代表 ことができる	設定、プロ 患に対する 的疾患を症	し、実際の評 グラム立案がて 運動療法介入に 例として検討を する。臨床的な	
職業専門科目	理学療法治療学	内部障害理学療法	去学	病態像と内科 恵理学謝職 主に域域を療 が の が が が が が に が が が に が が が に が が が に が が が に が が が に が に が に が に が に が に が に に が に に が に に に に に に に に に に に に に	疾患による障害開方法を学修う 開方法を学修う 患、呼吸器疾患 触れないら、や する。また、や 検査データ等) 療法介入を示す	写像を理解し 計る。 情像を理解し 情る。 情報に 情報を は いる で は で は に いる に は に いる に ま いる に ま いる に ま に ま に ま に ま に ま に ま に ま に ま に ま に	た上で、内 患、悪性新 対する諸カス 一個する諸方法 生活習慣に	勿)により生じる 科系疾患に関生に対する 生物に関力は関助力に 人の一般では 大型を 人の一般で は した と の 、 と と の 、 と の 、 と の 、 と の 、 と の 、 と 、 と	
職業専門科目	理学療法治療学	内部障害理学療	去学実習	ることを・・ク医・クルーのでは、一般では、大きないのでは、大きないのでは、大きないのでは、一般では、大きないのでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これ	とする。内部 法、吸引法の はついても理角 素摂取量を実際 する。呼吸器、	章害理学療法 基本の深 と を と に で で に で で で で で で で で で り し し て て て て て る し し し し し し し し て て て て	を修得する を実 が 適 は	や技術を修得する で表情で、 で表す。 で表す。 で表す。 で表す。 で変数中で、 のいます。 のいます。 のいます。 のいます。 できないます。 学修する。	1
職業専門科目	理学療法治療学	小児理学療法学		理解した評価と育め、評価と育め、小代表の関問題のである。中では、では、いたのでは、いたのでは、いたのでは、いたのでは、では、いたのでは、では、いたのでは、いたのでは、いいでは、いいでは、いいでは、いいでは、いいでは、いいでは、いいでは、い	および治療手打する。新生児男 必要となること する知識を理角療法対象者・刻 な理学療法の過	to を を は は は は に は に は に に に に に に に に に に に に に	生をモデル 目までの 目までのに でのに でいて でいて 地域 で で で で で の で の で の で の で の で の で の で	療ま実践療に実践医療に実践医療に変が福祉者に変がない。 原のの理について療育さらに、深め、 で関係をでいて、 で、 で、 で、 で、 で、 で、 で、 で、 で、 で、 で、 で、 で、	t t
職業専門科目	理学療法治療学	高齢者理学療法学	-	施設・在宅を を全にいる を主活期の を担じ を注が を注が を注が を注が を記述される を記述さる を記述さ を記述さ を記述さ を記述さ を記述さ を記述さ を記述さ を記述さ を記述さ を記述さ を記述さ を記述さ を	どで展開される 学療法を遂行る 学ぶ。また、高 者特性を理解し り、地域医療・	る理学療法に 計るための 高齢、積極の 治師を を を を を を を を を を を を を を を を の に の に	ついて総合 要となる知 では多くの 介入するこ QOL・ADLの 防・健康増	理解し、病院・ 的な知識・技術、場 ・技術、学び、 は高に音がに とがに がに がに がに がに が に が に を が と の と の と の と の と の が に の が に の が の と の が の が の が の が の が の が の が の が	

		授	業	科	目	Ø	概	要	
リハ	ビリテーション	学部 理学療法学	△科						
	科目 区分	授業科目の	2名称			講義等の内]容		備考
職業専門科目	理学療法治療学	スポーツ理学療剤	去学実習	学、運動生理 法、アスレデ 学ぶ。そのた 障害の分析を ントまで、そ	学的視点かれ イック実際のない でする。また、 の理論と実 でのででいった。 でのでは、 でのでは、 でいった。 でいる。 でいる。 でいる。 でいる。 でいる。 でいる。 でいる。 でいる	かがいた。 がサテーツ場では がような がような がような がいて がいて でいて でいて でいて でいて でいて でいて でいる でいる でいる でいる でいる でいる でいる でいる でいる でいる	の評価、機能 ンプログラー における姿態 やテーピング 得する。加	ニズムを、生体 能診断から理学 ムの実際にるい 勢・からマネーツが えてスポーツ外 表増進について	療でらメ

		授	業	科	目	Ø	概	要	
リハ	ビリテーション	学部 理学療法	去学科	T					
	科目 区分	授業科目	の名称			講義等の内容	:		備考
職業専門科目	理学療法治療学	健康寿命の延作	伸	スが命は取技く築点謳らるこ角身 (第 (第 (第 いめの社の、り能、すのつゆかの的に オ ♠~ ⑥~ ▲回 課題・均間を乗れそのこでい方考目健け ニ 田回 沼回 佐回 鳥オ2 第題・ 日本	・のしな、と割ともるうら必、つと 方 き店 版权 引衆 に、回になく介がはな役のに考要こいを 式 念活 海神 肇衛 炤ン:~した指縮護必、る立で、えがれて目 / 2慣 /経 /生 /一様2回に「な締め予要障疾ては身体こるでえす 15)の 回疾 回的 回りの::13のあいをべく的と。学、。 同 可)患)視)ご概運健	では、こたるを予き、、で 修健) で の 点 と な動が一健とめ。有防で世精あ し康 一度とめ。有防で世精あ し康 に寿国様しる、る保的、 き命 健 と の び多疾患の的な、のくま機社学 知延 の 原 健 健 健 健的あな、のくま機社学 知延 の 原 康 康 原側予	寿延な活理社のた関会療 識伸 は の 寿 毎面防命伸目動学会人、(的法 やにとに標を療復が健田な士 技広 増 ・ 伸ら健康のよりを活法健康と)どが 能さ 進 増 ・ ゆのたのたのまで生法帰健康)どが 能活 進 増 ・ ゆのたの	進のための課題	オムニバス方式
職業専門科目	理学療法治療学	在宅医療・介書	護の推進	スてやテ支要活こ宅側き ((第 (第高お (第 (第社をい家一援素動の医面る オ 全 12 全 11齢け 全 20 11支けのの3日関ベ目・考力 ニ 33 オに在 回 11支いが選ン指わきで介慮を バ 富回 清オお宅 杉: 大回援・10分選ン指の表す。 11支 11支 11支 11支 11支 11支 11支 11支 11支 11	る域のどてを種、のてに 方 地 いる療 常 地総体包上のいもでこ推、付 式 義域 清テ在と 真生 幸域合 政制括で要るちあれ進在け / 人連 美一宅介 理活 永に的 広をケ、介を理在。まつやこ 15 2と 0)を 2を /携 /0)を 2を 15 2を 2動 3け題 /2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	すス予み療医 修て域を) 括 と介の 対 理るテ防合法療 し学に目 ケ こ護課 す 学家との介世は決 き対す シ の長 介 法が導護へ、き かけす シ 科優第 介 法が導達へ、	要で援地の防 識者題 ム り際回 援 役にあ、城シ、 やのを に 意 : の 割りう療会テ護 能景決 け と第ま 課 第)、。やにム支 をやす る 自ぐめ 14	的 第2~3回: 回:生活環境に 回:紫族介護と	オムニバス方式

		授	業	科	目	Ø	概	要	
リハロ	ビリテーション	学部 理学療法学	2科						
	科目 区分	授業科目の)名称			講義等の内	容		備考
職業専門科目	理学療法治療学	アスレティック テーション	リハビリ	害予たポたやのアる学ツめ案式を ののでシの会対レこだ害ト践中定 がたのョ指復しテの知の・変也 関係を大きながないであり、を想 があり、をま、ッ目を防ニ? での身、をま、ッ目を防ニ?	留ア的戦すでこクで背、ンるめ体ッまプな略るのれりは景復が乱、的シー・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	技ど要慮るデなーツ場のどとのハう。保含をでし、スカポー学をなな体的にスカポー学をなな体的でいる。スカポー学をなな体的でいた。というでは、カーリッ(法定ア的と識がには、カーリッ(法定ア的と識がに	け、まのツハ競以学しスに・の検よてそたプ場ど技下実てリ学す学討りのれ、ロ面リ復ア習、ハび。び、知トぞ対グラの一まりそれ実そのが、こに立識をしている。ない、知識などがでいる。の一家のでは、の一際の利え、確	傷ニ競手を我ョの)他ツ、プ斗て実実の手を投いのない。 の大学体体案対と連表関傷発が、様を技いない、す表の現連や予ラ演なおと連表関傷発が、様を技いである。 で、大きに、大きに、大きに、大きに、大きに、大きに、大きに、大きに、大きに、大きに	
職業専門科目	地域理学療法学	生活環境学		う社会変化と は、行習する。 域が拡大を見 を理解し、在	生活環境の変療・保健を理 老人保健法、 せている。在 宅医療・介護	化について 解し、身近 介護保険法 宅、通所事 を推進し、	学ぶ。地域で な問題を解決 に基づい事業 まかして地域	し、高齢化に伴 生活をすること できるシステム 域活動の生活領 など目的や現状 で暮らす全般的 る知識を学修す	
職業専門科目	地域理学療法学	地域連携学		多職種連携が る。講義で る。 情報と 適 り な り ス り 、 み き り る り る り る り る り る り る り る り る り る り	今日のリハヒへと を は は は は は は は は は は る た る た る た る た る た	リて受し必ムスで、医療職るいと方ム生間め医のテム生活を表して要のテム生活を表している。	てでに様々なな換ななりななりななりなる。 作が出者をではれる。 をではいる。 をできる。 をできる。 でいる。 でいる。 でいる。 でいる。 でいる。 でいる。 でいる。 でい	要で行われた。 でい、意味地でいた。 でい、意味地でいた。 でい、意味地ででいたが、でいたが、でいたがでいたがでいたがでいたがでいたがでいたがでいたが、でいたが、	
職業専門科目	地域理学療法学	地域理学療法学		途に地域包括・ の障がい者こと たから、医療 に地域福祉活	ケアシステム 高齢者が医療 になる。今後 職が地域で活動の組織・専	が構築され ・介護・福 、医療職も 躍するため 門職につい	る。医療的問 祉の支援を受 地域での活動 の意味と具体 ての理解をも	に、2025年を目題を抱えた多くけながら在宅生の場が広まるこの場が広まるこの技術、ならびとに、在室質を身	
職業専門科目	地域理学療法学	被災支援と理学	療法	自及問齢改るのしは、、、、は、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、	に避難りにる候は一地にす問題が、選集を表している。一般ないでは、一地にする題が、のいたでは、のいたでは、のいたでは、のいたでは、のいたが、のいたが、のいたが、ののに、ののに、ののに、ののに、ののに、ののに、ののに、ののに、ののに、のの	設者難、士設避能組いていた。 ではいお所で、 ではいお所で、 ではいな所が、 ではいれてが、 ではいれてが、 ではいれてが、 ではいれてが、 ではいれている。 ではいる。 ではいる。 ではいれている。 ではいな。 ではいる。 ではいる。 ではいる。 ではいる。 ではいる。 では、 ではいる。 ではいる。 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、	行っている。。 になった、このではて、このでは、このでは、このでないでは、このでをでいるでをでいる。 では、このでは、このでは、このでは、このでは、このでは、このでは、このでは、この	たこに有活べ異テでや理学療法を高・ 者解で時効なこ、運営療法をを入めて、との、法をの項、どの、法の、との、とのが、との、とのが、とのが、とのが、とのが、とのが、とのが、とのが、	

		授	業	科	目	Ø	概	要	
リハ		学部 理学療法学	学科						
	科目 区分	授業科目の				講義等の内			備考
職業専門科目	臨床実習	見学実習	보 및 _] 오 된 ½ 및 + 1 . 2 . 2 . 2 . 2 . 2 . 2 . 2 . 2 . 2 .	は に に に に に に に に に に で に に で に に た と に た ま た ま た に た に た た た た に に た に た に た に た に た に た に で に に に に に に に に に に に に に	加の 知型 知 型 数 報 数 ま を 数 の は の は の は の は の は の は の は の は の は の に 。 に 。 に 。 に 。 に 。 に 。 に 。 に 。 に 。 に 。 に 。 に 。 に 。 に 。 に 。 。 に 。 に 。 に 。 に 。 に 。 に 。 に 。 に 。 に 。 に 。 に 。 に 。 に 。 に 。 に 。 に 。 に 。 。 。 。 。 。 。 。 。 。 。 。 。	ニを要った。 カ理解に を要った。 を要った。 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、	ラ で で で で で で で で で で で で で で で で で で で	正実では で で で 大 変 で で で で で で の で で の で で の で で で で で で で で で で で で で	共同(一部)
職業専門科目	臨床実習	検査・測定実習	员担保 格隆 龍 名詞 著 格克 圣力	正型は を は は は を の は の は の は の に に 。 。 に 。 に 。 に 。 に 。 に 。 に に	、し学果握施つ施す習測施治診てんを障でる。担こ、理目測がに査にる実当と 学を定し、プロ・ボースのは関、プロ・ボースのは関係・応よ習教で、療学値ののでは、プロ・ボースのでは、対して、大学をは、対し、大学をは、大学をは、対域を対し、対域を対し、対域を対し、対域を対し、対域を対域を対し、対域を対域を対域を対域を対域を対域を対域を対域を対域を対域を対域を対域を対域を対	か か を 側 じ う 後 員 、 、 が を で に い ら を の で に い の を に い ら を が 、 が も で ま を の で お に 、 が も に 、 が も で も に ま を は で も に ま を も に ま を も に を も に を も に を も に を も に を も に を も に の も に の も に の も に の も の も に の も に の も の も に る に る に る に る に る に る に る に る に る に る る に る に る に る る に る に る に る に る に る に る る に る に る に る に る る に る る る る に る る る る る る る る る る る る る	カ行夷う 実妻を療 ぶつという際た施内け学 た寒障に とって をった できた できた できた できた できた できた できた できた できた でき	「本学」 「本学」 「本学」 「大学 「大学 「大学 「大学 「大学 「大学 「大学 「大学	共同(一部)
職業専門科目	臨床実習	評価実習	力を利達を獲りた悪り向げ	い本量を の大量を のたる の大量を の大量を の大量を の大量を の大量を の大量を の大量を の大量を の大量を の大量を の大 の大 の大 の大 の大 の大 の大 の大 の大 の大	ル理・評すた定め理後学・学に価るめ例業務実技価のという。というでは、、に極にというでは、、に極にいいます。というでは、り、、に極に験がした。というでは、り、、に極に験がした。というでは、り、、に極に験が	シ上、間理関よ的求をよをッの理題点療権理念にめ実び担当原権理が担当を施すが担当な法権学加れす習教式点法抽士の療さるるの員	にを対出と業法せ知こ習とよ探象しし務実、識と熟振り索症、て体施幅、で度り理し例症の験場広技、を返りで、に傾のをでは、で度りで、でので、でで、でのといるで、でのというで、でのとりでのでした。	を経済では、 を経済では、 で評価のでは、 で評価のでは、 ででは、 では、 では、 では、 では、 では、 では、	共同(一部)
職業専門科目	臨床実習	総合実習	シ豚爺カロ習る E とし路 重幸し ク糸で	レ 大 大 大 大 大 大 大 大 大 大 大 大 大	よ評理践或筆 ;お職観し 要し技り 価学すす記そ客け、的、臨に、術学結底。。験の的総度に署実応助・原果の理加を後臨合や認內習で・度内果の理加を後臨合や認內習で・度での一学え行の床的技す容指連指面	学統連廣でいいます。 修合の法基、CE 対響にるを導絡真の修 にと過評本実に試製にると、Bでででいいます。 と解程価的習(験度い総記臨りう認を確内 をでいいます。 理釈にかなにの)をて実録床合。 の発	学、つら治めjeを評、習へ実い 接療治い治療要は実価理で記習、 医療治い治療要は変に変に変にするでいた。 評計、目技知 した療はし導生 で討 評計、目状知 した療はし導生 行論 にのにするでは、こま学にとす いした。	力治立現設施付 ル療案場定すわる ク基実模、。C Clinix社 ラに施しな合るclinix社をとでしるって とではないでは、 ではいてでは、 ではいすが、 ははいすが、 はないでは、 ではいすが、 はいすが、 ではいすが、 ではいすが、 ではいすが、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では	共同(一部)

		授	業	科	目	Ø	概	要	L未风俗A 4 概至/
リハ	ビリテーション	学部 理学療法	学科						
	科目 区分	授業科目の	の名称			講義等の内容	:		備考
職業専門科目	臨床実習	地域実習		お療考職権理が実施という。 一般では、一般では、一般では、一般では、一般では、一般では、一般では、一般では、	法療方法でで 大変にやびなのを 大変にやびかのを がようかり、 人の見 がいるが がいるが がいるが がいるが がいるが がいるが がいるが がいる	地、学話が、相、本応を見理修ケ事訪談相験方担理修ケ事訪談相験方担と業別員談診法当、理や業加を勢員、の通学ケ務のを過失を決し、大きののでは、理や業加を対し、大きのでは、は、大きのでは、大きのでは、大きのでは、	をとたてリ法マ見所すで必要等。テにヤ域のでは、一、一、一、一、一、一、一、一、一、一、一、一、一、一、一、一、一、一、一	学域と療具一加一ケ見実権法おれるおいます。 対象る役けはやうえのア学習験 がはないはやい、 がいるとはない、 がいるといいでは、 がいるといいでは、 がいるといいでは、 がいるといいでは、 がいるといいでは、 に学や多健団タン職域学内	共同(一部)
展開科目	統合分野	共生社会の展開	と実践	社会の維持・方を接持・方を接続の考る合うの後述のようなのでは、が変になる。というないでは、が変になる。というないでは、ないないでは、ないないでは、ないないでは、ないないでは、ないないでは、ないないでは、ないないでは、ないないでは、ないないでは、ないないないでは、ないないないでは、ないないないでは、ないないないないでは、これは、これは、これは、これは、これは、これは、これは、これは、これは、これ	向上に寄与で養の知識・生社会のし、実践では 関・大きなでは 関でよるディ	きる理学療法をものできる理学療法を分別組織のできるのでは、維持にからいのでは、ないでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これ	士として、体 とした身ネジ にすがいの発表に にがいの発表に になるための		共同
展開科目	隣 接 他 分 野	共生福祉論		会"との関連 福祉"の意味 連携・協働、	と意義を明ら	る。また、援 かにし、地域 得た上でのネ	助専門職に 社会におい ットワーキ	とっての"共生 て多職種による ングの必要性を	
展開科目	隣接他分野	身体障害への支 工学 I	接システム	ら市場投入 に学ぶ。 基礎として、 タフェースの 行手段の選択 の現場で行う	での一連のプ 人間の感覚、 設計手法につ	ロセスを、実 認知、認識特 いて学習する 件定義と製品 た実証実験に	証実験手法 性に基づく 。次に障害な 化手法につい	ステムの開発か も含めて体系的 ヒューマンイン 特性の定義と代 いて、福祉介護 証手法とアン	
展開科目	隣接他分野	身体障害への支 工学Ⅱ	援システム	のインタフェ 定して試作す (Windows) の	ースを事例にる。実証実験	学ぶ。インタ では、試作し lみ合わせで	フェースは、 たインタフ: 幾能評価とア	、障害種別を想 ェースをPC ンケートを実	
展開科目	隣接他分野	コーチングの理 ツとの連携 I	論とスポー	え方、スキル 確にし、それ る。また指導 とともに継続 コーチングの	を学ぶととも に対する問題 者・支援者と 的に学習する 哲学を理解す	に、コーチン 解決スキルを しての考え方 ための考え方 ることを中心	グの場面に 習得するこ ングスタイ/ を醸成する。 に置き、個	おける課題を明 とをねらいとす ルを明確にする	共同
展開科目	隣接 他 分野	コーチングの理 ツとの連携 II	論とスポー	基本的な考え する課題を解 にとどまらつけ テーマでのグ	方をもとにり 決する質的なおり ることが ることが 表した が れ い ること が れ に が れ に り れ に り れ い れ に り れ っ い っ い っ い っ い く い く い く り く り く り と り と り と り と り と り と り と り	て、指導者・ につけ、 題を抽出る。 まとめ、 発表	支援者が様の事態に直下解決策を立ち時に自分自を通じてチャ	だコーチングの 々な現場で注って直動を ないでは、大きなでは、大きなでは、大きなでは、ないでは、ないでは、ないでは、ないでは、ないでは、ないでは、ないでは、な	共同

		授	業	科	目	Ø	概	要	
リハ	ビリテーション 科目	学部 理学療法学科 	¥						
	区分	授業科目の名			•	構義等の内容			備考
展開科目	隣 接 他 分 野	障害者の社会参加 ツの教育的活用 I	- <i>を</i> 第 イ に	っるが、実際に 推しいという課 イテムを通して こ役立つ有効な	は社会参加の 題がある。随 障がい者のを 活動である。 者スポーツに	つための情報 章がい者スポ 社会参画機会 本講義では こついての理	・知識・技行 ーツは、スプを増やし、 を 教育原理や 解を深め、『	重要なテーマを 材を持つことが ポーツとのの向い 生活の方法論的な 章がい者スポー	共同
展開科目	隣 接 他 分 野	障害者の社会参加。 ツの教育的活用Ⅱ	学 を 成	さんだ知識を活 とめざす。グル	かし、障がい ープワークに イによる発表	v者スポーツ こよる障がい 長を行い、実	教育を実践 者スポーツ 際に障がい	育的活用 I 」でできる力の習得できる力の指導案作者スポーツ教育	共同
展開科目	隣接他分野	ユニバーサルツー 外出支援 I	サルこ康めたリ	ナルツーリズム は施設や住宅で とで徐々に社 乗増進への意欲 けるなど、外出 よがる一歩であ	の定義、意 の で の 限られた は 会参加が 促進 は は の 意 は は に る に は に る に は に は に は に は に に に に に に に に に に に に に	といって学話をはいいて学話をはいいでの生活をいる。ないではいいないのはいい、ユニバーではいい、ユニバーでいいでいる。	ぶ。高齢者がら、「おけいのでは、 から、「刺激、 人への刺激、 、周囲の意義、 サルデザイン	や障がい者など 出かけ」をする 生きがい、健 々への理解を深 共生社会へつ	
展開科目	隣接 他 分 野	ユニバーサルツー 外出支援Ⅱ	サル と 要 案	ナルツーリズム ヽてグループワ ごのような不便 そかをグループ	について、ま ークを通して があり、誰も プローク、フィ 性化につない	に際の街を歩いずる。高齢 いが外出や旅いかがけいが いっかがり でいいだり でいった でいった でいました でいました でいました。 でいました。 でいました。 でいました。 でいました。 でいました。 でいました。 でいました。 でいました。 でいました。 でいました。 でいまで、 でいまで、 でいまで、 でいまで、 でいまでいまでいまでいます。 でいまでいまでいまでいまでいまでいまでいまでいまでいまでいまでいまでいまでいまで	いてその課 者や障がい 行を楽しむ7 クを通して	終しむユニバー 頃と解決策につ 者が実際の街で ためには何が必 考える。改善提 レゼンシートを	
展開科目	隣接 他分野	手話による聴覚障?コミュニケーション	ンI て 手者 し 知 る	であり、聴覚障 手話をはじめと 育についての学 し、置かれてい 口識を理解する	害者とのコミするさまでは、 習(障害につる社会状況な ことを目的と	ミュニケーシ ミなコミュコミン さど)を ごする。 こする。	ョンツールの ケーション ュニケーシ て、聴覚障等 ュニケーシ		
展開科目	隣 接 他 分 野	手話による聴覚障コミュニケーション	ンⅡ て 手 力	であり、聴覚障 F話をはじめと	(害者とのコミ するさまざま 話で日常会話	ミュニケーシ まな聴覚障害 舌ができるこ	ョンツール(者とのコミ: とを目指す。	の一つである。 ュニケーション また学んだ手	
展開科目	組織の経営・マ	実務リーダーのたと戦略論	理講	里解する。事業 講師による事例 る。保健医療に	別戦略や機能 を扱った講 関する事例も 主体的に構想	を分野別戦略 と意見交換 う取り上げる 思し、その実	について、1 を通じ、実置 。グループ!	の関係を交えて 各分野の実務家 践的に理解をす フークや発表を 関係者の協力を	
展開科目	組織の経営・マネジメ	組織・人材マネジメ 理論と実践	経本学きまらか	経営の要素であれる 本科目でといい。 はいまないないでは、 はいないでは、 はいないでは、 はいないでもいいでもいい。 はいないでもいい。 はいないでもいい。 はいないでもいい。 はいないでもいい。 はいないでもいい。 はいないでもいい。 はいないでもいい。 はいないでもいい。 はいないでもいい。 はいないでもいい。 はいないでもいい。 はいないでもいい。 はいないでもいい。 はいないでもいい。 はいないではいいではいい。 はいないではいいではいいではいい。 はいないではいいではいいではいいではいいではいいではいいではいいではいいではいい	る。一般ないでは、これでは、一般ないでは、これ	リっていく時ネ にび人材マる。 せにするため 組織の創り そして人材	に必要な考; ジメントの ³ に良い組織と 方や組織と, のマネジメ;	しくみは重要な え方を時系列に 考え方を理解で の要件の理解か 人を主体的に数 ントの仕方とと	

		授	業	科	目	Ø	概	要	
リハ	<mark>ビリテーション</mark> 科目 区分	学部 理学療法 授業科目			Ī	講義等の内容			備考
展開科目	組織の経営・マネジ	実践マーケティ	ング戦略	かを考えるこ においても重 え方から、 を により、 顧客 るための知識	とは、企業活動要である。本種のフレーム! のニーズを把技を身に着ける。 いサービス業に	動の基本であ 科目では、理 フーク、事業や 保健医療分	るだけでなく 一でなった。 一でなった。 一でなった。 一でなった。 一でなった。 一でなった。 一でなった。 一でなった。 一でなった。	と提供するべき は、社会的な名 がの基本学のの基本学のなる 手法発に療力を は、保健医療 は、保健で は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、	
展開科目	組織の経営・マネジ	保健医療経営 I		分野の役割が 題、医師不足 山積している。 なる介護報酬	重要化しつつる など人的資源の 。本講義では、 (社会報酬)。 療経営の事業材	ある。また、 の問題、情報 保健医療の や診療報酬等 構造を経営主	膨らむ医療費 資源活用等、 経営を考える 制度の仕組み 体別に学び、	っせい で (保健医療 間がと) で (保護・ 限費・ 問題・ で に 関 で に で い き い を で き い を で が と 説 が と 説 病 す 育成 を 目 指	
展開科目	組織の経営・マネジメ	保健医療経営Ⅱ		院、介護、社会 報から提え、 院、介を選し、 ケースを報酬 についてより	会福祉法人、? そのマネジメ 会福祉法人、 、業務改善、 約 、地域福祉 実践的に学ぶ	宝宅サービス ント手法を負 在宅サービン 経営改善手法 計画(社会福 。また、起)をヒト、『 解説する。『 ス等を実践し を学び、診 祉増進計画) 業した人材や	分野の経営(病情に モノ、カスになる。 人人のにる、 大人のにる、 大人のででは、 大人のでは、 大きなのでは、 たらなのでは、 とっと。 とっと。 とっと。 とっと。 とっと。 とっと。 とっと。 とっと	
展開科目	組織の経営・マネジメ	実務リーダーの 会計 I	ための財務	ルや会計用語である。 当授業では、: 実際の財務指 を行う。 「実務リーダ	を学んでも意味 長年、様々な冷標を教材にした 一のための財子 て理解すべき	未はなく、経 去人の会計監 はがら、経営 客会計I」で計 基本的な会計	営に活かする 査を行ってる と関連付け7 は、実務リー	見点こそが重要	
展開科目	組織の経営・マネジメント	実務リーダーの 会計 II	ための財務	ルや会計用語である。 で授のの実際のは、: 実際のは、: 実際のは、: 実際のは、: 実際のは、: 実際のは、: 実際のは、: 実際のは、: 実際のは、: 実際のは、: 実際のは、: 実際のは、: 実際のは、: 実際のは、: 実際のは、: 実際のは、: ないには	を学んでも意味 長年、様々な治療を教材にした 一のための財子 て実務上把握っ	未はなく、経 去人の会、経 生人がら、経営 ながら、Ⅱ」務会 すべき財財の数	営に活かすれる 査を行ってき と関連付けり は、実務リー 値とその活り	見点こそが重要	
展開科目	組織の経営・マネジメ	ビジネスのため	の法律	の事業に関す 事業に関す 事業で事業遂 報ととの世界に 関す 報ととの で また で また に で 、 また に で 、 また に で 、 また に た に た に た に た に た に た た た た た た た	る様々な法令で 業に必要なラッ 行上のリスクで 健医療分野に対 するための実 律のプロフェン	を遵守する必 で連守する必 で連などす理などすする ではかかる情報 は力を身にしと	要がある。 社や法人の てのビジネン をインプッ ける。 して実務に して実務に	たる上では、それない。 立ち上げ、人のない。 なに共通する情から、保健医療は いってきた教 を分かり易く解	

		授	業	科	目	Ø	概	要	
リハ	<mark>ビリテーション</mark> 科目	学部 理学療法学	学科 						
	区分	授業科目の				講義等の内	容		備考
展開科目	組織の経営・マネジメント	ビジネスのため		る、まない 実れ用面で事れた に いさで いさで いい が い い が い い き ま れ に が れ い さ ま れ に が れ い た い た い に い た い に に に に に に に に に に に	うえでも必須 身近なるITの月 でないていている関連 でカンジネスラ でカンデンフラー でカンデンフラー でカンデンフラー でカンデンフラー でカンデンフラー でカンデンフラー でカンデンフラー でカンデンフラー でカンデンフラー でファブリ	の要素となない。 会教材と保を 計語や、保すの 計を学習で複数 は の機会を で が が が が が が が が が が が が が が が が が が	っている。I'用い、ビジネ 用い、ビジネ 医療分野では 。講義知ではんだ知識を活 回設け、学習 る力を身につ	スを組みないで ボスを がいまな かいまな がいます はどう はいまな がいまで がいまで がいまでが かいまでが がいまな でいまな でいまな がいまな がいまな がいまな がいまな でいまな でいまな でいまな でいまな でいまな でいまな でいまな で	
展開科目	組織の経営・マネジメ	在宅サービスの		れた地域いできな本ビ専門・「事続」・「事続」・「事業」・「事業」・「事業」・「事業」・「事業」・「事業」・「事業」・「事業	分要地域のは を なる。型は を で域向の施 がでででいた。 でででいた。 でででいた。 でででいた。 ででいた。 ででいた。 ででいた。 ででいた。 ででいた。 でいた。	し、安定し トービス、小 静を全国で展 トービスを元 実際の事業	た日常を送る 規模多機能型 開している企 に、「市場認 において成否	「能な限り住み慣り ためには、やサービス務を事業」 「変決」である事業がある。 「変決」である。 「変決など、運営面」 「変ななど、できないと、できないと、できないと、できないと、できない。」	
展開科目	組織の経営・マネ	事業計画策定概		可欠である。 出し)する発 て新しい事業 ロセスを習得	新たな事業活想法を学び、 をサービスを する。策定 はイング戦略、	動の出発点 グループる 計画において 最程の、 財務戦略等	である事業を 協力し、保領 めの事業計画 、ビジョとも の重要性を理	な事業活動は不 構想(アイデア 建医療分野におい 事業を策定するプ 事業コンセプ 2解する。グルー ニする。	
展開科目	組織の経営・マネ	総合事業開発		すことができ を基に、ディ 祉分野の経営 例、隣接他分	るか、 あカッション 戦略での新しい 一を招き、 第	接続を図る 形式による デティング・ サービス開 で務現場の臨	ことを目的と 授業を展開す 財務戦略・17 発事例などを	接他分野で活か:する。事例研究:する。保健医療福 「・人事戦略の療福」 「・人事戦略の ・取り上げる。ゲ 場を設けるな	
	総 合 科 目	理学療法研究基 ルI	,,,	断力」「理解 とそのための ミナール形式	カ」「表現力 工夫を修得す で行うが、内	J」を養い、 つることを目	効果的なプレ 的とする。 授	の基盤である「判 シゼンテーション 受業は基本的にゼ 変更する。	
	総合科目	理学療法研究基 ル I		研究ゼミナー 献検索や資料 から論文作成 究基礎ゼミナ 的に設定する	ルは、理学療 の収集、仮記 までの一連の ール I 」でに ことを中心に 設定したテー	に基づいた の研究過程を は、最初の段 に演習を行う。	実験・調査の 体験していく 階として、研 。研究方法の	-マを設定し、文)実施とその解析 。「理学療法研 「死テーマを具体 種類や方法論を -ション資料で発	
	総合科目	理学療法研究基 ル I		し、 はないですりでする。 でをそう。 をこうでする。 ないではないでする。 はないでする。 はないでする。 ないできる。 ないできる。 ないできる。 ないできる。 はいでも。 はいでも。 はいでも。 はいでも。 はいでも。 はいでも。 はいでも。 はいでも。 はいでも。 はいでも。 はいでも。	企業・事業な するは、「ない」では、 ニケー導を受い ナールでは、 り多様な課是	りぜミ形式に り地域・構まが けて医療・経 に着目し継	で展開される対・実問の表別では、まりでは、まりでは、まりでは、まりでは、まりでは、まりでは、まりでは、まり	全知識、経験、 表類 表類 表演 表演 を の の で の と の で の で の で の で の で の で の で の で の の で の の で の の の の の の の の の の の の の	

		授	業	科	目	Ø	概	要	二米/州11年前11年
リハビリテーション	学部	理学療法学科	ļ						Τ
科目 区分	ł	授業科目の名	称			講義等の内	容		備考
総合科目	理学療ルⅠ	法研究基礎も	ヺミナー	ついて効果的 な内容につい 生が自主的に う。指導教員 習するプレゼ	スなプリングスなで学習することは研究に必ずることででいる。	テーションの プレゼンテ とが望ましい 要な「判断力 ン発表におい	作成、発表、 作成、発表、 でションを行 が、進捗にお 」「理解力」 て助言を与え	研究の進め方に 評価など基本的 すう研究課題は学 いては共同で行 「表現力」を学 よることで研究を なケジュールを変	
総 合 科 目	理学療ルⅠ	法研究基礎も	ヹミナー	を養い、効果 ことを目的と 学生が主体的 肌で感じ、自	、物理療法を 的なプレゼン する。プレー にゼミナール 身で工夫す	ンテーション ゼンテーショ ル内で活発に る能力が高ま	とそのための ンの発表、討 議論し、改善 るように授業	解力」「表現力」 ○工夫を習得する 呼価については、 き点などを自身の きを進める。授業 こその形を適宜変	
総 合 科 目	理学療ル【	法研究基礎 1	ヹ゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙゚゠゙゚゚゙゚゚゚゙゚゚゚゙゚゙゚゙゚゚゙゙゙゙゙゙゙ヹ゚゚゙゚゙゙゙゙゙゙゙゙	断力」「理解 とそのたり ンテーション 業を構成にする が主体的にゼ 感じ、自身で	究基礎ゼミ現 力工夫を修発 のプレーン のプレーン のフナーン でファイン でファイン でファイン である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。	カ」を養といい、 する、評ををのいる。 で活発とのので活発になる。 で活高まる。	効果的なプレ の い の い る の き 学 生 終 表 、 ひ き 終 表 、 ひ き き に き に う に う に ら に ら た に う に ら た ら に ら に ら に ら に ら ら し に り に り に り に り に り に り に り に り に り に	基盤である「判 ンゼンテーションゼ このため、プレゼ きられてはりでした。 は、の肌は は、の肌は基 がある。 は変更 がある。 で変更 がある。	
総合科目	理学療ル【	法研究基礎も	ヹミナー	療法をテーマ	者に対する!	テーマの領域	における理学	ま者に対する運動 を療法の現状と課 研究テーマを決	
総合科目	理学療ル【	法研究基礎も	ヹミナー	断力」「理解 とそのシテートののション業を構成のン ないではずりでする。 からいでものいる。 からいでものいる。 からいでものいる。 からいでは、 がらいでは、 もっとももももももももももももももももももももももももももももももももももも	究基で で表現 で表現 で表現で でを成ぜで でを が発発 でを が発 が発 が発 が発 が が の の の の の の の の の の の の の	カナを表とを表とを表とを表とを表とをの、とい、目をといっていました。これではして主のでは、そのである。	効果的なる。 対したでは、 がいるのでは、 がいるのでは、 がいるのでは、 がいるのでは、 でいるでは、 でいるでは、 でいるでは、 でいるでは、 でいるでは、 でいるでは、 でいるでは、 でいるでは、 でいるでは、 でいるのでは、 でいるでいるでは、 でいる	基盤である「判 ・ゼンテーション ・のため、プレゼ かられるように授 引する様々な問題 ・プレゼンテー まするアクティブ にがにゼミナール	
総 合 科 目	ルI	法研究基礎も		ロディリテン ルボットでででででででででででいます。 ができたいででででででででででででいます。 でででででいます。 ででででできませる。 でででできます。 ででできまする。 ででいる。 ででいる。 ででいる。 できる。 できる。 できる。 できる。 できる。 できる。 できる。 でき	リハビリテ・ン領域につい シ領域する。 決定方法を学れ ことにより、 た課題の中に	ーション領域 いて講義を受 研究課題を決 習し、研究対 の研究対象領	、電気刺激療け、担当ゼミ 定するのに必 象領域の文献 域の現状把握	ベーチャルリアリ を を を は を は を は で で で で で で で で で で で で で	
総 合 科 目	理学療ルI	法研究基礎も		りを持って行 醸し出す課題 め、文献検索	ある理学療派 くか演習する を抽出し、 からはじめ、 究テーマを	る。医療・経 それらを踏ま 研究デザイ 央定するまで	済・環境など えて個々に研 ンを考えるこ に至らなくて	地域社会との関わ での社会的変化が F究テーマを決 とができるよう こも、興味のある	

	授	業	科	目	ص ص	概	要		-
リハビリテーション	学部 理学療法学	学科							
科目 区分	授業科目の)名称			講義等の内	容			備考
総合科目	理学療法研究基 ル I	選ゼミナー	理学療法研究 の探索方法を の選定、論文	法学の。能りマをぶない。能りマをがない。	療法研究卒業 、慣を身に構着に りを度しま ででである。 でである。 でである。 でである。 でである。 でである。 でいる。 でいる。 でいる。 でいる。 でいる。 でいる。 でいる。 でい	ゼミナール 学修し、論 、将来理学 着ける。 互いに情報 椅子シーテ	こ向けて、ラ 文内容を理解 療法を行う時 交換する。ま	ーマ すでき ずに必	
総合科目	理学療法研究基i ルⅡ	遊ゼミナー	「理学療法研題を探求し、 中心に展開す めるための思 形式で行うが	文献検索に る。それら 考過程とそ	一連の研究過 の手法を学ぶ	、適切な手 程を経て、 ・授業は基	法の選択・記 問題解決能力 本的にゼミカ	设定を]を高	
総合科目	理学療法研究基4 ルⅡ	難ゼミナー	(△.田畑 研究テーマを の種類でを設定 準備実行段階 即した具体的 計画書を完成	具体的に設 論を学んだ し、仮説を として位置 な実験また	上で、論文検 立てた上で研 づけ、設定し は調査方法の	索、文献抄 究計画書を た研究テー	読を行い、研 作成する。研 マと研究テー	F究 F究の -マに	
総合科目	理学療法研究基値ルⅡ	難ゼミナー	(▲ ・	事能がことなるというでは、またいでは、またいでは、またいでは、またいでは、またいでは、またいでは、またいでは、またいでは、またいでは、またいでは、またいでは、またいでは、またいでは、またいでは、またいでは、	コミュニケー 当教員の指導 療・経済・環 に着目し継続 専門性を涵養	ション力・! を受けて自 境などの社: 的に社会構: することを	構想力・実践 ら研究デザイ 会的変化に 造・未ま的 目的とする。	力にを 以味 は 学生	
総合科目	理学療法研究基(ル II	遊ゼミナー	(金). 岩本 主に運動がごに運動がごに提ってを主主ののを主主ののを主主ののを主主ののを主要をできます。 は結果できます。 はおりて提供は、ないでは、ないでは、ないでは、ないでは、ないでは、ないでは、ないでは、ないで	害、ス文なこれでは ス文なこれでは 学生に がうてい 生ので がっての	素によるによるによるにないしい。 なでは、 をでは、 をでいるでは、 をでいるでは、 をでいるでは、 をできるできる。 をできるできる。 をできるできる。 をできるできる。 をできるできる。 をできるできる。 をできるできる。 をできるできる。 をできるできる。 をできるできるできる。 をできるできるできる。 をできるできるできるできる。 をできるできるできる。 をできるできるできるできる。 をできるできるできるできるできる。 をできるできるできるできるできるできるできるできるできるできるできるできるできるで	収集、適切 する。研究 進捗におい る情報収集、 ることで基	な手法の選択 デザインは名 ては共同で行 研究方法・ 遊的な研究力	・自が ・育う研究の が表の	
総合科目	理学療法研究基値ルⅡ	難ゼミナー	(人)・大矢 運動器報収集場 を情報研究学に を開送を開送を 会奏業は を 変更する。	、物理療法 適切な手法 を経て、問 収集した文 問題の解決	の選択・設定 題解決能力を 献については に活用できる	を中心に展 高めるため 、学生を主 情報を獲得	開する。それ の思考過程と 本とする文 れ する能力を養	ら一 : その : : : : : : : : : : : : :	

								L未风俗A4 桃空/
	授	業	科	目	の	概	要	
リハビリテーション:	学部 理学療法学科	<u></u>						
科目 区分	授業科目の名	占称			講義等の内容	容		備考
総合科目	理学療法研究基礎 ルⅡ		「理学療法研 題を探来開中心では、 中心るにためは、まないでは、 とっと。 ないでは、 とっと。 とっと。 とっと。 とっと。 とっと。 とっと。 とっと。 とっと	文献検索によっ 考によっ 考にさっ の 際にする。 と で で で で で で で で の の の の の の の の り の の の の	る情報収集、 連のでは、 連に、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、	適切な手行 関切な手行 関を経験を コスマ献に コスマ献に で ないに で ないに で ないに で ないに で ないに で で で で で で た で た で た で た に た に た に た	諸領域における定 は は は は は は は は き さ き さ と さ と さ く で る 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、	
総合科目	理学療法研究基礎 ルⅡ			·究基礎ゼミナ ・検索し、さま	ざまな研究力	方法を知り、	究テーマに関連す 卒業研究に必要 る。	
総合科目	理学療法研究基礎 ル II		題中る諸ないし、する諸法のに対する諸法のに対する。	究基礎できまれる。 突動を表している。 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、	る情報収集、 連次を学ぶ。2 でなって、 でないで、 ででででででででいた。 でででででいた。 でででででいた。 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 でいい。 できない。 できる、 できる。 できない。 できない。 できる。 できる。 できる。 できる。 できる。 できる。 できる。 できる	適切な手に 適を経せ、 はなてナ索法を 対象なるでは、 大文は、 大文は、 大文は、 大文は、 大文は、 大文は、 大文は、 大文は、 大文は、 大文は、 大さい。 大 、 大 大 大 大 大 、 大 、 大 、 大 、 大 、 大 、 大 、 大 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、	諸領域における課を はの選択、記力高原 は関解決、理学の は対してで、する配として を表示を開催的にできる。 を表示を開催的にできる。 を表示を表示を を表示を表示を を を表示を を を を を を を を を を を を を を	
総合科目	理学療法研究基礎 ル II		について学修 る。研究を行 し、それらの ミナール I 」	ある研究倫理 する。データ うのに必要な 目的や構造に で決定した研究 説および研究	収集に使用る研究計画書のいて理解る で課題につい 計画を立案し	ける機材の低 や倫理審査 ける。「理 いて文献調 し、研究計	データ管理、手法 更用方法を学習修 書類について学修 学療法研究基礎ゼ 査を行い、研究課 画書および倫理審 発表する。	
総合科目	理学療法研究基礎 ルⅡ		ジャンルの課 経済・環境な	究基礎ゼミナ 題を抽出し、 どの社会的変 研究デザイン	関連した事で化が醸し出る	頁について記 上課題を抽品	. 興味を持った 講義する。医療・ 出し、それらを踏 央定し、研究計画	
総合科目	理学療法研究基礎 ル II		講義内容をも 倫理的な配慮 次年度の卒業 行研究で行わ	究基礎ゼミナ とに、研究ラ についても学 研究作成のた れている内容 規性を明確に	ーマを決定し 修し、倫理智 めに論文検 、明確になっ する。主に『	ン、研究計算 審査申請の 家、構造化力 でいる事等 事続子シー	よび受講してきた 画書を作成する。 車備を行う。 少録を作成し、先 実を踏まえ、自身 ティング、褥瘡予	
総合科目	理学療法研究卒業 ル I		意義、研究計 学的分析法な	画の立案から どを演習し、	、文献検索が理学療法研究	などの情報 でを実践す	究テーマや研究の 収集の方法、統計 る。また、演習に とを目標とする。	

	授	業	科	目	Ø	概	要	
リハビリテーション	学部 理学療法学科	科						
科目 区分	授業科目の名	名称			講義等の内	容		備考
総合科目	理学療法研究卒業 ル I		を行う。研究のののでは、一般では、一般では、一般では、一般では、一般では、一般では、一般では、一般	ら具体的にデテータを設定 実行政を設定 は調査証をを はの検実験やは、 専門分野は、	し、仮説を て位置で 実施し、デ 。まにより で吸器、循	立てた上で研えた上での大きででいます。 でいました といま でいま でいま でいま でいま でいま でいま でいま でいま でいま で	とを中心に演習成 「完計画」とを具 「完計画」と 「完了きできる。 でできずに計がまた。 ではのが、 ではいが、 ではいかが、 ではいがが、 ではいが、 ではいが、 ではいが、 ではいが、 ではいが、 ではいが、 ではいが、 ではいがが、 ではいがが、 ではいが、 ではいがが、 ではいがが、 ではいがが、 ではいがが、 ではいがが、 ではいががが、 ではいがが、 ではいがががががががががががががががががががががががががががががががががががが	
総合科目	理学療法研究卒業 ル I		用し、自らのでは、自らのでは、自らでは、これのでは、これのでは、いつでは、いったがのでは、は、いいでは、いいでは、いいでは、いいでは、いいでは、いいでは、いいでは	究基礎では、まなでのでは、関係でのでは、関係でのででは、関係のでののののでは、関係のののののでは、関係のののののでは、関係ののののでは、関係のののでは、関係のののでは、関係のののでは、関係のののでは、関係ののでは、関係ののでは、関係ののでは、関係ののでは、関係ののでは、対象の	沿学学で、 でこでで、 でこでで、 とでない。 そでなったない。 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、	・でしますない地や大きない、ままない、でしまでがいいます。これでであるとを導いているとを導いて発している。	知識や技能を活施で大統にを実施で表して、 は社会のの場にして、 がででは、 がでいるのでは、 はなのでは、 はないでも、 はないでも、 はないでも、 はないでも、 はないでも、 はないでも、 はないでも、 はないでも、 はないでも、 はないでも、 はないでも、 とないと、 とないと、 とないと、 とないと、 とないと、 とないと、 とないと、 とないと、 とないと、 とないと、 とないと、 と、 と、 と、 と、 と、 と、 と、 と、 と、 と、 と、 と、 と	
総 合 科 目	理学療法研究卒業ルI		テーマや研究 成について学 が望ましいが う研究計画書	害、スポーツ の意義、統計 習する。研究 、進捗におい 作成について 生の希望や進	学的分析な デザインは ては共同で 、助言を与	どを演習し、 各自が自主的 行う。指導教 えることで研	高献検索、研究 研究計画書の作 切に提案・学生が行 で見は、学生が行 での方法の学習を ケジュールを変	
総合科目	理学療法研究卒業 ル I		研究計画の立 変計画の演習 がながれて思想を には、 には、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 で	、物理療法分 療 文献 表 かい理療、文献 でいる でいる でいる でいる でいる でいる でいる でいる	検索などの を変をとまる をとまる を を は る に る に る に る に る に る に る に る に る に る	情報の大きで、大きで、大きで、大きで、大きで、大きで、大きで、大きで、大きで、大きで、	や研究の意義、 5法、統計学的分学 通じて、統計学 計分析の選択、 い、学生が科学、 最終的には、 選践し、理学療法 にでミナール形	
総合科目	理学療法研究卒業 ル I		意義、研究計 学的分析など 統計学的分析 選択、そして が科学的な思	究卒業業でで変なない。 またの 理を できまり の できまり の できまり の できまり の できまり の できまり できませい できませい きょう できませい かい こう できませい またい またい はい かい こう でんしょう はい	文療で的け画を 学のは事情を 学のは 学のは 学の 学の 学の 学の 学の 学の 学の 学の 学の での が の で の り の も の も の も の も の も の も の も の も の も	などと をと 実や で に 、 の に 、 の に 、 の に 、 の に 、 の に 、 の に 、 の に 、 の に 、 の に 、 の に 、 の に 、 の に の の に の の に の の に の の の の の の の の の の の の の		
総合科目	理学療法研究卒業 ル I		て、データ収	究基礎ゼミナ 集を実施する 始し、結果の	。適宜、得 傾向を把握 [、]	られたデータ する方法を学	計画に基づい を記述統計を用 ぶ。自身の研究	

	授	業	科	目	Ø	概	要	
リハビリテーション 科目	学部 理学療法学科 授業科目の名				講義等の内容	<u></u>		備考
区分	理学療法研究卒業で		(介. 富田	義人)	啉找守♡//1/	if .		VH ⁴⊃
総合科目	ν I	意学制造力に学	「理学療法研究 「義、研究計画 」 を計学的分析なども を計学的分析 と と は計学的なに に が は は は い が い が は い が い が い が い が い が い	完全 完全 で本 で本 でな でで でで でで でで でで でで でで でき の は に に に に に に に に に に に に に	文献検索が 学療法研究で 学でからがある。 学のは書を作り とを目標とする。	など と と と と と と と と と と と と と	ででは、 では、 では、 では、 をできる。 をできる。 をできる。 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、	
総合科目	理学療法研究卒業+ ル I	ラの破って追し	予備研究を行 をゼミナール】こくのできる。こくのできる。さくのできる。さくのできる。さくのできる。される。される。される。される。される。される。される。される。される。される。される。される。される。される。される。される。される。される。される。される。される。される。される。される。される。される。される。される。される。される。される。される。される。される。される。される。される。される。される。される。される。される。される。される。される。される。される。される。される。される。される。される。される。される。される。される。される。される。される。される。される。される。される。される。される。される。される。される。される。される。される。される。される。される。される。される。される。される。される。される。される。される。される。される。される。される。される。される。される。される。される。される。される。される。される。される。される。される。される。される。される。される。される。される。される。される。される。される。される。される。される。される。される。される。される。される。される。される。される。される。される。される。される。される。される。される。される。される。される。される。される。される。される。される。される。される。される。される。される。される。される。される。される。される。される。される。される。される。される。	使用する機材 対い、で立案し ボータは ボータは ボータは ボータ は研究 に ボータ に が の に に の に 。 に 。 に 。 に 。 に 。 に 。 に 。 に 。 に 。 に 。 に 。 に 。 に に に に に に に に に に に に に	収集が可能と た研究計画に 的に集計し、 の進捗状況に (月1回程度	となれば、 こ基づき、ラ 研究の進担 こよって、 のにゼミ内	双集可能かどうか 「理学療法研究基 データ収集を行 歩状況を適宜担当 研究法の変開発 で報告会を開催 重しなどについて	
総合科目	理学療法研究卒業 1 ル I	3: た ク	課題に触れ、	定した研究 実験・アン 5抽出した研	ケート研究等 究テーマに	等を実施する 関連した事項	会の現場で生き 5。実験・アン 質について、地域 と決定する。	
総合科目	理学療法研究卒業†ルI	こ來論行も主	けして結論を導 論を導き出する う。 ごミ形式で行い	習した演習・ 算き出すこと プロセスを学 い、お互いに	を目標とする ぶ。研究デザ	る。様々な初 デインを作成 の交換をした	展問点や問題点に 見点から考察し結 対し、調査研究を よがら実施する。 テスポーツをテー	
総 合 科 目	理学療法研究卒業↑ ルⅡ	ま オ そ	がける課題解決 いら一連の研究	央のための研究過程を経て いる。研究論文	究の実践、約 、問題解決能	吉果の考察、 能力高めるか	理学療法諸領域に 発表を行う。こ こめの思考過程と 後を身につけるこ	
総合科目	理学療法研究卒業†ルⅡ	り を を 会 発 化	得られた結り を明確にする で説と異なった は、指導教員 き表報告し、	代字 発字 業 で 表 に は に は に に に に に に で で で で で で で で で が に が に で で で で で で が な が な の な で で で が な が な が な が が が で が で で で が が が が が が が が が が が が が	えて考察する られた結果な 間をかけてす た一連の研究 限り論文(お 内容について	る。研究で明 が妥当なもの 考察を加える 究・演習の活 あるいは報告	調査の実施によ 引らかとなったこ)か、特に結果が 5。卒業研究発表 舌動やその過程を 言書)として文章 注を求めず、従来	
総 合 科 目	理学療法研究卒業↑ ルⅡ	察研観論な学	₹を加え、成身 肝究データを収 見的に分析し、 論文の作成でん よどを加え、石	完 卒 卒 卒 卒 卒 を 来 要 と 長 に 説 に は の と に は に に に に に に に に に に に に に	論文としてき 得られた結身 論理的な研究 築・研究の で成果を公記	まとめること 果の考察を網 完論文に仕」 目的・実験力 長する。公割	- 夕を解析し、考 とを目的とする。 乗り返しながら客 こげてい結果・、考 でした成果は、検討 でなどで検討	

	———————— 授	業	——————— 科	—————————————————————————————————————	<i>σ</i>	概	要	平工耒規恰A4 ((型)
リハビリテーション			17	н	0)	1996	•	
科目区分	授業科目の		講義等の内容					備考
総合科目	理学療法研究卒ルⅡ	業ゼミナー	主に運動器障 ための研究の インは各自が 共同で行う。	害、スポーツ 実践, 結果の 自主的に提案 指導の学習を	考察,論文作 することが 論文作成や 支援する。	作成、発表を 望ましいが、 発表などにつ 学生の希望や	て、課題解決 行う。研究デ 進捗において 逃りで助言を与 進捗に応じてる	ザ は え
総合科目	理学療法研究卒業ルⅡ	業ゼミナー	運動器系疾患、 選助器果の考 解決能力をまと に、かる。 は、める、 の、科学的、 とし、 の、科学的、	、物理療法分の 察、、物理療表をの思 外のるのでいい。 がいれば、 でいるがでいるがいいでは、 でいるが、 でい。 でいるが、 でいるで、 でいるで、 でいるで、 でいるで、 でいるで、 でいるで、 でいるで、 でいるで、 とっし。 でい。 とっし。 でい。 とっと。 とっと。 とっと。 とっと。 とっと。 とっと。 とっと。 とっ	う。これらっ 考にをそることを に表して を の 解 決 に と る こ し 、 選 の は り の り り の り り り の り り に り り に り に り に り	ー連手を 一連手を では 手を では を では でいた でいた でいた でいた でいた でいた でいた でいた	程を経て、問 る。研究論文と る。最終的に て、論文の質 業後も研究を	し を 実 養
総合科目	理学療法研究卒	業ゼミナー	一理けらのとどと察課連の学に表情である。 一理けらのとどと察論を表して、 をの比を実通とを をの比を実通とですて、 業論して、 、で、 、で、 、で、 、で、 、で、 、で、 、で、 、	究快究ぶす集妥る、後献 卒の過。る団当。論もで を発をでのとは表文研き での経論のでる での経論のでのあ的質を素 がいて、 を献いて、 を、 を、 を、 を、 の、 の、 の、 の、 の、 の、 の、 の、 の、 の、 の、 の、 の、	究、と文度のは高践を、、、と文度の間しの波か、めしの波か、めししいが、めしには、、・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	告記では、 ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	めの思考過程 動をおたが、ついま もるのか表のの表表の が、ついってしい。 が、このででである。 が、このででしい。 が、このでではいい。 では、このでは、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、	ことる果文の、をた
総合科目	理学療法研究卒	業ゼミナー		ハた分析を実 解釈について 身の研究の理	議論し、統計学療法学に対	計学について おける意義に	の理解を深め こついて議論す	得
総合科目	理学療法研究卒	業ゼミナー	一 理けらそこが献考、を加めたとる果文のし験あたとどとない。 「おれとる、ないでは、一 ではいるでは、	究央究学となてすじ卒に 卒の過ぶす集妥るて業貢献を発死での過ぶる団当。、後献 さめを経研研とは終文研き は終文研きの。 は、 では終文のまめの究る	究、文論程のに質を素と、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、	苦れないというでは、それである。となってと界内においる限ル生的ないと界内にないと、ののないがはでは視とないでは、ことをはいないという。	ための思考過 知識を身につ 得られた研究 きるのか、他 るのかについ 文発表を演習 ばぎまナールの	こ程け成のて経に業
総合科目	理学療法研究卒 ルⅡ	業ゼミナー	(金・田中 「 データの解析! 計結果の判定」 で得られた研究の発表に、 習し、整理した	こついて、統 方法を学るを解 必要な学術論 と研究結果を イドを作成す	る。「理学療 析、分析し、 文の書き方、 基に卒業論 る。卒業研究	療法研究卒業 得られた結 発表スライ 文を作成し、 究報告会で得	検定の方法、 ゼミナール I 「果を整理する。 ドの作り方を 卒業研究報告 られた質疑や) 学 会

(用紙 日本工業規格A4縦型)

	授	業	科	目	Ø	概	要	
リハビリテーション	学部 理学療法学	!科						
科目 区分	授業科目の	名称			講義等の内	內容		備考
総合科目	理学療法研究卒業ルⅡ	ぎゼミナー	「理学療法研 整理し、得ら 研究背景・目	れた結果の 的・実験方	考察を繰り返 法などを見直	区しながら客 Iし、レジュ	究データを収集 観的に分析する。 メと発表資料(研究を仕上げる。	٠,٩
総合科目	理学療法研究卒業ルⅡ	ぎぜミナー	「理学療法研 論文に仕上げ 整理し得られ 共に論理的に の進捗状況、 卒業研究の仕 メ・パワーボ	究本業業で を を を を を を の 文 を の で で に が に が に が に が に が に が に り に り に り に り	う。本繰りてをした。 本繰りてない できょう を上げしな でいい にっこう でんしょう でんしょう かいがい かいがい かい	実施し、研 まなが問発表。中での で、一ででは、 で、 で、 で、 で、 で、 で、 で、 で、 で、 で、 で、 で、 で、	究成果を卒業研究 究成果を卒業収集 ののでのでのでは、 ののでのでは、 ののででは、 ののででは、 ののででは、 ののでは、 の。 ののでは、 ののでは、 ののでは、 ののでは、 ののでは、 ののでは、 ののでは、 ののでは、 ののでは、 ののでは、 の。 のでは、 ののでは、 ののでは、 ののでは、 ののでは、 ののでは、 ののでは、 ののでは、 ののでは、 ののでは、 の。 のでは、 ののでは、 ののでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 ので	· 定

		授	業	科	目	Ø	概	要	平上未 税俗 4 献空/
リハロ	ビリテーション ⁵ 科目 区分	学部 作業療法等 授業科目				講義等の内容	<u> </u>		備考
基礎科目	社会	敬心における共	生論	の心をもっと する」を踏ま 「QOL (Quali 敬心学園の理 や「養成する ついて学ぶ。	も大切にし え、「共生 ty of life) 事長や大学 人材像」に	学園理念「他人 で、一人ひとり で、一人ひとり と会」や「リハ の向上・獲得 の学と等、直接学 でいて、直接学 な割について考;	が輝いて生 、ビリテーシ について乗 のリーダー ぶ機会を設	きる社会を創 (ョン」さらに 里解を深める。 から、「理念	造 は 」
基礎科目	社会	心理学		は、なさされたの解・、にの解・・、にの解・・、はの地の地の地の地の地の地の地の地の地の地の地の地の地の地の地の地の地の地の地	人として心 どのかいのでない。 といるのがいるでいいを でででででいる。 というででででいる。 というでででいる。 というでは、 というでいる。 というでいる。 というでいる。 というでいる。 というでいる。 というでいる。 というでいる。 というでいる。 というでいる。 というではいる。 といるではいる。 といるではいる。 といるではいる。 といるではいる。 といるではいる。 といるではいる。 といるではいる。 といるではいる。 といるではいる。 といるではいる。 といるではいる。 といるではいる。 といるではいる。 といるではいる。 といるではいる。 といるではいる。 といるではいる。 といるではいる。 といると。 といると。 といると。 といると。 といると。 といると。 といると。 といると。 といると。 といると。 といると。 といると。 といると。 といると。 といると。 と。 と、 と、 と、 と、 と、 と、 と、 と、 と、 と、 と、 と、 と、	の基礎となる 理学を学れたち とぶぞされた とぶぞれががれた。 でいれて学想を のいた。 を を のいた。 を のは のは のは のは のは のは のは のは のは のは のは のは のは	に、対し、心のは、心のなりでは、 いのに、ののでは、 ののでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 ので	理学とはどの なことが明に や職業を自己 特神的には 体的には がが、感情心	よ か ど 理 維 業 理
基礎科目	社会	社会学		る獲イ景になでなく、とと代いれそ会でなく、大きなでなく、	実社会における を目標とする として を は の 社会 の も の も の も の も の も の も の も の も の も の	社会を は	現象や問題を 自己を中人間として、 自己をして、 自己をして、 自己をして、 自己を はなるで になる。 になる。 になる。 になる。 になる。 になる。 になる。 になる。	と考える視座を 関係、家族、ラ とので海外ので といる。 といる。 といる。 といる。 といる。 といる。 とれる。 といる。 とれる。 とれる。 とれる。 とれる。 とれる。 とれる。 とれる。 とれ	
基礎科目	社 会	実務英会話		う医るいいではないではない。本は、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では	ら、なユラスをのいる。 英状ニット がまま がれこう ない がり で 表 で 表 で 表 で 表 で 表 で 表 で 表 で 表 で 表 で	がミ場の面がまない。 、ユ面を場もズンで、スーロの一定物用の一定物をは、ないでは、ないでは、ないでは、ないでは、ないでは、ないでは、ないでは、ないで	ン能力を問いた。 教材実と関いる療力とは といるを を を を を を を を を を を は に に に り に に り に に に に に り に に に に に り に り に り に り に り に り に り に り に り に り に り に り に り に り に り に り に り う う に り う う う う	がないない。 いているというではいいできるでいる。 でいるではいいでは、 でいるでは、 でいるでは、 はいれるでする。 はいれるでは、 はいるでは、 はいるできる。 はいるできる。 はいるできる。 はいるできる。 はいるできる。 はいるできる。 はいるできる。 はいるできる。 はいるできるできる。 はいるできるできる。 はいるできるできる。 はいるできるできる。 はいるできるできる。 はいるできるできるできる。 はいるできるできるできる。 はいるできるできるできるできる。 はいるできるできるできる。 はいるできるできるできるできる。 はいるできるできるできるできる。 はいるできるできるできるできる。 はいるできるできるできるできるできる。 はいるできるできるできるできる。 はいるできるできるできるできる。 はいるできるできるできるできるできる。 はいるできるできるできるできるできるできるできるできるできるできるできるできるできる	健めりまど業プ実
基礎科目	社 会	観光学		ものを学ぶ。 移動・交流に 特性や事業の 観光客を受け また、OTA (2	係る観光を 仕組みにつ 入れる地域の オンライント	る観光・ツーリ 支える産業(旅 いて、及び、日 の様々な取り組・ ラベルエージュ 、近年の動向に	₹行、宿泊、 本各地の鶴 みなどについ ⊑ント)、1	観光産業等) 乱光振興事業等 いて学ぶ。 (ンバウンド(0
基礎科目	社会	経営学		的な内容を 事を を を を を を を を を を を を を を	実交ジカのを重視した。	を生が興味を持ている。 がは要素を行う。 がな授業を行う。 の役割にいてのかりないはいののではいて分かりのではいいではいいではいいではいい。 かっていいではいいではいいではいい。 かったい、実践的がいいではいい。 をおけいではいいではいいではいい。 を持ている。 を持ている。 を持ている。 がりましている。 を持ている。 がりましている。 を持ている。 がりましている。 を持ている。 がりましている。 を持ている。 がりましている。 がりましている。 をはい。 をはいる。 をはい。 をはい。 をはいる。 をはいる。 をはいる。 をはいる。 をはいる。 をはいる。 をはい。 をはいる。 をはいる。 をはいる。 をはいる。 をはいる。 をはいる。 をはいる。 をはいる。 をはいる。 をはいる。 を	ソンとして正解説する。 解説する。 目されする。 解説する。 が主体的に プディスカン	直面した経験・ ザインといった 墹査し、議論す ッション及びプ	

			業	——————— 科	目	Ø	概	要	上来风俗 A 4 似空)
リハロ	ゴリテーション !	学部 作業療法学	学科						
	科目 区分	授業科目の	の名称			講義等の内容	7		備考
基礎科目	社会	音楽文化論		れており、保でか、民族音楽をより、となるない。	健医療の現場 ように生まれ 文化の中でと 学・音楽人類 楽・日本の音	も例外ではな 、どのような でのように発展 でいる。 でのように発展	い。生物とん 社会的機能を し、また変え 学の視点から して見てゆる	な場面で活用さ 人類の歴史の中 を果たしてきた をしてきたのか ら、西洋音楽・ く。最後に、保	
基礎科目	社 会	法学		おける身近な講義する。具ブル、犯罪行その中とされて必要とが高生の関心が高	:事例を通して 体的には、年 為、パワハラ 法、民法、刑 る法律に対す いと思われる	、法律の基礎 回の授業にお ・セクハラな 法、労働法の	知識や原則を いて、人権を との事例を材 基礎を学習し 養を身につい 場での事故事	し、社会人とし ける。また、学 事例も取り上	
基礎科目	社 会	国際関係論		今題関国際を出るを実現して、 の解をのよるをは現、 の解をされるとなり、 で、 の解をは現、 ら、 、 の解をは現、 は、 の、	会る国、会回の間というでは、会の国、会の国、会回ので、会の国なはつ人ので、会にので、国をいて、国をいて、国をにいいは、はいので、といいので、といいので、といいので、といいので、といいので、といいので、といいので、といいので、といいので、といいので、といいので、といいので、といいので、といいので、といいので、といいので、といいので、はいいので、はいいので、はいいので、はいいのでは、はいいのではいいので	会における日 ・意味のなもの主 ・である。 ・でもなる。 ・しゃもなる。 ・でもなる。 ・でもなる。 ・でもなる。 ・でもなる。 ・でもなる。 ・でもなる。 ・でもなる。 ・でもなる。 ・しゃもなる。 ・でもなる。 ・でもなる。 ・でもなる。 ・でもなる。 ・でもなる。 ・でもなる。 ・でもなる。 ・でもなる。 ・しな。 ・でもな。 ・でもなる。 ・でもなる。 ・でもなる。 ・でもなる。 ・でもなる。 ・でもなる。 ・でもなる。 ・でもなる。 ・でもなる。 ・でもなる。 ・でもなる。 ・でもなる。 ・でもなる。 ・でもなる。 ・でもなる。 ・でもなる。 ・でもなる。 ・でもなる。 ・してもなる。 ・してもなる。 ・してもなる。 ・してもなる。 ・してもなる。 ・してもなる。 ・してもなる。 ・してもなる。 ・してもなる。 ・してもなる。 ・してもなる。 ・してもなる。 ・してもな。 ・してもな。 ・してもなる。 ・してもな。 ・してもな。 ・してもな。 ・してもな。 ・してもな。 ・してもな。 ・してもな。 ・してもな。 ・してもな。 ・してもる。 ・してもな。 ・してもな。 ・してもな。 ・してもな。 ・してもな。 ・してもな。 とっと。 ・してもな。 と。 ・し。 と。 と。 と。 と。 と。 と。 と。 と。 と。 と。 と。 と。 と。	ての問題置付いての問題置付いての位るをでしているる。のであるあった。 TPPが はたいにいい はいい はい はい はい はい はい かん はい い かん いっと いっと でい が が いっと いっと ない いっと いっと ない いっと いっと いっと いっと いっと いっと いっと いっと いっと いっ	畿、それら諸問 けなどに対する である。 を理解し、1つ1 日本の食料自の生 食卓が他国の生 議論されるの 来に向けてどの	
基礎科目	組織	職業倫理		められる倫理 規範のことでいる。医療 業務上で個人 課せられていく	型」のことをいる。 であり、多くの 話祉に係る限り 、情報を得るこ いる。仕事に行	いう。職業人と の職業体が職 り、業がで生、 とがでる人 とずる人 がる。 最新	こしての行動 戦業倫理を定 国人情報を得 出事には、す いとりが、	たは職業人に求 力を律する基準・ その、明文化して よることが秘義務が でで一般では 、 で、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、	
基礎科目	組織	チームワーク概	沙川	らとに方や方なる「地域と関るというでは、次のようで、一般をでは、一般では、大学のでは、一般では、大学のいいがは、大学のは、大学のは、大学のは、大学のは、大学のは、大学のは、大学のは、大学の	: その家族の4 ! を活用現場で ! を療性がでいる ! は ! は ! は ! は ! は ! は ! は ! は ! は ! は	主活支援のもなる までではる と と と と と と と と と と と と と と と と と と と	りに多職種や本に多職種や本にであるとも を手をなるとのできまりでできまりでです。 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、	門性くので連続の 特社会は 持社ので 持社ので 連続の的 で 基本と は 機の的 と は り り り り り り り り で の を が し 、 で 、 を 、 を 、 を 、 を 、 を 、 を 、 を り し 、 と り り と り と り と り と り と と と と と と と と	
基礎科目	組織	リーダーシップ	論	たっている。 は、従来のよ 援するリーダ の二大機能で	そういった組 うな統率型た ーシップ」が がある集団維持	l織でリーダー iけではなく、 i求められる。	シップを発力 「チームと(そのために! 成の二大機能	固人の成長を支 リーダーシップ 能を理解し、支	

		授	業	科	目	Ø	概	要	
リハ	ビリテーション ⁵ 科目	学部 作業療法 : 授業科目				講義等の内容			備考
基礎科目	組織	社会人基礎力	974111	職場をはじめた ニケー to Faced は否かい。 代から前に力が前に力が 12の能力をがい。 取りたした。 は否がい前にも ではない。 は代から前に力がした。 はでいる。 は代から前になる。 は代から前になる。 はでいる。 とている。 とっと。 とっと。 とっと。 とっと。 とっと。 とっと。 とっと。 とっ	である。近年、 である。近年、 がかれる。近れせた。 かれるというない。 があると「ありでした。 でしていい。 かいでは、 もっとは、 もっとは、 もっとは、 もっとは、 もっとは、 もっとは、 もっとは、 もっとは、 もっとは、 もっとは、 もっとは、 もっとも。 もっとも。 もっとも。 もっとも。 もっとも。 もっとも。 もっとも。 もっとも。 もっとも。 もっとも。 もっとも。 もっとも。 もっと。 もっと	常生活に欠かせい。 常生活に発達ケーン。 たコニケーいの力即実行した。 は大れ、しましていました。 は大れ、しまでする。 はあいましていましていましています。 はいましていまする。	せない利便が不めました。 はりまりまりまりまりまりまりまりまりまります。 を手がいまれるものできる。 はいいではいいできる。 はいいできる。 はいいできる。 はいいできる。 はいいできる。 はいいできる。 はいいできる。 はいいできる。 はいいできる。 はいいできる。 はいいできる。 はいいできる。 はいいできる。 はいいできる。 はいいできる。 はいいできる。 はいでも。 はいできる。 はいできる。 はいできる。 はいで	は高まったが 足しているの るには学生時 唱した3つの能 力養成を目指 授業」を積極 で相手の話を	€יינוע
基礎科目	組 織	コミュニケーシ	ョン論	多様性のある ケーションツ 多くの人々を ションを阻む について体験に	人一がががします。 大かがしまをでは、 大ルはまをできる。 大ルはまるできる。 大ルががしまる。 大ルががしまきでは、 大ルががしまる。 大ルががしまる。 大ルががしまる。 大いは、 大いな、 、 大いな、 大いな、 大いな、 大いな、 大いな、 、 大いな、 大いな、 大いな、 、 大いな、 、 、 大いな、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、	組織や職場の ないない にこい にこい で ない に た る に た る に る と る る る り る る り る る る り る る る る る る る	中では、ケーシー は、ケーシー にする。 といった	われる。そして れだけっこュニ ションの問題ケー ションュ主要スキル らに様くことを いただくことを	
基礎科目	組 織	国際協力論		体的な事例を 解説する。さ 生社会づくり	存開発援助((元に、国際協 らに、「国際 (CBID)」に 展開事例を取	DDA)、民間の 力における参 関係論」で教 ついて、より り上げ、その	国際協力や 加型開発等 授した「地 専門的に取 きっかけ、	国際交流等の具 の手法について 域に根ざした共 り扱う。世界各 活動内容、活動	
基礎科目	地域・ボランティア	スポーツボラン	ディアI	ボランティ。シラッテンティ。シラッチ・ボールで、水をでは、水をでは、水をでは、水をでは、水をでは、水をでは、水をでは、水をで	まざまな領域 イアらに活動の価値でいる。 大学)に焦点を 理解すると理解すると理解では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、	で行われている 直、で行われている 直、一次では、 で行われている きいでは、 でいる。 は、 でいる。 は、 でいる。 は、 でいる。 は、 でいる。 は、 でいる。 は、 でいる。 にい。 にいる。 にい。 にいる。 にいる。 にいる。 にいる。 にいる。 にいる。 にいる。	るボランティア 別、実際で 関する で の の の 人の 人の 人の 人の して の 人間 と で の し で の に の り で の り の り の り の り の り の り の り の り の	ア活動を通じ 動等について 動(地域、高 役割、実際の 生かし、将来の して、将来の	
基礎科目	地域・ボランティア	スポーツボラン	'ティアⅡ	スポーツ関連 がスポーツスクライン がなくする。これなくを は会をを を振りなる。 がスポーツや ルールや用具を がスポーツや月	ベントの運営にスポーツイベンスポーツイベンス者の「社会をあるに何がずるためにアデッカや応用力の耐レクリエーション・	こ関わる機会を レーカー る機会を ルーカー る機能を リートルールールールールールールールールールールールールールールールールールール	と設け、ボラス と設け、とし、ボラス とでは、とし、とうない。 というでは、というでは、 といるでは、 というでは、 というでは、 というでは、 というでは、 というでは、 というでは、 というでは、 というでは、 というでは、 というでは、 というでは、 というでも、 というでも、 というでも、 というでも、 というでも、 というでも、 というでも、 というでも、 というでも、 というでも、 というでも、 というでも、 というでも、 というでも、 というでも、 というでも、 といると といると、 といると、 といると、 といると、 といると、 といると、 といると、 といると、 といると、 といると、 といると、 といると、 といると、 といると、 といると、 といると、 といると、 といると、 といると。 といると。 と。 と、 と、 と、 と、 と、 と、 と、 と、 と、 と、 と、 と、 と、	ンティアとして アとして アという アという アントを アント終了 でなかの でないの では、 既存の は、 にない	
基礎科目	地域・ボランティア	地域ボランティ	ア論	ボランテ語・マー・アー・マー・マー・マー・マー・マー・マー・マー・マー・マー・マー・マー・マー・マー	ついて多角的に 日本の先の大連事 活動の大進事を る。欧米のシラ 理解もアかる。 アできる がでいる。 でなり、 でない。 でない。 でない。 でない。 でない。 でない。 でない。 でない。	こ考察する。 ころ まる まる まる アイボール ボンシの 域ティ ボンシの 域ティ 地 ボラ 楽 キャー こく こく マーカー こく こく アイカー こく という かんしゅう かんしゅう かんしゅう かんしゅう かんしゅう かんしゅう かんしゅう しょく かんしゅう しょく かんしゅう しょく という しょく という しょく という しょく	「ボランタリタリカンタリカンタリカンタリカンタリカンをは動とNEででかられる。 「大きないではないではないではないです。」 「ボラン・ファット」 「ボラント」 「ボランタリカント」 「ボランタリカンタリカンタリカンタリカン。」 「ボランタリカンタリカンタリカンタリカンタリカンタリカンタリカンタリカンタリカンタリカ	ズム」理念の 実態の比較、 10法人活動の相 ス・キラーニン 1. 展開し根付か 1. ターの資質と 地域ボラン	

			業	—————————————————————————————————————		<u></u>	概	要	-未祝俗A4സ空)
リハ	ビリテーション!	。 学部 作業療法学			_		1.72	~	
	科目 区分	授業科目0)名称			講義等の内容	ž.		備考
基礎科目	地域・ボランティア	地域防災		ちづくり等、 の災害の歴解 いて福祉」 おける防災・ 取り組む先の 対のグループ	地域防災の地域防災のの理域、の急災をはいるのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これが、これが、これが、これが、これが、これが、これが、これが、これが、これが	論と実践につい 特性、 防災の は が災の は がびる が が が で の ま が で の ま が で の ま が で の ま が で の ま が で の ま が で の ま が で が で の ま が で が で が で が で が で が で 、 で 、 で 、 で 、 で 、 で 、 で 、 で 、 で 、 で 、 で 、 で 、 で 、 、 で 、 で 、 で 、 で 、 で 、 で 、 で 、 で 、 で 、 で 、 、 で 、 で 、 で 、 で 、 で 、 で 、 で 、 で 、 で 、 で 、 、 で 、 、 で 、 で 、 で 、 で 、 で 、 で 、 で 、 で 、 で 、 で 、 、 で 、 で 、 で 、 で 、 で 、 で 、 で 、 で 、 で 、 で 、 で 、 、 で 、 、 で 、 、 で 、 、 で 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、	いて学ぶ。前よび災害支援といいて学ぶ。前よび災害支援とりというにいいいいについていいの事が以下の事が以下は、一次のの防災時後に地域防	経活動、地域に ぶ。地域防災に	
基礎科目	科学	建築・まちづく	9	年の建築物・とったの計がといっていますが、とっていますが、こっていますが、このでは、では、このでは、では、このでは、このでは、このでは、このでは、こので	は、建築物のさればいるないでは、建築物のさればいる。本では、本では、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、	設計や建築計 れている視点 いては、法制 や都市基盤の づくりのプロー 祉政策とまち 地域のマネジ	画の事の基本を学い 基本にづくま本にできる 関連をはいるできるできる。 あるできるできる。 あるできる。 あるできる。 あるできる。 あるできる。 は、これでは、 とれでは、 とれでも、 とれでは、 とれでは、 とれでは、 とれでは、 とれでも、 とれをも、 とれをも、 とれをも、 とれをも、 とれをも、 とれをも、 とれをも、 とれをも、 とれをも。 とも。 とも。 とも。 とも。 とも。 とも。 とも。 とも。 とも。 と	ぶとともに近	
基礎科目	科 学	統計学序論		や研究の分野 計について基 に考察し処理 認識できるよ	で必要である 必要な知識の する能力を育 うに統計の見 はじめて確率	。特に統計学 修得と技能の てるとともに、 方、考え方、」 ・統計を学ぶ	を学ぶにあた 習熟を図り、 、数学的な見 な用と具体的 者にとっては	知識は、臨床 上り確率及び統 事象を数学的 上方や考え方を 日な計算方法を 1、統計学への	
基礎科目	科学	統計学		解析の結果か 手法を身につ める記述統計 び、探索デ 学を解説、演	ら、、るは、新講話のは、からない。またない。またない。またない。またないでは、いいでは、いいでは、いいでは、いいでは、ないでは、いいでは、ないでは、いいでは、ないでは、な	実を発見した データの整理の 確率、母集団、 、最終的に推; は統計ソフト] 理解できるよ	りするときに の仕方、平均 、標本抽出、 定、検定とい Rコマンダー	たり、データ 役立の統計的 ひ分散等を学 の本学の一次 でを推測統計 を使用し、結果 に業養は作業療	
基礎科目	科 学	生物学		源、生物の多	構を分子レベ 様化、ヒトの 生態系のエネ する。最後に	ルに至るまで 起源と進化を ルギーの流れ 、地球環境と	学修する。 さ 学び、次に、 を学び、生物 ヒトとの共有	らに生命の起 生物の集団、 Jと環境とのか	
基礎科目	科学	物理学		利用する上で 利期に数理は 古典の原理 がなかった したディベー	有用な学問で古いながにない。 有成感覚すい。 で古いとのでは、 で古いとない。 で古いとない。 で古いとない。 で古いとない。 で古いとない。 では、 ではいいとない。 では、 ではいいとない。 では、 では、 では、 では、 でいる。 でいる。 でいる。 でいる。 でいる。 でいる。 でいる。 でいる。	ある。 今回は 典力学の領域 領域であり、」 ができ、入学! く履修できる。 を実施する予?	は物理学の諸様を中心に講義 を中心に講義 比較的に物理学 以前に物理学 にであり、ア	:実験によって に接したこと	
基礎科目	科 学	情報リテラシー		速に普及し、 系科目の基盤 組みと効果的 情報分野の基	生活とビジネ として、カ な使い方、セ 礎概念と各種 用、アルゴリ	スの仕組みを ピュータとイ キュリティの 用語の正確な	大きく変えた ンターネット 課題と対策を 理解、情報シ	紀にかけて急 。今後の情報 の基本的な仕 ・中心に学ぶ。 ・ステムの基本 ・認識技術の	

		授 業	科	目	Ø	概	要	本上美規格A4 縦型)
リハ	ゴリテーション !	学部 作業療法学科 T	_					T
	科目 区分	授業科目の名称		i	講義等の内容	F		備考
基礎科目	科学	ICT概論	ICTを代表するも Things)に焦点を な適応事例として で学ぶ。 次に、ICTの進化 いて、省力化とQ 適応事例における	を当て、AIと てのスマホテ による医療 OLの向上の	ともに、その プリや音声 福祉分野にお 観点から、同	の特徴と今後 認識サービン らける今後の 引分野におけ	後の動向を身近スの体験を通し 活用見込みに~	
基礎科目	科学	健康科学	運動不足、飽食、 式では、生活習情素である運動、分 康を維持、増進す とを目的とする。	貫病のリスク 栄養、休養を するために関	が大きくな 中心に講義	っている。依 し、対象者 ^く	建康作りの3要 や自分自身の健	
基礎科目	科学	食と健康	この科目は、食生では、とすることを目的は、とする日の様にといる。 これ できる	る。 情報から適り でバランスの 後 う。 り方や留意点	のな知識を選り良い食生活 などの基礎	択し、活用し を実践し、例 知識・技術を	していくスキル 建康を維持・増	
基礎科目	科学	化学	化学は物質の構成であり、 でありの体内で起こ 学の諸領する。 を展開する。 を展開連を相互の関 質たちころ うとと を を を を と と と と と と と と と と と と と と	有こか学で関 用な様、はるをでい係授業 といいは を業しといい自 がな基 のいか自然	上関わり、興! 記象を説明す! なる理論化! のごとを認識 こ少ない原理!	味深い理論体 るツールでも 学と無機化学 に見えるとがっ で統一的に 野	本系を持ち、 ある。今回は講義 ぎを中心に講義 が、実はある、 大切であり、物 里解するかとい	
職業専門科目	人体の構造と機能及び心	解剖学 I	ヒトの器する。 運動行学でよって 解引学でショコ学を 解学での 関リテる。 関リテる 構造をでする でが の構造いで 理がでする でが でが の構造いで でが でが でが でが でが の構造い でが でが でが でが でが でが でが でが でが でが	にある諸器で 構解到目のは 関門はは は は 講義で が る。 構造を が る。 は に 、 し 、 し 、 し 、 し 、 し 、 し 、 し 、 し 、 し 、	官の内に内にいたので、大きなので、大きなので、大きなので、大きなので、ないでは、大きなので、ないでは、ないでは、ないでは、ないでは、ないでは、ないでは、ないでは、ないで	、および身 、本の構成と 重要な学問と で解剖学の の解またが で解また で解れました。 で の で の の の の の の の の の の の の の の の の	体の統合・統合 構造をするいた 位置付け運動と 位成るが でしまが であるが であるが であるが であるが であるが であるが である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。	制がピて系スち
職業専門科目	び心身の発達人体の構造と機能及	解剖学Ⅱ	解剖学IIでは、本臓器系ではさらん必系、必尿器系がになるのでいる。 で学んでいうラー!く。また、器官のそれぞれの器官の	こ感覚器系、 および生殖器 講義では総話 リングテキス の成り立ちと	消化器系、「 景系に分けて 論的な内容に 、トを多用し、 、機能を理解	呼吸器系、復 それぞれの概 絞りこんだ系 て理解の深厚 するために、	盾環器系、内分 機能と関連付け 系統解剖学をス 度を深めてい 顕微解剖学で	
職業専門科目	人体の構造と機能及び心	解剖学実習	肉眼解剖学の実生でである。 大学を情格をはいる。 大学を情格をある。 大学のでは、 大学のでは、 大学のでは、 大学のでは、 大学のでは、 大学のでは、 大学のでは、 大学のでは、 大学のでは、 大学のでは、 大学のでは、 大学のできる。 大学のでを、 大学のでを、 大学のでを、 大学のでを、 大学のでを 大学のでを 大学のでを 大学のでを 大学のでを 大学ので 大学ので 大学の	で特に重要な 関督 関督 関係 性にう。 体に にう。 が が が が が が が が が が が が が	に骨、軟骨、 ででででである。 はないででである。 でではないではない。 でではないではない。 ではないではないではない。 ではないではないできる。 ではないではないできる。 ではないできる。 ではないではないできる。 ではないではないできる。 ではないではないできる。 ではないできる。 ではないできる。 ではないできる。 ではないできる。 ではないできる。 ではないできる。 ではないできる。 ではないできる。 ではないできる。 ではないできる。 ではないできる。 ではないできる。 ではないできる。 ではないできる。 ではないできる。 ではないできる。 ではないできる。 ではないではないできる。 ではないではないではないではないではないできる。 ではないではないではないではないではないではないではないではないできる。 ではないではないではないではないではないではないではないではないではないではない	関節および 関節および 構型標本され ない はい ない ない はい	図帯の構造およ 詳細な観察とス は骨の形状や起 見れる解な作りの 難教員から学 で学習し、質	

		—————— 授	業	—————— 科		<u></u>	概	要	-未祝俗A4樅空)
リハモ	ヹリテーション ^s	学部 作業療法学	学科						
	科目区分	授業科目の	の名称			講義等の内容			備考
職業専門科目	び心身の発達人体の構造と機能及	機能解剖学			践に必要なこ 点から、関節で 体験を通じて ては、学生同 ながるよう、パ	の構造と関節の 学ぶ。 士による触診等 解剖学的な位置	本の動きを理 の運動、筋の 等の手法によ	解するために 走行と関節の り、人間の動	
職業専門科目	人体の構造と機能及び	生理学 I		や生命現象の の運動に関連 機能」「筋味 等といった内? 本科目の内容 剖学で学んだ	基本的な機能 する「筋細胞 力・収縮」「i 容を中心とし は、ICFの「心 「身体構造」 等で「身体構造」	・神経細胞」の 軍動・反射」 て講義により学 ・身機能」の理	か系生理学」 ロマクロから 「随意運動・ 対ぶ。 解を主な目的 2年次の「生	として、人体 、「神経系の 不随意運動」 内とするが、解 生理学実習」に	
職業専門科目	び心身の発達人体の構造と機能及	生理学Ⅱ		を維持調節す 泄」等といっ 本科目の内容	基本的な機能の る機能である た内容を中心に は、ICFの「心 「身体構造」	のうち、「植物 「呼吸・循環」 こ講義により当 ・身機能」の理 を基盤として、	加系生理学」 「代謝」「 対ぶ。 解を主な目的 「生理学実	として、生命 消化」「排 わとするが、解 習」による体	
職業専門科目	能及び心身の発達の発	生理学実習		として、「心 本科目では、	理学的な機能に 身機能」を実 グループによ まとめる。ま	こついて実際に 験的・体験的に り実験を実施し た、実験項目に	ご取得できる に実習を通じ し、その結果	データを中心 て学ぶ。	
職業専門科目	能及び心身の発 達の発	運動学 I		本科目では、 度、まり生産 義により内内 表の内内 がな基礎 く)とを ることを 目の のの のの のの のの のの のの のの のの のの	や時間的な変ん。は、力学的なる、呼吸・循環、とを解剖学・	立などの基本的 基盤とともに、 疲労等を含み	りな知識を中 運動生理学 メ、人間が運	心として、講 につながるよ 動する(動	
職業専門科目	人体の構造と機能及び	運動学Ⅱ		動(動き)を運動を統合し本科目の内容的に至るイメック・立ち上が	理解する上で, た観点から運! は、静止姿勢・ 一ジを、座位 り・歩行といて、人間が運!	必要な時間的た 動に要ない時間的た いの連続しい かった連続した がった連続した がった。 動する(動く)	は連続りという。 は、連続り学と、 は、と、、 は、と、、 は、と、、 と、、、、、、、、	う視点での運 調節、寝返 「果の運動(動 を解剖学・生	
職業専門科目	人体の構造と機能及び心	運動学実習		ように調節し 「運動(動き ぶ。 本科目の内容 分析・解析を	として、「運! でいるのか、 ・動作)」に・ は、運動生理! 「歩行分析」 ⁽⁴⁾ 、動作解析機! レポート等に	動」がそのようといいでは、 がのようでは、 がのようでは、 がのいて学生に同っている。 での講義内容のである。 でのは、 がいるでは、 でのは、 でのは、 でのは、 でのは、 でのは、 でのは、 でのは、 でのは、 でいることを でいることを でいることを にいるに、 でいるに、	のにして起こ 解すべきか等 はの体験実習に の体験実習に が、動画再生 の機器計測に が、通じて、「	るのか、どのの観点から、 の観点から、 等により学 加えて、動作による視覚的 よるデータ抽	共同

	•	授	業	科	目	Ø	概	要	
リハ	ビリテーション 科目 区分	学部 作業療法等 授業科目の			;	講義等の内容			備考
職業専門科目	人体の構造と機能及び	運動生理学		実習」による意践に結び付くる機能に着目した本科目の内容に「運動と循環がは、」「運動」	実験的な体験にような人間が追 ような人間が追 た内容を講義に ま、運動に着目 幾能」「運動と	よる理解を基 動する理解を基 まり学ぶ。 した観点から 筋疲労」「通 かと消化・排泄	を盤として、 () ことによ o、「運動と 運動と栄養	(消化と吸収含	
職業専門科目	び心身の発達人体の構造と機能及	人間発達学		を発達 (広義) て、講義を通	に捉えて、週 じて学ぶ。特に 退行による課題 いう観点からの 退化・退行なと	運動発達と精神に、成人から表現した。 成人から表現を一連の流れの対人関係やこれでいての	申心理的な発き年期、終末 いとして捉え いきュニケー 「ひと」とし	ーション、また	
職業専門科目	過程の促進 り立ち及び回復 疾病と障害の成	病理学		論を基盤に「 についての基 内容としては パラートなど	正常な状態」だ 本的な考えを、 、解剖学や生理の病理標本等	から逸脱した 講義により学 理学の基本的 を観察するこ	状態という ≦ぶ。 知識を踏ま とで、病気	、組織学的な理 「病気」の原因 えながら、プレ (疾患・疾病) 解することを目	
職業専門科目	り立ち及び回復 海程の促進 変病と障害の成	臨床心理学		て臨床実践す ズを的確に把 識とスキルは 必須の対人援	る際の基礎(握し、患者か 必要不可欠でる	コア) となる ら信頼される ある。具体的 の傾聴技法や	学問でもあ ためには、 には、全て 共感技法な	専門職業人としる。患者のニー る。患者のニー 臨床心理学の知 の医療にとって どのカウンセリ などを学ぶ。	
職業専門科目	ち及び回復過程の促 変病と障害の成り立	精神医学		等の疾患疾病は 心理的な疾患が 内容としては、 の読影を含む)	こよる病理や治 疾病(認知症を 診断のための 、治療学とし 理的な病因から	音療法に当たる と含む)につい の各種検査とそ いての行動療法 の表出する行動	ら各論を中心 いて、講義を この結果の考 まやその他の かに対して、	ぎえ方(CTなど)治療方法とと 作業療法の治	
職業専門科目	び回復過程の促進疾病と障害の成り立ち及	整形外科学		による各論に。 傷、脊髄損傷等 治療の延伸との 寿命の延伸との 内容としては、	より、作業療法 等の神経等、 つけ経 いで で で で で で で で で で で に に の り が で で に で の き た い で い で に い で い で い で い で い う い う き た い う う き た い う う き い う う き い う う き い う で り で り で り で り で り で り で り で の の で の に の の に の の の の の の の の の の の	の対象となり 骨軟部腫瘍と ロコモティウ も講義を通じ る各種検査結果 治療などの治療)やすい骨切り とともに「ロー ジンンドないでは、 この考え、 その そのない。	fなどの診断と -ムなどと健康 (X線、CTやMRI)他の保存的治	
職業専門科目	及び回復過程の促進疾病と障害の成り立ち	神経内科学		断(検査を含む (認知症を含む) 領域におけるが 内容としては、 影を含む)や	b) 等の総論と を) 等の診断と を) 等の診の在宅 きを) 影等ののを きを きを きを きを きを きを きを きを きを き	脳血管疾患、 治療の各論に 医療について 各種検査結果 が法について 場等に起因する	神経・筋疾される。	機序等による診 長患、変性疾患 ミた、神経内科 通じて学ぶ。 (CTやMRI等の読 に障害や認知症	

								(用紙 日本_	L美規格A4 紙型)
リハモ	ごリテーション 5	授 学部 作業療法 ⁵	業 学科	科	目	Ø	概	要	
	科目区分	授業科目				講義等の内容	容		備考
職業専門科目	び回復過程の促進疾病と障害の成り立ち及	小児科学		期に発症等に代通と感染を 大変に 大変に 大変に 大変に 大変に 大変に 大変に 大変に	よる疾患疾病謝、神経・角 して学ぶ。 、診断学の語 の発達学的諸 期に関連する ず治療を必見	病の発現機序等 第等の疾患疾病 うち各種検査の 検査を含む)。 る周産期や胎児	の診断(検 の診断と治 結果の考え や投薬等の治 期からの染 青年期や成	・中心とした年齢 査含む)等の総 寮の各論につい 方(X線、CTや 京方法について 色体異常等、ま 人期等の対象に	
職業専門科目	び回復過程の促進疾病と障害の成り立ち及	内科学		査を含む)等の を通じたででしている。 特に、X線、C 特に、糖尿病	の総論と呼吸 各論について 。 、診断学の T・MRI等を 、高血圧等の	吸器・循環器・ て、また、在宅 うち各種検査の 含む) や投薬等	消化器・代記での医療・ 結果とその治療方法 、その危険	による診断(検 謝・感染症等の 介護を含め講義 考え方(血理 まこついでの理解に で取り扱う。	
職業専門科目	及び回復過程の促進疾病と障害の成り立ち	老年医学		する疾患疾病 科疾患を中フ じて容として で容として になって でないで でないで でないで	の発現機序等 とするほか、 イルなど健康 、診断学の MRI等を含む 限らず、終え	等による診断(認知症を含め 表寿命の延伸の うち各種検査の) や投薬等の? 末期や緩和ケア	検査を含む た診断と治り 阻害要因な 結果とその 治療方法につ	的変化を主変と 等の各論と内 原の各論につい が表して が表して が表して 考え方(認知機 いて 見取り、健康寿	
職業専門科目	り立ち及び回復 り立ち及び回復 変病と障害の成	救急救命の基礎	k.	につけるべき 内容としては サージ、AEDの の管理(安全	対応を、実技 、ABCDEアプ の取扱い等の 確保) や搬送	支(実習)を通 ローチ、気道の ほか、外傷のの	じて学ぶ。 の確保、人工 芯急手当(止 ることで、?	て、一般的に身 二呼吸、心臓マッ :血法)、傷病者 故急救命の必要	
職業専門科目	及び回復過程の促進疾病と障害の成り立ち	薬理学		ような影響をおうなを通じてはいった臓器別害事象につい	与えるのかる 学ぶ。 、炎症、免疫 、 腫瘍等の では、最近の では、最近の	という効果の機 をや代謝等の病 疾患疾病等に対 る。 のトピックスや	序等の基本に 因別、呼吸 する効果の		
職業専門科目	及び回復過程の促進疾病と障害の成り立ち	栄養学		で療のする状態に活動とで療のする状態に活動を変して、これで療のは、大きないで、大きないが、たまないがいがいが、たまないがいが、たまないがいがいがいがいがいがいがいがいがいがいがいがいがいがいがいがいがいがいが	エネルギスルギるリーとなる。というというというできる。というないがのか、できたがのが、できたがのが、できた。	を取る。食事類健康状態の重要リテーションは要である。積 となればない。 を と と と と と し と し と し と し と し と の と の の で あ る 。 で あ る 。 し る し る し る し る し る し る し る し る し る	療法や要な関いでは を要と を要わにる 質と での での での での での での での での での での	を接取し生体内 学を学のこと。 かとのい治 かとのい治 がいい治 がで、 で、 で、 で、 で、 で、 で、 で、 で、 で、	

			業	科	目	Ø	概	要	上未况俗A 4 സ空/
リハロ	ヹリテーション ^s	学部 作業療法	学科	,					
	科目 区分	授業科目	の名称			講義等の内容	\		備考
職業専門科目	テーションの理念保健医療福祉とリハビリ	リハビリテーシ	/ョン医学	のうち、(伴) 外傷診障害し(検査断 を) を) を) を) を) を) を) を) を) を)	学的リハビッさを含ませい。というではなりでは、というでは、というでは、というでは、というでは、大大のでは、大大向の禁いが、大大のでは、大いでは、大大のでは、大いでは、大いでは、大いでは、大いでは、大いでは、大いでは、大いでは、大い	里的・社会的・ リテーションで、 リテーに対対で、と を かにないが、を を をなを を を を を と 禁 に で で で で と と き に で を を を を を を を を ま を と き に の に で 、 を を を を を を を を を を を を を を を を を を	を中心として を中心として その疾患で を通じて を通じてやMR 療法・荷の解する 、理解する	て、疾患疾病・ を現機序等によ を対しい がい。 はい がい。 がい。 がい。 がい。 がい。 がい。 がい。 がい	
職業専門科目	ビリテー ションの理保健医療福祉とリハ	リハビリテーシ	/ョン概論	ションやIL(と日本のリハ また、関連 どのようなこ	Independent ビリテーシ するさまざる とをしてるの 等について知	ーションを学ぶ : living:自立 : living:自立 に対している。 にはないではないでする。 にはないではないではないでする。 にはないではないではないでする。 にはないではないではないできます。 これることではないできます。 これないできます。 これないできますないできます。 これないできますないできます。 これないできますないできます。 これないできますないできます。 これないできますないできます。 これないできますないできます。 これないできますないできます。 これないできますないできますないできますないできますないできます。 これないできますないできまないできますないできまないできまないできまないできまないできまないできまないできまないできま	生活) の考え 相違などを当 のような定義 ような場所	た方、また欧米 坐ぶ。 遠に基づいて、	
職業専門科目	ションの理念とは健医療福祉と	公衆衛生学		等の幅広い領 身の健康の維 内容としては による早期発	域を持つ公療 持・向上を 、生活習慣 見・早期治療	環境保健、産業 装衛生のうち、 図る方法等についる 数善等の健康増 素、社会生活課題 かる様々な課題	疾病予防、生いて、講義を いて、講義を 進、検診を受 持のための社	三命の延長、心 ご通じて学ぶ。 を診すること等 社会復帰等を含	
職業専門科目	テーションの理念 保健医療福祉とリハビリ	地域福祉論		や団体につい歴史的発・していいでは、 を、つける。、NP 機関や人はに りまる。、NP 機関やリコニア りまる。 で、NP で、の機関でしていて で、これでいて、 で、これでいて、 で、これでいて、 で、これでいて、 で、これでいて、 で、これでいる。 で、これで、これでいる。 で、これでいる。 で、これでいる。 で、これでいる。 で、これでいる。 で、これで、これで、これで、これで、これで、これで、これで、これで、これで、これ	て理解する。 つい文化の 済・文化の 学は、在宅社 の法人の実践 ついソーシー なする。また		ら現代までののう現代までののう現代には他のう現点にはいる。 のう現とははいいません。 ででででででいる。 ででででいる。 でででいる。 ででは、できない。 ででは、できない。 ででは、できない。 ででは、できない。 ででは、できない。 ででは、できない。 ででは、できない。 ででは、できない。 ででは、できない。 ででは、できない。 できない。	つ、地域福祉の り様相との 建解する福祉 推進する様々か にでするでする。 は進する様々か にでするでする。 にでするでする。 は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、	
職業専門科目	保健医療福祉とリハビリテーションの理念	地域共生のため	の連携活動	取生ビは連こけ働生的 (地域を33計事働を職住にこ バ 神 生 齋 とのに オ ① 共 齋 の 本 の 氏向と ス 澤 連 藤 談と動でとはの民向と ス 澤 連 藤 献 を 動でとはの民向と ス 澤 連 藤	行いをあ地特役とけを 方 孝 活 恵 しっ一る域に割のて目 式 主 動 友 にの人民本地互礎と 全 15 町 / 6 回 に 上で () () () () () () () () () (その を を を を を を を を で で で で で で で で で で で で で	慣生的とグ活加し、 地援開関可た連いが 地援開関可た連い的 当 当 はていてが がすいて の の の の の の の の の の の の の	でかかた かかく あいく あいく あいく あいく あいく あいく あいく あい	オムニバス方式

		授	業	科	目	Ø	概	要	
リハヒ	ゴリテーション 5	学部 作業療法学	^丝 科	<u> </u>					
	科目 区分	授業科目の	の名称			講義等の内容	容		備考
職業専門科目	(保健医療福祉とリハビリテー	地域共生のため Ⅱ	の連携活動	それぞれの地 とその家族と この科目では I」で修得し ンタビューな ズの把握や抽 グループワー ンを行うため	域の特性に応 のでないがいがいたのでは、 でもいるでは、 ではのかないでは、 ではののが、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では	じた職種間の 重要概論る。 ・クはというでは、 ・アンでは、 ・アとでは、 ・アンでは、 ・アンでは、 ・アンでは、 ・アンでは、 ・アンでは、 ・アとでは、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・では、 ・	連携・協働、「地域共生のがを横断したが、」り周辺地域でそのためのプレー他の症例や事	こ当た、 は、者 に 対	共同
職業専門科目	基礎作業療法学	作業療法学概論		作業療法の歴 ほか、作業療 について、講 業分析」の理	歴史や職業倫理 法との基本的な 議義を通じてき 記論・考え方を アプローチャ	里、現在の作 は理論・考え 学ぶ。特に、 と通して、「	業療法を取り 方や一連の実 作業療法にと 作業」の意味	できるように、 巻く社会状況の 登職のでは、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 できるように、 できるない。 できるな。 できるな。 とっと。 とっと。 とっと。 とっと。 と。 とっと。 と。 と。 と。 と。 と。 と。 と。 と。 と。 と。 と。 と。 と	
職業専門科目	基礎作業療法学	作業療法学各論		理論とその体じて体験し、	系について、 主体的に課題 行為向上マネ	講義を通じて 解決ができる	学び、一部に	用いる基本的な は演習形式を通 とする。 作業療法の理論	
職業専門科目	基礎作業療法学	基礎作業学演習	I	て、演習形式 体験及び「作 標とする。	によりいくつ 業分析」によ 主に1人1人の	る作業の意味 作業のかかわ	動」を通じて でけを理解で いりやその影響	て、「作業」の できることを目 響 や集団の特性	
職業専門科目	基礎作業療法学	基礎作業学演習	П	て、「作業」 て、演習を通	の体験及び じて、理解で ては、主に集	作業分析」に きることを目 団やその中の	よる作業の意 標とする。	養活動」を通じ 意味づけについ 養のかかわりや	
職業専門科目	作業療法管理学	作業療法管理学		かについて、 I」の準備や ように活用さ	講義を通じて振り返りを通れているのか 共有し、自身	学ぶ。また、 1じて、実際の いについて、発 7の体験と合わ	前期で体験で 作業療法場 表等の演習用 ではて作業療	いられているの ける「体験すど 面で作業がどで他 形式を通じて他 まとしての問題	
職業専門科目	作業療法管理学	作業療法管理学	П	観を培い、国 必要性を理解 ての基本的な また、職場組	家資格取得後 し、将来的な 姿勢を身につ 織の一員とし 組織を運営す	も生涯学習に スキルアップ ける。 て勤務するこ る段階に必要	努めるといっ でとともに、 とから、将デ な組織マネジ	職業的な倫理 った自己研鑚の 作業療法士とし 株的に職場の管 ジメントについ え方を理解す	

		授	業	科	目	Ø	概	要	
リハヒ		学部 作業療法学	学科	Τ				1	
	科目 区分	授業科目の	の名称			講義等の内容	ř		備考
職業専門科目	作業療法評価学	作業療法評価学	概論	学に結び付け 式により作業 プローチを考 る。 また、作業療 ものの評価と	用の観点から、 られるよう、 療法の流れと えるかについ 法の評価は最 して、心身機 境因子や個人	、評価方法だは 講義を通じてしてどのようして主体的に解 で主体的に統合する 能・身体構造	けではなく、 一連の流れを に作業療ること 決できること ることで、 の評価に偏る	作業療法治療 学び、演習形 こよる治療・ア	
職業専門科目	作業療法評価学	身体機能作業療	法評価学	を通じて基本 することで理 なお、「作業	的理論を学び 論と実技の統 療法評価学概 から具体的な	、演習形式を 合を図ること 論」の講義の 実技的な手技	通じて実技的 を目標とする 内容を踏まえ	ついて、講義 内な手技を経験 して、基本的な で、基本のな ・連のアセスメ	
職業専門科目	作業療法評価学	精神機能作業療	法評価学	いて、講義を 手技を経験す なお、「作業 論・考え方か	通じて基本的 ることで理論 療法評価学概	理論を学び、 と実技の統合 論」の講義内 技的な手技を	演習形式を追 を図ることを 容を踏まえて	新価内容につ 値じて実技的な 注目標とする。 に、基本的な理 値のアセスメン	
職業専門科目	作業療法評価学	発達障害作業療	法評価学	応じた機能に 学び、演習形 の統合を図る なお、「作業	関する評価内 式を通じて実 ことを目標と 療法評価学概 から具体的な	容について、 技的な手技を する。 論」の講義の 実技的な手技	講義を通じて 経験すること 内容を踏まえ	の発達段階に 工基本的理論を で理論と実技 こて、基本的な 連のアセスメ	
職業専門科目	作業療法評価学	高齢期作業療法	評価学	いて、講義を 手技を経験す なお、「作業	通じて基本的 ることで理論 療法評価学概 から具体的な	理論を学び、 と実技の統合 論」の講義の 実技的な手技	演習形式を追 を図ることを 内容を踏ま <i>え</i>	新価内容につ 値じて実技的な 注目標とする。 上て、基本的な →連のアセスメ	
職業専門科目	作業療法評価学	高次脳機能作業	療法評価学	な高次脳機能 を学び、気を 技の統合を作力 なお、「考え方 理論・考えで ントを理解で	に関する評価で 形式を通じてで ることを目標 療法評価学概 から具体的ない きることを目れ	内容について、 実技的な手技とする。 論」の講義の 実技的な手技 票とする。	、講義を通じを経験するこ 内容を踏まえ を実施する-	であさまざま で基本的理論 とで理論と実 こて、基本的な 連のアセスメ	
職業専門科目	作業療法評価学	日常生活活動作 学	業療法評価	を通じて基本 ることで理論 また、日常生	的理論を学び と実技の統合 活活動等を支 る評価の基本	演習形式をを図ることを援するための	通じて実技的 目標とする。 福祉用具、義	こついて、講義 か手技を経験す として学び、理 もして学び、理	

			業	科	目	<i>o</i>	概	要	L未祝俗A4 献空)
リハロ	ビリテーション ^s	学部 作業療法学	学科						
	科目 区分	授業科目の	の名称			講義等の内容	:		備考
職業専門科目	作業療法治療学	身体機能作業療	法治療学 I	による否定的化 チの計画力を実 を深め、作業療 機能・身体構	側面・肯定的的 と学び、という をは、という をは、という をは、という をは、という をは、こう をは、こう をは、こう をは、こう をは、こう をは、こう をは、こう をは、こう をは、こう をは、こう をは、こう をは、こう をは、こう という。 という にいる にいる にいる にいる にいる にいる にいる にいる にいる にいる	側面に対する付益程について、 でによりそのいたによりそのいた。 プローチの計 ことなく、活動 方や急性期・ ご等といった。	作業療法の活 講義を通し 内容を経験す 画立案に当た 動・参期・生 巨活の場なと	なび頭部外傷等 台療・アプロで理 こで基本とで 心身 では、心身 ででは、心 ででは、心 は、や個人 活期などの継時 どの多角的観	
職業専門科目	作業療法治療学	身体機能作業療習 I	法治療学実	に沿った作業を 計画を立案し、 また、その実施 総合実習につかなお、他者の	療法計画までの その内内 その内内容を 野体がる。 発表内で、 問題 開して、 問題	○一連の内容を に習体験する。 を表、フィー 幅広く作業を	を、模擬事例 ドバックをす 療法の流れる	ド業療法の流れ 利などを通じて けることで次の と理解し、その させていくこと	
職業専門科目	作業療法治療学	身体機能作業療	法治療学Ⅱ	定的側面・否介 画立方を必ずできることができること、 を を を を を が で き な に り 条 を き が で き が た り に り に り た り た り た り た り た り た り た り	定的側面等には 実施の側面過等になっ 実演習形を療るといる まないに目・すると は でいる は でいる に に に に に に に に に に に る と た さ と た に に に に に に に る た る た る た る た る た る た	けする作業療法のいて、講義を のいて、講義を いその内容を にする。 プローチの計 ことなく、活動 方や急性期・ ご等といった」	生の治療・アを通じて基本を通じてることを験することをいることをいる。 動・参加・や野いでは、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、		
職業専門科目	作業療法治療学	身体機能作業療習Ⅱ	法治療学実	に沿った作業を 計画を立案し、 また、その実施 総合実習につなお、他者の	療法計画までの その内内 その内内容を 野体がる。 発表内で、 問題 関して、 関目 でも を がある。 を も の り の と り の り の り の り の り の り の り の り の	の一連の内容 に習体験する。 を表、フィー 幅広く作業を	を、模擬事例 ドバックをす 療法の流れを	F業療法の流れ 利などを通じて けることで次の と理解し、その させていくこと	
職業専門科目	作業療法治療学	身体機能作業療	法治療学Ⅲ	に対する作業 に対する、講 について、内容 よりその内容 なお、作業療 機能・身体構	突患・疾病・・クラ 療法の通じる・デ を経験す療 基本 をといる・フラ をといる・ファ をといる・フィ をといる・フ をといる・フ をといる・フ をといる・フ をといる・ といる・ といる・ といる・ といる・ といる・ とっと とっ とっ とっ とっ と と と と と と と と と と と	ト傷等による「アプローチの」 で理解を深い で理解を深い ではなく、活動 たなる性期・ たや急性期・ をないった」	肯定的側面・それ 計画立案を学り きることにいる がある。 一個では は で で で で で を が で を が る に に に に の が る に に に の が の が の が の が の が の が り の が り に の が り に り に り に り に り に り に り に り に り に り	・否定的側面等 さの実施の過程 が、演習形式に 目標とする。 はな子は、 では因子や個人 活期などの継時	
職業専門科目	作業療法治療学	身体機能作業療 習Ⅲ	法治療学実	に沿った作業を 計画を立案し、 また、その実施 総合実習につかなお、他者の	療法計画までの その内内 その内内容を 野体がる。 発表内で、 問題 開して、 問題	○一連の内容を 長習体験する。 養表、フィー 幅広く作業を	を、模擬事例 ドバックをす 療法の流れる	ド業療法の流れ 別などを通じて けることで次の と理解し、その エせていくこと	

			業	科	B	o o	概	要	未风俗 A 4 സ空)
リハし	ゴリテーション 5	学部 作業療法学	学科						
	科目 区分	授業科目の	の名称			講義等の内容	\$		備考
職業専門科目	作業療法治療学	精神機能作業療	法治療学	療法の治療・ 義を通じて基本を経験すること なお、作業療法 機能・身体構造 因子といった	他)等による アポートの アルカー アルカー アルカー アルカー アルカー 大会に での 関係 での に での に に に に よる で で に で に で の に で の に の に の に の に の に る に る に る に る に る に	肯定的側面・ 計画立方と考えることを 考えことを かるこの プロンなの でといる に 大や 急性期 に たい に たい たい たい たい たい たい たい たい たい たい たい たい たい	否定的側面等 で実演習する で実習するに で変なな で変な で変が で変が で変が で変が で変が で変が できる できる できる できる できる できる できる できる できる できる	器質的・双極 に対する作業 に対するで、講 よりその内容 こっては、心身 環因子や個人 舌期などの継時 での多角的観点	
職業専門科目	作業療法治療学	精神機能作業療習	法治療学実	沿った作業療 画を立案し、 また、その実 総合実習につ	生計画までの その を との 体 り な が る の を き る を き る や る ら る の を り る ら る ら る ら る ら る ら る ら る ら る ら る ら る	一連の内容を 習体験する。 発表、フィー 、幅広く作業	、模擬事例な ドバックをす 療法の流れを	理解し、その	共同
職業専門科目	作業療法治療学	発達障害作業療	法治療学	的側面等に対施の過程についる ではない。 ではない。 ではない。 が、 が、 が、 が、 が、 が、 が、 が、 が、 が、 が、 が、 が、	早期等の時期 中期等の時期 中るで、 中るで、 中での 大のの 治の は に に に に に に に た き に た た で の た で の た の に の に の に の に の に の に の に の に に の に に ら に ら	の疾患、外傷 の治じて基とでは、 通じてることである。 一口なるとである。 かった、 かった、 かった、 かった、 かった、 かった、 かった、 かった、 かった、 がった、 、 がった、 がった、 がった、 がった、 がった、 がった、 がった、 がった、 がった、 がった、 がった。 は、 がった。 がった。 がった。 は、 は、 がった。 は、 は、 に、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は	等による肯定 ローチの計画な理論を深める 理解を深める 画立、案にかやま 画動・復の場 生活の場なと	的側面・その 対象とそび標 方をとする。 方をとする。 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、	
職業専門科目	作業療法治療学	発達障害作業療 習	法治療学実	沿った作業療活動を立案し、 また、その実施 総合実習につい	生計画までの その内内容を 習体験内容を ながる。 発表内で、 問題 関連ない 関連ない 関連ない 関連ない に に に に に に に に に に に に に に に に に に に	一連の内容を 習体験する。 発表、フィー 、幅広く作業	、模擬事例な ドバックをす 療法の流れを	療法の流れに さどを通じて計 ることで次の 理解し、その せていくこと	
職業専門科目	作業療法治療学	高齢期作業療法	治療学	めることができなお、作業療に なお、作業療に 機能・身体構 因子を変化、病に がなさらに「{ なさらに「{	否定的では、 で生物では、 で生物では、 で生物では、 できるのでは、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、	に対する作業講容に対する作業講容によりというである。の、とローチを急いをつから、からいたがいた。 こうやきい は、 おいれい はいがい はいがい はいがい はいがい はいがい はいがい はいがい は	療法の治療・基の治療・基の治療・基を通り治しています。 当たり はいい はいい はいい はいい はいい はいい はいい はいい はいい はい	アプローチの・本的な理解を深っては、心身とで理解を深っては、心身と話期な子やの継時での多角的観	
職業専門科目	作業療法治療学	高齢期作業療法	治療学実習	沿った作業療活画を立案し、 また、その実施 総合実習につる	生計画までの その内容を実習体験内容を なげる。 発表内容、問題 明して、問題	習体験する。 発表、フィー 、幅広く作業	、模擬事例な ドバックをす 療法の流れを	とどを通じて計 ることで次の ・理解し、その	

								(用紙 日2	本上業規格A4 縦型)
		授	業	科	目	Ø	概	要	
リハロ	ゴリテーション 5	学部 作業療法	学科						
	科目区分	授業科目	の名称			講義等の内容	李		備考
職業専門科目	作業療法治療学	高次脳機能作業	療法治療学	性・変性疾患 等に対する作 程について、 によりその内 なお、作業構 因子といった	等による高済 業療法の治療 講義を通じで 容を経験する 法に偏重する はにによる考 にたい、施設・「 になる。」	を・アプローチ て基本的な理論 ることで理解を アプローチの計 ることなく、活 え方や急性期	る肯定的側面 の・深画動きを が変なない。 では では では では では では では では では では では では では	面・否定的側面 とその実施の過 学び、演習形式	÷
職業専門科目	作業療法治療学	高次脳機能作業 実習	療法治療学	沿った作業療画を立案し、 また、その実 総合実習につ なお、他者の	法計画までで その内容を 習体験内容を なげる。 発表して、問題	り一連の内容を 実習体験する。 と発表、フィー ら、幅広く作業	、模擬事例が ドバックをで 療法の流れる	業療法の流れになどを通じて計することで次の を理解し、そのさせていくこと	
職業専門科目	作業療法治療学	日常生活活動作 学	業療法治療	加に関すな機関の施習では、作りなって、 作りなって、 作りなって、 作りなって、 がいる。 は、 に、 作りない。 を構て、 に、	・ 容(職業関連 する作業療 いて、講義 その内容を 法の治療・ 法に偏重する にによる考 にによる考 にによる。	重活動を含む) 去の治療・アプ と通じて基本的 を験することで アプローチの計 ることなく、活	等による肯定な日本の計画な理解を深める。 実際の では できまる できまる できまる できまる できまる できまる できまる できまる	動作や開動と参定 を を を を を を を で で で で で で で で で で で で で	
職業専門科目	作業療法治療学	日常生活活動作 学実習	業療法治療	れに沿った作 て計画を立案 また、その実 総合実習につ なお、他者の	業療法計画。 業療法計画を その内容 を を が 表 で 表 の を を を の を を の を の を の を の を の を の を	までの一連の内容を実習体験する発表、フィー る、幅広く作業	容を、模擬 る。 ドバックを 療法の流れる	作業療法の流 事例などを通じ することで次の を理解し、その させていくこと	
職業専門科目	作業療法治療学	日常生活活動支	援治療学	支等法を経済を経済を経済を経済を経済をを経済をを経済をを発するたる。またるでは、・とのでは、・とのでは、・とのでは、・とのでは、・とのでは、・とのでは、・とのでは、・とのでは、・とのでは、・・とのでは、・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	の福祉用具 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	・義肢装具・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	宅改修・その 定的側の過程に 実演るこの を を を を に を を に を を に を を に の が た に の さ に を に り る 立 を を に り る し る り を り を り を り を り を り を り を り を り を り	こっては、心身 環境因子や個人 活期などの継	÷
職業専門科目	作業療法治療学	日常生活活動支 習	援治療学実	沿った作業療画を立案し、 また、その実 総合実習につ なお、他者の	法計画までで その内容を るはずる。 ながまの容が 発表して、問題	り一連の内容を 実習体験する。 と発表、フィー ら、幅広く作業	、模擬事例だ ドバックをで 療法の流れる	業療法の流れになどを通じて計することで次の を理解し、そのさせていくこと	

			業	—————————————————————————————————————	B	Ø	概	要	
リハ	ビリテーション				_		1-70	~	
	科目 区分	授業科目	目の名称			講義等の内	內容		備考
職業専門科目	作業療法治療学	健康寿命の延	申	スが命は取技く築点る向を てで ((第題第(第応第 (第症 (第と (第 (第第の社の、り能、すのよか考こ、き オ ▲ 回 回康~ 回 ▲ で ② 11対 ② 20 23~安 23~ 20 20 23~ 20 23~ 20 20 20 20 20 20 20 20 20 20 20 20 20	命とり進こと見るをでこを ス 克工 体な と 高レ きこ 引衛のとり進こと見るをでこを ス 克工 体な 巻齢、 活 寺こ 引衛の国くへと割ともる体こがは健康に 式 /テ 事 ば 穂に折 晴と 哲ろ 肇学と指縮護必、る立で、でるこに付 / /テ 事 に 想に折 晴と 哲ろ 肇学と指縮酸予要障疾では精あ。れつけ 全 回シ 業 お 3お転 2参 夫の 3的な摘め予要障疾では精あ。れつけ 全 回シ 薫 お 回け倒 回加 21棟 10点のさる防でが患るな神り、まいる 15)ショ に け 回け倒 回加 21棟 10点の	たれ」のあいをべく的 でてこ 回 ン お る るな こ 回と かまの。、ことのを予さ、作 に考と し け 社 健ど 焦 しの にとめるを予さ、作 に考と し け 社 健ど 焦 の特、寿国様しる、る保的法 し健指 康 健 源 命 当 寿 健・ら維命家々て人多。健な士 て康す。 根 実 の 乗 運 ・	康の的な、のくま機どが、き寿。 それの おおいっくま機どが、き寿。 それの おいっと いうしゅう かいいん でもは は は は は は い から		オムニバス方式

		—————— 授		——————— 科		の	概	要	上美規格A4 紙型)
リハ	ヹリテーション ^s	学部 作業療法		14	н	0)	12%	y	
	科目区分	授業科目	の名称			講義等の内容	Ž		備考
職業専門科目	作業療法治療学	在宅医療・介護		で域上のい持でこ療を能((第 (第第第 (第題第第 (第第7 人) (第)	のルスの (A) (大) (本) (本) (本) (本) (本) (本) (本) (本) (本) (本	整備で、学どお指り 隻 お護の コン で しょう でいる はいかん とうじょ はいかん とうじょ はいかん とうじょ はいい とうじょ はいい とうじょ はいい とうじゅん はいい とうしゃ とうしゃ とうしゃ とうしゃ とうしゃ とうしゃ とうしゃ とうしゃ	りで、るで中 内背解 内 」 (健康・) で、るで中 内背解 内 」 (健康・) で、るで中 内背解 内 」 (健康・) に	ざる社会動向と課 患)	オムニバス方式
職業専門科目	作業療法治療学	生活行為を支援環境整備	きするための	機器の適合や めに、演習形 具体的には、 動を中心に、	全環境整備等 対でその理論 日常生活活動	等の環境因子か 論的背景と支援 助・手段的日常 具・日常訓練機	らの働きかり の実際を理解 生活活動・	るために必要な すを理解するた 解する。 日常生活関連活 器と住宅改修等	
職業専門科目	作業療法治療学	緩和ケアと作業	療法	痛めずい改しい人き本を調アの、。善て場合苦。目びと実にプ病業社わで痛 で、福践とまるあ」 は症社にと実践のる科学整のは症性に、様くが、は症性にある。	表 を で で い 、 う呼 に り が に の に が に の に が に の に が に に が に に が に に が に に に に に に に に に に に に に	愛和ないます。 現まが 大きな できない かった はい でいま かった はい でいま かった はい でいま かった はい かった いった かった かった かった かった かった かった かった かった かった か	緩疾、し活・かののにといれた。 は、慢能能りにであれた。 は、慢能能りにであれた。 は、しば、からのにはのが、 は、しばには、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は	ン(全人を のLの のLの のLの の上の の上の の上の の上の の表 のと のと のとす で がのと のとす のとす がのと のとす がのと のし、 のし、 のとす がのと のし、 のし、 のし、 のとす がのと のし、 のし、 のし、 のし、 のし、 のし、 のし、 のし、	

		授	業	科	目	Ø	概	要	
リハロ	<mark>ビリテーション</mark> 科目 区分	学部 作業療法学 				講義等の内容	卒		備考
職業専門科目	地域作業療法学	地域作業療法学	: : : : :	なる社会資源表 ないか。まで がぶるとを を を を を を を を を を を を を を	等とその活用等とその活用等を実際のよいで地域に関いている。という視点には、は生社会のかにできまる。	月方法、主とし 経療法の基本的 こある社会資源 引するのかにつ こついても理解 E現」などを例	て地域包括5な理論や考え等を演習形式する。 する。 にとり、作業別に、地域作業別	ために必要と たアシステムで たたまないて たたより体で たと共に「在宅 を療法がどのよ でない。 をないで をないで をないで ただとして ただとないで をないで でして でして でして でして でして でして でして でして でして でし	
職業専門科目	地域作業療法学	就労支援論	; :	療法を提供す どを学び、事 なお、初めて いろな場面が	るために、請 例による就労 の就労に対す 考えられるこ	構義を通じて基 分の計画立案等 ⁻る支援から、 ことから、ICF0	本的な就労支 により理解を 再就職、配置 の参加という	5対象者へ作業 を援のあり方な を深める。 置転換などいろ 側面だけではな 理解することを	
職業専門科目	地域作業療法学	生活環境学		「サービス」 り」について: づくりとそこ 可能であれば	「制度」「呼 学ぶ。さらに に住む人々の 、災害復興か	対策」を含めて こ、いくつかの)関係の理解を	、講義を通じまちづくりの 深めることを りなども含め	環境因子のうち で「まちづく つ事例からまち き目標とする。 うることで、災	
職業専門科目	地域作業療法学	地域作業療法学多		療法について ようなことが る。 対象は在宅高	、実際の現場 できるのかに 齢者に限らす 法が支援でき	号での支援を体 ⊂ついて、課題 [*] 、障がい者や	験・実習する 解決できるこ 障がい児、そ	と支援する作業 5 ことを目標とす ことを目標とす ことをまな視点か	
職業専門科目	地域作業療法学	障害児教育と作業	: ! !	こなり学児あ特能でいて育児の大きのがでいて育児の大きなのがでいていている。大きないがでいて育児を関がでいて育児をいるがでいて育児用	ない。は、課題では、課題を作る。といいる。がでので、これで、といいので、といいので、といいので、といいので、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は	、保健医療 東現状と 現状としわ 京士が はませい でして でして でした でした でした でした でした でいた でいた でいた でいた でいた でいた でいた でい	門職の支援に接続を支援を特別をはいる。 一般 できょう できょう できょう できょう できょう でき	は引きない。 は引きないない。 は引きないない。 経さのでいるでは、 経さのでは、 をきらいでは、 をきらいでは、 をきらいでは、 をきらいでは、 をきらいでは、 をきらいでに、 をきらいでに、 をきらいでに、 をきるできる。 をきるできる。 をきるいでは、 をきるいでは、 をきるいでは、 をきるいでは、 をきるいでは、 をきるいでは、 をきるいでは、 をきるいでは、 をきるいでは、 をきるいでは、 をきるいでは、 をきるいでは、 をきるいでは、 をきるいでは、 をきるいでは、 をきるいでは、 をきるいでは、 をきるいでは、 をきるいでは、 をいるでも、 をいるでも、 をしるでも、 をいるでも、 をいるでも、 をいるでも、 をいるでも、 をいるでも、 をいるでも、 をいるでも、 をいるでも、 をいるでも、 をいるでも、 をいるでも、 をいるでも、 をいるでも、 をいるでも、 をいるでも、 をいるでも、 をいるでも、 をいるでも、 とっと。 とっと。 とっと。 とっと。 とっと。 とっと。 とっと。 とっと	
職業専門科目	地域作業療法学	発達・精神障害に 会生活力と作業療	秦法	験く本する障内どがきせんない。大就、あ境生はの環のてのれ障があります。大就であるためででいるでいるではの環のでのれ障があります。	レ労就り調活、状地い対スが学方整力自を域特で生る、 や支立学で性る大量ができる 大地特性のを支援がいるを表現ができる。	から から から から が が が が が が が が が に が が に が が が に が が が が が が が が が が が が が	神に必社、。、・つ事一件に必社、。、・つ事一件を基本なりに 活面、多課を事なりに 活面、多課を様れる。 まとうだい すときがい かんしょう しょうしょう かんしょう しょうしょう しょう	大 大 大 大 大 大 大 大 大 大 大 大 大 大	

		授	業	科	目	0	概	要	
リハロ	ビリテーション 5	学部 作業療法学	学科						
	科目 区分	授業科目	の名称			講義等の内容	容		備考
職業専門科目	臨床実習	体験実習 I		作業療法士が うして」「と る。特徴の異 見学を行う。 本実習では、	ぶ「どのようかだのようかだのらい」 でのらい」 なる施設・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	な対象に」「と などの視点から 事業所を各施設 るだけ早期に、	できるだけ。 できるだけ	本験し、現場の 業療法を」「ど ことを目標とす 度、複数施設の さまざまな作業 の活動の現場が	共同(一部)
職業専門科目	臨床実習	体験実習Ⅱ		体験し、現場 業療法を」 ことを目標と 本実習では、	易の作業療法: 「どうして」 : する。 一定期間は同	Ŀが「どのよう 「どのくらい」	な対象に」 などの視点 ⁷ 点を明確に	またらく現場を 「どのような作 いら理解できる しながら体験を	共同(一部)
職業専門科目	臨床実習	評価実習 I		て理を実学定つ又実で幅体そに、解行習内のいは習行広験しどの実しう施で結てそ施いくしてのと、 。 設の果対の設、問た検よの、 まで自題検査すい。 の実 で講を象一で自題検査すい。	自放、 できる でいる でいる でいる でいる でいる でいる でいる でいる でいる でい	学生自身 導評録によいできないの 着価しります 導評録にまるに学でなったといいできないと法結れていいでなったといいがなかたとははないがあります。	課能でを実施者と容者す確療検 成確 象に、し目振実。実のするに法討 でを実施者と容者す確療検 でを実施者と容者す確療検 ができまして、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは	評し、 の か 大 が 大 が に で で を を が のの。 のの。 を を がのの。 発 通 に のの。 発 が のの。 発 が のの。 発 が のの。 発 が のの。 発 が のい。 を が のい。 の の の の の の の の の 。 を が の の の の 。 を が の の 。 で も の に っ に の に に の に 。 。 。 に 。 に 。 に 。 に 。 に 。 に 。 に 。 に 。 に 。 。 に 。 。 。 。 。 。 。 。 。 。 。 。 。	共同(一部)
職業専門科目	臨床実習	評価実習Ⅱ		て理を実異て査内全実で幅体そに実しう施る学測に像施いくしての実 で象でのいはで自題検査、・設対内定つ又設、問た検よの実 でいいばで自題検査・に関する。	由 大	学生自 原語 によりできる できます とります というできる の 習指を記る によいて、けぶらをいて、けぶらの 理力はと法結れている できる というできる という できる という できる という	課能 との手と的察内他と正業を 現でを結面るののるに法討 は下技た側す容者す確療検 な、実果をこ振実。実のするに法討るが	評し、施象ないない。 で療と で変し、 での験い、標をを学るアで での験い、標をを学るアで での験い、標をを受るアで での験い、群をを呼るアで でのりでする。 でをしている。 でをしている。 でをしている。 でをしている。 でをとしている。 でをしている。 でをとしている。 でをしたる。 でをいる。 でをいる。 でをいる。 でをした。 をした。 でをした。 を	共同(一部)

								(用紙 日本	工業規格A4縦型)
		授	業	科	目	Ø	概	要	
リハロ	ビリテーション 5 科目 区分	学部 作業療法 				講義等の内容	:		備考
職業専門科目	臨床実習	総合実習I		て理確し実学定つに案定き実学画作具応術ま習ると習とで結でいて、でる習生の業体答・たと、ので講を象論計よをでが、のは、面身の。、ので講を象論計よをでが、のはこ面身ま技準の義記者理画う目の体作一、かはの	的た術備実・録の的をな標実験業連事ら、実内実態行で習る定考施価す終た法流発気EP体で、に面。、修さ側しる実。後査実を引を対して、のでは、に面。、修さ側しる実。後査実を対しる実。とのでは、実にので、に面、、のでは、実にのでは、実にのでは、にが、にが、は、変にのできまが、にのでは、実にのできまが、にかいますが、またのでは、実にのできまが、これが、またのでは、実にのできまが、これが、またのでは、実にのできまが、これが、またのでは、実にのできまが、これが、またのでは、実にのでは、実には、またのでは、またんでは、またんでは、またのでは、また	要のSCE 指た記で、測、例式経し知を 導評録にま作可し 、測、例式経・ がい の では、 学定そとを験にない。 ですめして無しい。 ですのして無しい。 ですのは、 実が果理す事行の。 といればない。 では、	関わ生 でを果を寮そハ のそをすたレ 者の見、大いの 象に、しず画察 の果め 準ト 習いないの ない 実い考・のて 内ののるめば の果め 準ト 習いないの 実に、しず画察 の果め 準ト 習いない かんしょう おいまい かんしょう おいまい かんしょう おいまい かんしゃ かんしょう おいまい かんしゃ かんしゃ かんしゃ かんしゃ かんしゃ かんしゃ かんしゃ かんしゃ	呼価等筆力 に に記する を検のの計算 で に記する を検のの計算 で には、か者ののる が には、か者のののる が には、かるののでででででででででででです。 、測に像でする。 ででででででする。 、測に像でする。 でででででででする。 、測に像でする。 には、、測に像でする。 には、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、	共同 (一部)
職業専門科目	臨床実習	総合実習Ⅱ		て理確し実異て測つに案定る実学画作具応術まと、解認、習な、定いつ、でこ習生の業体答・たますを実施る学のている。そので象で果象論計よ目でが、のはこ面身の。、ので象で果象論計よ目でが、のはこ面身目ま技準の者のを者理画う標の体作一、かはの目ま技準の者のを者理画う標の体作一、かはの	的た術備実の講記の的をなと実験業連事ら、実内実態行で習・す定考施価る終た法流発気圧体で習度うはを実る的察すを。了検のれ表づを験で、に面。、行習、側しる行・後査実をのき実だ、には、「うてさ面、、いしに・施事形を施付していて、にも、「うてさ面、、いしに・施事形を施付していていて、にも、「うてさる」、いいていていていていていていていていていていていていていていていていていてい	要の総。修らと作可、 、測、例式経しなCE 合実得に否業能効 学定そとを験です。 工事可能の 学定をとを験に です効し 実し認い できない できない できない できない できない できない できない できな	関うというでは、 関いすりでは、 大いのは、では、 大いのは、では、 大いのは、では、 大いのは、では、 大いのは、では、 大いのは、では、 大いのは、 、 大いのは、 、 大いのは、 大いのは、 大いのは、 大いのは、 大いのは、 大いのは、 大いのは、 大いのは、 大いのは、 大いのは、 大いのは、 大いのは、 大いのは、 大いのは、 大いのは、 大いのは、 大いのは、 大いのは、 、 大いのは、 大いのは、 大いのは、 大いのは、 はいのは、 大いのは、 はいの	呼価等筆力では、 に記する。 に記する。 に記する。 に記する。 に記する。 に記する。 に記する。 に記する。 に記する。 に記する。 に記する。 に記する。 にいのののののののののののののののののののののののののののののののののののの	共同(一部)
職業専門科目	臨床実習	地域実習		テーションの の講義等法院 た作業療法で 支援内「生活 び「在宅医療	場面で、指導得した地域包践についてといて経験する」とかきまります。	括ケアシステ、 生活行為向上 。 視点を重視し	象者の同意を ムや共生社会 マネジメント て、「健康寿 を踏まえ地場	会の構築に向け、等を活用した 手命の延伸」及 ずでの社会資源	共同 (一部)
展開科目	統合分野	共生社会の展開	と実践	社会の組持方法をはいる。 社会の別にの支援をはいるでは、のでは、のでは、のでは、のでは、のでは、のでは、のでは、のでは、のでは、の	向きる統のるととなるとは、一次のでは、一次のでは、一次ののでは、一次のでは、一次のでは、一次では、一次では、一次では、一次では、一次では、一次では、一次では、一次	きる作業療法:他会を受ける。 他のでは、 他のでも、 他のでも。 他のでも。 他のでも。 他のでも。 他のでも。 他のでも。 他のでも。 他のでも。 他のでも。 他のでも。 他のでも。 他の。 他の。 他の。 他の。 他の。 他の。 他の。 他の。 他の。 他の	士ととしたので、将生としたので、日経向いって日経向いっかのをはいっているとはいいっとは、いいのでは、大きないのでは、またないのでは、またないのでは、またないのでは、またないのでは、またないのでは、またないのでは、またないのでは、またないのでは、またないのでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これ	工貢献しうる役 グループ演習	共同

		授	業	科	目	Ø	概	要	
リハロ	ビリテーション	学部 作業療法学	学科						
	科目 区分	授業科目の	の名称			講義等の内容			備考
展開科目	隣接他分野	共生福祉論		会"との関連 福祉"の意味 連携・協働、	性を明確にす と意義を明ら 市民の協力を	かにし、地域社	助専門職にと 社会において ットワーキン	こっての"共生 て多職種による ングの必要性を	
展開科目	隣接 他分 野	ユニバーサルツ 外出支援 I	ーリズムと	サルツーリズ は施設や住宅 ことで徐々に 康増進への意 めるなど、外 ながる一歩で	ムの定義、意での定義、意での限られた で会参が進生がの意が促 となることがいる でいる でいる とがいる はいの社	義について学。 環境下の生活が進される。本。 るだけでなく、 さい。外出やが を、ユニバー・ 会モデルについ	ぶ。高齢者% から、「お出 人への側の人。 周囲の意義、 旅行のデザイン	₹しむがけいます。 と障がけ」を出かけらがい解する。 生の理社会アを担かがといる。 本生の理社会アを担対である。 本生のではどを知がいた。 をできる。 は、できる。 をでをできる。 をできる。 をでをできる。 をできる。 をでをでをでをでをでをでをでをでをでをでをでをでをでをでをでをでをでをでをで	
展開科目	隣接 他 分 野	ユニバーサルツ 外出支援 II	ーリズムと	サルツーリズ いてグループ どのような不 要かをグルー	ムについて、 ワークを通し 便があり、誰 プワーク、フ 活性化につな	実際の街を歩いて学ぶ。高齢をもが外出や旅行ないドワーク ではないでは、	いてその課題 者や障がい者 行を楽しむた クを通して ^ま	をしむユニバー 種と解決策につ が実際の街が とめには何が必 きえる。改善提 レゼンシートを	
展開科目	隣接 他 分野	美容ケアによる 向上 I	QOLの維持	ての機さ美らいで、 を 表で、 を 表で、 を なるので、 を でいずいる。 と でを でいずいる。 と で、 でいずいる。 ので、 でいずいる。 ので、 でいずいる。	性的機実理施領や容とが、ADLでいたという。というでは、というでは、というとにいていいでは、というというでは、というでは、というでは、というでは、というでは、というでは、これが、というでは、というでは、	るいは怪我やれがし、美容のの のLが向上目ででいる。本新のない。 る。最等のない。 もり答の応の用している。 はない。 はない。 はない。 はない。 はない。 はない。 はない。 はない	病気、とない。 対していますがある。 大いではないではないではないでは、 ではないではないでは、 ではないでは、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 でいる。 でい。 でいる。 でい	等などの をという などは、 をという をという をはいり をはいり をはいり をがまたいり をがまたいり をがまたいり をがまたいり をがまたいり をがまたいり をがまたいり をがまたがりがり をがまたがりがりがりがりがりがりがりがりがりがりがりがりがりがりがりがりがりがりが	
展開科目	隣 接他 分 野	美容ケアによる 向上Ⅱ	QOLの維持	を学ぶ。高齢 頻度とよる リー・大 大 が に 化 に と は に に に と は に に に と は に に に に に に に に に な ら に に に に に に に に に に に に に	者にとって化れるとって化れるというではないできるカルでは事容には事容をはいていい。 できる ないない できない できない できない できない だい しょう はい いい	を を を を を を を を を を を を を を	幾づけにもつった。 後が大力がらいででいるようででいるようです。 とているようででする。 とている。 とているでは、 とでいるといる。 とでいる。 といるでは、 といるでは、 といるでは、 といるでは、 といるには、 といる	トるための技術 つながり、外出 エイシャルト ・ネイター ・ネイを イントルケアと ・カリント イントルケアの イントルケアの イントルケアの イントルトルトルトルトルトルトルトルトルトルトルトルトルトルトルトルトルトルトル	
展開科目	隣接他 分野	音楽療法による 向上 I	QOLの維持	様々な現場で のQOLの組織を る。えたないで に なる一く は いなる いなる いる いる いる いる いる いる いる いる いる いる いる いる いる	行われたないるに、療音・音シの、に、療・音シの、にの基準体と割等では、できるのでは、ないでは、ないでは、ないでは、ないでは、ないでは、ないでは、ないでは、ない	音楽をどのよ論として、音楽をとのよ論を誘発し促成の音楽の役割音楽の社会的は支援に活用する体的な音楽の	いてにない。 いうとは、 ないでは、 ないでは、 ないでは、 はいでは、 ないでは、	工学び、対象者	

								(用)似 日午	上業規格A4 縦型)
		授	業	科	目	Ø	概	要	
リハロ	ビリテーション!	学部 作業療法学	学科						
	科目 区分	授業科目	の名称			講義等の内容	ξ		備考
展開科目	隣接 他 分 野	音楽療法による 向上Ⅱ	QOLの維持	の維持・向上 しながら課題 楽スキルを知 ループ単位で 祉の現場を想 を想定した介	を目指す活動をやみない。を目指す活動をやい、資本になる。というできる。というできる。これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、	進する音楽のなりではない。 はないでは活用でもいるがいがいる。 ないでは活用でもいるがありがある。 はないではないではないではない。 はないではないではない。 はずないではないできない。 はずないではないできない。 はずないではないできない。 はないではないできない。 はずないではないできない。 はずないできない。 はずないできない。 はずないできない。 はずないできない。 はずないできない。 はずないできない。 はないできないできない。 はないできないできない。 はないできないできない。 はないできないできないできない。 はないできないできない。 はないできないできないできないできないできないできないできないできないできないでき	考え、模な、模様にないできる。 ではいるできるできるできる。 ではないできるできる。 ではがいるのでできる。 ではないではないではないできる。 ではないできる。 ではないできる。 ではないできる。 ではないできる。 ではないできる。 ではないできる。 ではないではないではないではないではないではないではないではないではないではない	く。自分の音 ために、グ に、医療や福 ・介護の現場	
展開科目	隣接 他 分 野	身体障害への支 工学 I	援システム	ら市場投入ま に学ぶ。 基礎として、 タフェースの 行手段の選択	での一連のフ 人間の感覚、 設計手法につ に基づいた要 試作機を用い	医療分野においる できます できます できます できます できます できます ままま できまま 実いて 学習する おいて 学習する おいて 学ぶ。 これ できる できる かい	証実験手法も 生に基づくヒ 次に障害特 化手法につい	含めて体系的 ューマンイン 性の定義と代 て、福祉介護	
展開科目	隣接 他 分野	身体障害への支 工学Ⅱ	援システム	のインタフェ 定して試作す (Windows) の	ースを事例に る。実証実験)補助機能の	セスを障がい。 学ぶ。インタンでは、試作した はでは、試作した。 組み合わせで機 いてその有効性を	フェースは、 たインタフェ &能評価とアン	障害種別を想	
展開科目	隣接 他 分野	手話による聴覚 コミュニケーシ		であり、聴覚 る。手話をは 障がい者につい 法、暮らし、 関する基礎知	障がい者との じかとするさい でかれて学習 置を理解する 手話であいさ	独自の文法・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	ションツール ュニケーショ て、コーショニ でを通してこ する。コミュ	の一つであ ンを持つ聴覚 ケーション方 聴覚障がいに ニケーション	
展開科目	隣接 他 分野	手話による聴覚 コミュニケーシ		であり、聴覚 る。手話をは ション方法を	障がい者との じめとするさ 学び、手話で	独自の文法・記 コミュニケー: まざまな聴覚 日常会話がで 践の場で活用	ションツール 障がい者との きることを目	の一つであ コミュニケー 指す。また学	
展開科目	組織の経営・マ	実務リーダーの戦略論	ための経営	講師による事情る。保健医療は	業別戦略や機 例を扱った講 に関する事例 を主体的に構	能分野別戦略の 義と意見交換しも取り上げる。 想し、その実	について、各 を通じ、実践 ,グループワ	分野の実務家 的に理解をす ークや発表を	
展開科目	組織の経営・マネジメン	組織・人材マネ : 理論と実践		経常では、まったのでは、またのでは、	ある。 ある。 組織なる を組ってキュカある には はいる はは はなる はは ないますが はは はなる はは ないない ないない はないない はないない ないない ない	織にするため(、組織の創り) 、そして人材(ついても学ぶ。	こ必要な考え ジメントの考 こ良い組織の 方や組織と人 のマネジメン	方を時系列に え方を理解で 要件の理解か を主体的に動 トの仕方とと	
展開科目	組織の経営・マネジ	実践マーケティ	ング戦略	かを考えるこ においても重え方から、各利 により、顧客に るための知識	とは、企業活 要でのフレーズを のニーズを かまに着ける かサービス業	客に対しどの。 動の基本であっ 科目では、ママローク、事業や 握し、、事業分り におけるマーク におけるマーク	るだけでなく ーケテイケン 調サービス あ品サービス 野とともに、	、社会的組織 の基本的な考 法を学ぶこと 開発につなげ 保健医療分野	

		—————————————————————————————————————	業	科	目	Ø	概	要	L未况俗A 4 献空)
リハ	ビリテーション	学部 作業療法学 「	科	I					
	科目 区分	授業科目の	名称			講義等の内容			備考
展開科目	組織の経営・マネジ	保健医療経営 I		分野の役割が 題、医師不足 山積している。 なる介護報酬 する。保健医療	重要化しつつる など人的資源の 本講義では、 (社会報酬) 療経営の事業権	静化、人口減減 ある。また、報道 の問題、医療等の経 、や診療を経対等と経済の は問題解決)に に問題解決)に	影らむ医療費 ₹源活用等、 軽営を考える リ度の仕組み エ別に学び、	・介護費の問 問題・課題が うえで根幹と を中心に解説 介護経営、病	
展開科目	組織の経営・マネジメ	保健医療経営 Ⅱ		院、介護、社 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、	会福祉法人、 その 会福務 で 、 業地 改福 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、	在宅サービス イント手法を角 在宅改善手法と 経営改善手法 計画(社会福 済。また、起業)をヒト、 解説する。 マ等を実践 を学び、診 社増進計画 さした人材。	分モノ かを かを かを がを がいる がいる がのと がのと がのと がのと がのと がのと がのと がのと	
展開科目	組織の経営・マネジメント	実務リーダーの† 会計 I	とめの財務	である。 当授業では、 実際の財務指 を行う。 「実務リーダ	を学んでも意味を学んでも意味を 長年、様々な漂を教材にした。 一のための財子 で理解すべき。	味はなく、経営 法人の会計監査 ながら、経営と 務会計I」では 基本的な会計理	だに活かす視 でを行ってき 関連付けた は、実務リー	点こそが重要 た専門家が、 実践的な授業 ダー・マネジ	
展開科目	組織の経営・マネジメント	実務リーダーの† 会計Ⅱ	とめの財務	ルや会計用語である。 当授業のは、対 実際の財務指 を行う。 「実務リーダー メント層とし	を学んでも意味を学んでも意味を 長年、様々なにできまれてした。 そのための財子で で実務上把握	スの世界で必須 味はなく、経営 生人の会計監さと ながら、 の会計 II 」 の会計 II 」 の会計 II 」 の会計 II 」 の会が をが が が が が が に で を が に に に に に に に に に に に に に	だに活かす視 を行ってき : 関連付けた は、実務リー 重とその活用	点こそが重要	
展開科目	組織の経営・マネジメ	ビジネスのための	力法律	の事業に関す。 当授業で、事業 を を を を を と を で 、 等 業 を を を を で 、 を を に で 、 を た に の 世 の 世 た り た に の せ た の せ た の せ た の せ た り た り と に り と り と ら と ら と ら と り と ら と ら と り と う と う と と う と う と う と う と う と う と	る様々な法令: 業に必要なラグ 行上のリスクが 建医療分野には するための実 律のプロフェ	かして就職ある要称を遵守する、ではではない。というではないできる。ではでいるというできない。というでは、からないのでは、からないのでは、からないのでは、からないのでは、からないのでは、ないでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは	がある。 たや法人の立 たインプット ける。 たて実務に当	た上げ、人のに共通する情し、保健医療	
展開科目	組織の経営・マネジメント	ビジネスのための	TIC	る、実行する 用面で用いられっ でITが活用まさ 事例、いって にITを活用した にITを活用した (キーワード)	うえでも必須を 身近な事例を すいるITの用 れている数関の でに情報シの たビジネスアー 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、	この教語学の機ができた。 との教を、習りをとし保すでをから、習りををから、習りをなるです。 かんしょう かんしょう かんしょう かんしょう かんしょう いんしょう いんしょう いんしょう いんしょう かんしょう かんしょう かんしょう かんしょう だいがん しょう かんしょう はんしょう はんしょう はんしょう かんしょう かんしょう はんしょう はんしょく はんしん はんしょく はんしょく はんしょく はんしょく はんしょく	いる。ITが い、ビジネス そ分野ではと 構義内では、 ご知識を苦用 さけ、学習し Jを身につけ	ドビジネスで活 の具体的な場 、ういった目 、ういったで学ぶ はするまでもと ・る。	

		授	業	——————— 科	目	Ø	概	要	
リハリ	ヹリテーション ^s	学部 作業療法学	芦科						
	科目区分	授業科目の	の名称			講義等の内容	ŧ		備考
展開科目	組織の経営・マネジメ	在宅サービスの	事業経営	れた地域でがは、地域でがは、本地は下でできる。「自必、本語では、大きないでは、一般では、一般では、一般では、一般では、一般では、一般では、一般では、一般	分らしく暮ら 要である。 地域密着型サ 計者向け住宅等 際の施設やサ 運営」など、 地域包括支援セ	し、安定した ービス、小規 を全国で展開 ービスを元に、 実際の事業に	日常を送るが 関多機能型 している企 、「市場認認 おいて成否	能な限り住み慣り ためには、適切 サービスや担う 業で実系「事業継 を決める、運営面	
展開科目	組織の経営・マネジ	事業計画策定概	<u>참</u>	可欠である。 出し)い事でする の でする の でする の でする の でする の で で する の で り に り に り に り に り に り に り に り に り に り	新たな事業活 想法を学び、を やサービスを する。策定 イング戦略、	動の出発点でな グループで協 計画するため 程において、	ある事業を 力し、保健 の事業計画 ビジョン、 重要性を理	解する。グルー	
展開科目	組織の経営・マネジ	総合事業開発		すことができ を基に、ディ 祉分野の経営 例、隣接他分 ストスピーカ	るか、両者の スカッション 戦略・マーク 野での新しい	接続を図るこ 形式による授 ティング・財	とを目的と 業を展開す。 務戦略・IT 事例などをI	接他分野で活か する。事例研究 る。保健医療福・ ・人事戦略の事 取り上げる。ゲ 場を設けるな	
	総合科目	作業療法研究基ルⅠ	礎ゼミナー	を作教務の後究本ロ践ついる。研権を、びたがでい、テゼセしてこれを可能をでいている。のでは、テゼセとでは、アゼセとのののののののののののののののののでは、これが、これが、これが、これが、これが、これが、これが、これが、これが、これが	は、原 ・ に に に に に に に に に に に に に	院や推議を 生生の基礎関連をする にないに、 にないに、 にないでしたとれてでいる。 にはいてでいる。 にないでできる。 で。	業方に 素にと 素にと 実に 実に 実に 実に 実に 実に 実に 実に と で まで まで まで まで まで まで まで まで まで	並び、重要な業 論や基礎作業に	
	総合科目	作業療法研究基 ル I	礎ゼミナー	「を作教務つ後究本ロ践つの発育す法後の学のマナ等研理を表えてでいるのでは、デザセしいのでは、デザセしいのでは、アザセしいので解析が、のでは、のでは、のでは、のでは、のでは、のでは、のでは、のでは、のでは、のでは	F	院生生ない。 一生の に関連をなする。 はに関連をなずない。 はことにいて一。 にはいころの でのでする。 はことにいている。 でのでする。 でのでする。 でのでする。 でのでする。 でのでする。 でのでする。 でのでいる。 でのでいる。 でのでいる。 でいたといてでいる。 でいたといてでいる。 でいたのでいたのでいる。 でいたのでいる。 でいたのでいる。 でいたのでいる。 でいたのでいたのでいる。 でいたいでいでいる。 でいたのでいる。 でいたのでいる。 でいたのでい。 でいたのでい。 でいたのでいる。 でいたのでいる。 でいたのでいる。 でいたのでいる。 でいたのでいる。 でいたのでいる。 でいたのでいる。 でいたのでいる。 でいたのでいる。 でいたのでいる。 でいたのでいる。 でいたのでいる。 でいたのでいる。 でいたのでいる。 でいたのでい。 でいたのでいる。 でいたのでいる。 でいたのでいる。 でいたのでいる。 でいたのでいる。 でいたのでいる。 でいたのでいなのでいなのでいなのでい。 でいたのでいなのでいなのでいなのでいでいなのでいなのでいでいなでいでいなでいでい	業方に 業方に 素たとり 法を)と 大き、 大き、 大き、 大き、 大き、 大き、 大き、 大き、	並び、重要な業 論や基礎作業に	

	授	業	科	目	Ø	概	要	
リハビリテーション	学部 作業療法学	学科						
科目 区分	授業科目の	の名称			講義等の内容	F		備考
総合科目	作業療法研究基ルⅠ	礎ゼミナー	なも ボースに は で は で は の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の れ な れ れ な れ な れ な れ な れ れ な れ な れ な れ な れ な れ れ な れ れ な れ れ な れ れ れ な れ れ な れ れ れ な れ れ れ れ れ れ れ れ れ れ れ れ れ	学科の目り 育と構築できる。 と構築できる。 りまる ができる。 がでも。 ができる。 がでも。 がでも。 がでも。 がでも。 がでも。 がでも。 がでも。 がでも	性と必要性を とを目標とし 去の研究に鑑 などの一連の 法研究基礎ゼ	理解し、学生で、基本的な みた例示をり プロセスをり ミナール II 」 する過程で		
総合科目	作業療法研究基ルⅠ	礎ゼミナー	概観、示言を表している。とは、一般の介護、大学を表している。というでは、一般の介護、大学のでは、一般のでは、大学のは、大学のでは、大学のは、大学のでは、大学のは、大学のは、大学のは、大学のは、大学のは、大学のは、大学のは、大学の	ける作業療法はに を を を を を を を は を は ま が は ま が の き が の き が の き が の き が の き が の き が の き が の き が り の り の り の り の り の り の し っ い 。 で り っ り っ し っ と り っ と り と り と り と し た し た も し と し た し た も し た も し た も し た も し た も し た も し た も と り と り と り と り と り と り と り と り と り と	は、先行研究 いているのかを 体例は、病院 終末期まで幅 の探求に至る	の成果がどの 学習する。 、施設入所、 広く紹介する。 まで、学生! 義や目的を野	実践領域ごとに のように活用さ 通所、訪問、 る。そこで学生 自身が興味に気 理解し、臨床実	
総合科目	作業療法研究基ルⅠ	礎ゼミナー	「を作教務つ後究本口践つ究の情報を表している。 では、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これ	所究基礎 に に に に に に に に に に に に に に	に生のない。 に生のとは、 に生のとは、 に生のというですが、 にたというでき、 にたというでき、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では	業う作業時 療法と)法を 法を)と、 法を 学事を で、 で、 で、 で、 で、 で、 で、 で、 で、 で、 で、 で、 で、	並び、重要な業 論や基礎作業に	
	作業療法研究基 ル I	礎ゼミナー	「を作教務つ後究本口践つ究の情報でび学を一の究解を 「素習療(一てこーミスたて概略でで学を一の究解を をいるのでは、これをいるのでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これ	所究基礎 に に に に に に に に に に に に に に	院生生の に生の に生の に生の にたといて にたといて にたといて に、 にたとい に、 に、 に、 に、 に、 に、 た、 に、 で、 で、 で、 で、 で、 で、 で、 で、 で、 で、 で、 で、 で、	業う作業時 療法と) 法 接 法 を 注 業 方 作 業 間 め の ま き る の り の り の り る ら ら ら ら る ら る ら ら ら ら ら ら ら る ら る ら	並び、重要な業 論や基礎作業に	

	les	alle	7.1			ion		L 美規格 A 4 縦型)
	授	業	科	目	Ø	概	要	
リハビリテーション	字部 作業療法学	字科	I					
科目 区分	授業科目	の名称			講義等の内容	容		備考
	作業療法研究基	礎ゼミナー	(众 秋元	美穂)				
総合科目	ИI		現状を理解しどんな生活を学ぶ。実際に ビリテーショ から得られた	、病院から は 送るのか、 近在宅生活を インを利用し、 が は つめ は の が が が が が が が が が が が が が が が が が が	自宅または施設 公要な介護保険 テう高齢者が介 多職種連携の	等に戻る高 サービスと 護老人保健 もと行うチ f究の紹介を	齢者を取り巻く 齢者を取り巻く をのいる がについている がにつがりが がったのが がったので がった。 は いった。 に いった。 は に いった。 に でいて、 でいい。 でいい。 でいい。 でいい。 でいい。 でいい。 でいい。 でいい	
総合科目	作業療法研究基 ル I	礎ゼミナー	テクノロジー においても、 ス、情報通信 術)を活用し の導入により	- (科学技術) 治療や支援の 言技術 (ICT) こている報告に)、作業療法の 1ジーの進化な	D場面で様々な 、ロボットな。 は少なくない。 Dあり方も様変	センサー、 どのテクノロ 今後さらに わりするで	。作業療法領域 インターフェー ! ジー(科学技ー 、テクノロジラー あろうに影響を及 ように影響を及	
総合科目	作業療法研究基 ル I	礎ゼミナー	療的ためは知障深機し、無法、発、、的害めば知障でで、研究法障生性害あい感究が感究が感究の意見の意思を表していません。	研究基礎基本でを基本でを基本でで、	学習する。 会社 では できない しょう でいる	障害領すっている。発性療力を受ける。では、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これ	研究対象の疾患 低出生体重児、 障害などの発達 の意義や理解を 燕下機能、上肢	
総合科目	作業療法研究基 ル I	礎ゼミナー	「作業療法研究 で学習する 不業療法研究 に業療法研究 で業療法研究 ででである。 を ででいる。 ででいる。 では、 でいる。 では、 でいる。 でいる。 でいる。 でいる。 でいる。 でいる。 でいる。 でいる。	研究基礎ゼミラ ち。作業療法は りな事項につい ことに勤しむ者と ことでの作業療 ことにより、何	こおける研究の いて学習し、研 としての基本的 では、主に身体 去における基礎	意義や目的 完の概略を 態度と知識 障害領域の 研究、臨床 解し、自ら	研、理を研究に 関、フロらをに研究 大解しると心例 対の自と心の研究 で作業と は で で で に は で の で の で に に と い こ 中 事療法 の で に に と に の の の の の の の の の の の の の の の の	
総合科目	作業療法研究基ルⅠ	礎ゼミナー	「活状因で具研の要得研覧了作活態子ミが究流性る究し時でしました。」といいま観をとと実研はとこ・、にはないましまがでいましまがでいました。	研究基礎できた 援族・身のに対していました。 一般では、 一を 一を 一を 一を 一を 一を 一を 一を 一を 一を 一を 一を 一を	に焦点を加まる。 に焦点を加まる。 に進って、「背」、「った」、「った。 に参いでは、一般では、一般では、一般では、一般では、一般では、一般ではでいる。 をいる。 できる	・ 景上は害、の を因る。の を関する。の をの をの をの をの をの をの をの をの を の を の を の を の を の を の を の を の を の を の を の を の を の を の で の の の の の の の の の の の の の	マとととおよびに で素としてなるよびでは でなるよびで、 でででででで、 でで、 でで、 でで、 でで、 でで、 で	

	授	業	科	目	Ø	概	要	
リハビリテーション	学部 作業療法学	科	T					
科目区分	授業科目の	の名称			講義等の内容	Ē		備考
総合科目	作業療法研究基 ルⅡ	礎ゼミナー	ナールI」の領 地域でに対 でにでいている。 でにいている。 でにいている。 でにののに、 でにののに、 では、 でにののに、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 をは、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、	学習を継続して 方と を を は で にる で にる で にる で に に の に に の に に の に に の に に の に に の に に の に に の に に の に 。 に に に に に に に に る に に に に に に に に に に に に に	基本的な理論 法について学 情報収集を行い 解決に活用で 、研究テーマの 、研究計画のご することを目	法を科学的 を学習の、 を学する。 学生を で を を を を を を を を を を を を を を を を を を	に考察するため 作業療法なって に主様をとする に主様をとる に は で は は は は り が り が り が り が り が り が り が り が	
	作業療法研究基礎ルII	礎ゼミナー	(<u>3</u> 里村	惠子)				
総 合 科 目	<i>у</i> г п		ナールI」の完 が完 が完 に でに でに でに でに でに でい の の の の の の の 。 適 本 な の は の は の は の は の は の は の は の は の は の は の は の は の は の も る ら る ら る ら る ら る ら る ら る ら る ら る ら る ら 。 る ら る る る る る る る 。 る る る る る る る る る る る る る	学習を継続して 対法にる 対法にる がいずの がいずの がいずの がいずの がいまする でいまる でい	基本的な理論 法について学行 情報収集を行い 解決に活用で 、研究計画の することを目れ	法を科学的 を学習し、「 と学する。ます いる情報を の立案を で で を で で と で で と で で と を で る で き の 、 る に た う の た る に た う た 、 ら で う た 、 、 で う た 、 、 に う る 。 。 。 。 と う に の た の た の た の た の た の た の た の た の た の	に考察するため 作業療法な完全で を を を を を を を を を を を を を を を を を を を	
	作業療法研究基礎	礎ゼミナー	(<u></u> 小林	毅)				
総合科目	NΠ		究命題を解決と る具体のは の所 の の の の の の の の の の の の の の の の の	する、 大研究のなどの 大研学で、 で、 大のののなどのでである。 大のでは、 はのでは、 はので	体的な方法をきずしている。 連のプロセスを に因り、研究の 連のプロセスを 連動研究、そので かから、解決で ョンから解決で	学習し、実際を理解する。 の基本的なな。 を、実際のができる。 の表本的ななが、実際のができる。 の表本的ななが、またでは、またのができる。 の表示を理解できる。 の表示を理解できる。 の表示を理解できる。 の表示を理解できる。 の表示を理解できる。 の表示を理解できる。 の表示を理解しています。 のまたを理解しています。 のまたを理解しています。 のまたを理解しています。 のまたを理解しています。 のまたを理解しています。 のまたを思想を理解しています。 のまたを理解しています。 のまたを理解していまする のまたを理解しています。 のまたを理解してきまを理解しています。 のまたを理解しています。 のまたを理解しています。 のまたを理解してきまを	過程を模擬的に ・Ⅱ」で学生自	
	作業療法研究基 ルⅡ	礎ゼミナー	(<u>\$</u> 猪股	英輔)				
総合科目	у- п		介護保険サー 健康増進を 現に向けて の 選択に の 経験から生 と く に 高 り に の と り に り に り に り に り に り と り と り と り と り	ビス、認知症 地域リハビリ 戦的課題は、 構築にで学んだ を を が における を における と にお で きる に まる に お に お た に お た に お た に お た た ら た た ら た た ら た た ら た ら た ら た ら た	をもつ人と家 テーショ当立に 無点を立ち に 無 に 発 関 所 法 の う ち 、 て た た 、 て た 、 を 立 実 た て 、 た ま た っ た っ た っ た う た う た う た う ら ち ら ら ち ら ら ち ら ら ち ら ら ら ら ら ら ら ら	族の生活支持 地域における ていく。 方が重要とれ 践モデルや ³ 学生自身が身	もとに、医療・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	
	/	rtt 13 > 1	/ /\ = =	H=1)				
総合科目	作業療法研究基i ルⅡ	曜セミナー	身体障害動域 法、生る技術で 援 程のを で 獲 程 の 設 定 、 の 設 で の の 設 で の の の の の の の の の の の の の	において、身 に応用する多 とないでは関しに をないる を が を が と が と が と が と の と の と の と の と の と の と	常生活動作支持 岐にわたるアー して多様な分れ 行研究の文献 どを学び、今行本的プロセスス	暖、工学的、 プロチが、 プロ研究系 が、 で が で が で が で で で で で で で で で で が で が	の様々な環境にその 大生られる。 大きらがとよがにその。 大きがとよがにのした。 大きができる。 大きができる。 大きができる。 大きができる。 大きができる。 大きができる。 大きができる。 大きができる。 大きができる。 大きができる。 大きないできる。 たらないできる。 大きないできる。 大きないできる。 大きないできる。 大きないできる。 大きないできる。 大きないできる。 大きないできる。 大きないできる。 大きないできる。 大きないできる。 大きないできる。 大きないできる。 大きないできる。 大きないできる。 大きないできる。 大きないできる。 大きないできる。 大きないできる。 たちないできる。 たちないできる。 たちないできる。 たちないできる。 たちないできる。 たちないできる。 たちないできる。 たちないできる。 たちないできる。 たちないできる。 たちないできる。 たちないできる。 たちないできる。 たちないできるないできる。 たちないできる。 たちないできる。 たっと、 たっと たっと たっと たっと たっと たっと たっと たっと たっと たっと	

	——————— 授	業	————— 科		<u>の</u>	概	要	上業規格A4 ((本)
リハビリテーション	学部 作業療法学	学科						
科目区分	授業科目の	の名称			講義等の内容	容		備考
総合科目	作業療法研究基ルⅡ		「作ールマント で で で で で で で で で で で で で で で で で で で	学習を継続し で対象におけれる。 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、	る基本的な理論 手法について学 る情報収集を行 の解決に活用て し、研究テーマ	療法を科学的 論を習るという。 を習るのでは、 できる。 できる。 できる。 できる。 できる。 できる。 できる。 できる。	研究基礎ゼミ がに考察するため 作業療法研究領 た様なすると を を は を は の の の の の の の の の の の の の の の	
総 合 科 目	作業療法研究基ルⅡ		保険下の高齢 読を行う。そ テーマをより 実際に研究計 のかを学び、 的なプロセス	研究基礎でます。 計画を対象を 対象を は、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、	たは非効果のあ から手法を学び ていく。研究ラ 分析の手法に	っった様々な が、自分が行 ーマにひいてはど ・測を行う。	礎として、介護 論文を検研究や いたい特報を得て、 たなおきがある このような基本	
総 合 科 目	作業療法研究基ルⅡ	礎ゼミナー	に、情報収集 どで分類して	なにおいて、 を行う。情報 いく。このi	過程の中で、と	身られて知見 でのようなテ	践報告を中心 を分野や場面な クノロジーが利 されているのか	
総合科目	作業療法研究基ルⅡ	礎ゼミナー	「研考る検いの画学とは情報している。」 「研考を表すのでは、一般では、一般では、一般では、一般では、一般では、一般では、一般では、一般	、ナールI」のために、大一ルI」のために、発達障害でいる。 を対象を行いまないでは、 を対象には、 をが、 をが、 をが、 をが、 をが、 をが、 をが、 をが	学習を継続し 書領域の作業療 する。また様々 い、学生を主体 きる簡切なを収集 での基本的なラ	て行う。作業などできたなどできたなどできる。領域ではいまできるできる。できるにいまする。これできる。これできる。これできる。これではいる。これでは、これではいる。これでは、これではいる。これでは、これではいる。これではいる。これではいる。これでは、これではいる。これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これではいる。これでは、これでは、これでは、これではいる。これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、	域の「作業療的に を発生にいて で主にいて演しいで で主にいて演し、 でを表にいて演し、 でにの読み でにの できなが できない。 で。 と。 できない。 と。 できない。 と。 でも、 と。 と。 と。 と。 と。 と。 と。 と。 と。 と。 と。 と。 と。	
総合科目	作業療法研究基ルⅡ	礎ゼミナー	ナールI」の研ら で主に表れい管主 で主に読れいで主きが、一大変ないに で主に表れいに で主に表れいに ででする。 でのできる。 でのできる。 でのできる。 でのできる。 でのできる。 できる。 でのできる。 できる。 でのできる。 で。 できる。 で。 できる。 できる。 できる。 できる。 できる。 できる。 できる。 できる。 できる。 できる。	「	基本的な理論を 法になな理論を る様々な先行の 問題を がいな がいな がいな がいな と を で を を で の を の を の を の に に れ に れ に れ に れ に れ に れ に れ に れ に れ	療法を科学作業というでは、 学する。では、本いた授いでは、 では、本いた授いでは、 では、本いた授いでは、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、	的に考察するた 業療法研究領域 ミナールでは、 文献検索、文献	

							(用紙 口本	工業規格A4縦型)
	授	業	科	目	Ø	概	要	
リハビリテーション	学部 作業療法	学科						
科目 区分	授業科目	の名称			講義等の内容	Ę.		備考
総合科目	作業療法研究基ルⅡ	らび ジャー	「作研を指す収要ルまで、	」究で連はイか興究ド人をテは書、力ら味でラーにマまや自レ者心をみといいます。から味でラー人がこくがでいます。	れまで、 作業療形 ででも一く、 ででも一くなどり ででといせ でといせ でといせ でといる でといる でといる でと になる といる になる とこさ になる とこさ になる とこさ にこさ にこさ にこさ にこう にいる にいる にいる にいる にいる にいる にいる にいる にいる にいる	法の各収力各る目しして学のとすがよった。というのとすが、これで発で、完成すのとすが、で発表で、完成するご表、最テする。	- を行う。この - 通して、グロークでは、 - では、では、 - でので、がいいで、 - でので、 - でのでで、 - でので、 - でのでで、 - でのででででででででででででででででででででででででででででででででででで	
総合科目	作業療法研究卒ルI	文業ゼミナー	ナールI・II」 ・一要的・確整をできる。 ・一要的・確認をできる。 ・一等のでは、一点できる。 ・一般である。 ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	からついた。からついたのでは、自然では、自然では、自然では、自然では、自然では、自然では、自然では、自然	より実践的に 身の研験を 文子の献検のの でそる。 はの いか いか いか いか いか いか いか いる いか に い い に い い い の い が り の い の い の い の い ら い ら い ら い ら い ら い ら い	※を科学では、 学マの情とでは、 学マの情にのいるで、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 で	考察するまででは、 をででの集を計でいる。 ででの集を計でいる。 ででの集を計でいる。 ででの集を計でいる。 ででの集を計でいる。 ででの集を計でいる。 ででの集を計でいる。 ででの集を計でいる。 ででの集を計でいる。 ででの集を計でいる。 ででの集を計でいる。 ででの集を計でいる。 ででの集を計でいる。 ででの集を計でいる。 ででの集を計でいる。 でのは、 でのは、 でのは、 でのは、 でのは、 でのは、 でのは、 でのは、 でのは、 でのは、 でのは、 でのは、 でのは、 でのは、 でのは、 でのは、 でのは、 でのは、 でいる。 でい。 でいる。	
総 合 科 目	作業療法研究卒 ルI	業ゼミナー	「作業療法研研究テーマを る。研究方法 施する。専門 象にできるよ	究基礎ゼミナ 深め、研究計 の検討を経て 職大学の特性 う指導を行う 地域における	画の立案のた。 、結果の処理 を生かし、地 。対象とする	めに、文献の を立案の上、 域等のフィー 領域は作業療	て、学生の希望 F究から着手す 研究計画を実 -ルドを研究持 展法の特に精神 大、作業療法教	
総 合 科 目	作業療法研究卒 ル I	ズ業ゼミナ ー	完に解、体では、 、は、 、は、 、は、 、は、 、は、 、は、 、は、	「作的な、PECO等と 病法子の等とので、PECO等とので、 を自身立いで、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 で	や方法を元にって、一次では、一次では、一次では、一次では、一次では、一次では、一次では、一次では	、学生自身か て、学生自身が で、 ションで いい 等を行、学をかい で選択すること 理解すること	での過程を体 解決に至る一連 たの結果をまと もつ疑問から 作業療法に必	
総合科目	作業療法研究卒 ル I	業ゼミナー	高齢身画の作発験を発生がある。 高齢身画書研究を発生が一ている。 ででいる。 ででいる。 ででいる。 にいている。 でいて、	療問、イせ導、のて、というでは、大きのでは、大きのでは、大きのでは、いいのでは、大きのでは、はいいは、はいいは、はいいは、はいは、はいは、はいは、はいは、はいは、はい	題を見出し、 する初期工程 コーにの課題解 でいるのいででは 理解する。 理解の手順に従	これを解決する として、学生 先行段に応じ 快手段にを選 ザインを選 い、高齢期に	(果と課題を導	

	—————————————————————————————————————	 業	—————— 科		<u></u>		要	上美規格A4 縦型)
リハビリテーション			17-7	Ħ	0)	1141	女	
科目 区分	字部 作来療法 授業科目				講義等の内容	:		備考
総合科目	作業療法研究卒 ル I	業ゼミナー	身体には一般では、一般では、一般では、一般では、一般では、一般では、一般では、一般では	はにおいて、 りまにおいて、 りまに 応用してる にいたににににになる にいた これの とから の 一 で とから の 研 タ と の の の の の の の の の の の の の の の の の の	常生活動作支持 常生活動作支持 評的知識として ままでで での策定に結び で行う。さらに	爰、工学的、 て学れた興 すくまよう、 で で で で で で で で で で で の ど の と の と の と の と の と の と り の り の り の り の	文献等の情報収 レベルをテーマ 通して実践能力	
総合科目	作業療法研究卒ルⅠ	業ゼミナー	「作一ルマント で の で の で で で で で で で で で で で で で で で	F究のでは、 デ究のでは、 でないたはのでは、 でないたはのでは、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、	こ、より実践的に り、大力の大力では は、大力では、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、	生 で	こ考察・する。 さる。 さる。 さおけ・就労を研集分 では、 でででででいる。 では、 ででででいる。 では、 ででででいる。 では、 でででいる。 では、 でででいる。 では、 でででいる。 でい。 でいる。	
総合科目	作業療法研究卒 ル I	業ゼミナー	「ナン統討結習的限学は、 作一要的・果し分界的、果し分界的、果し分界の、析、なこでである。 では、一次では、一次では、一次では、一次では、一次では、一次では、一次では、一次	F究から引きない。 デ究から引きない。 デントでは、 デントでのいるでは、 デントでのいるでは、 デントでのができるが、 デントでのができる。 デントでのができる。 デントでのできる。 デントでのできる。 デントでのできる。 デントでいる。	より実践的に当身の研検の方法をそろのことはある。ことはある。ことはよりによりによりによりによりによりによりによりによりによりによりによりによりによ	を科学的に 学習を選を 学習を 学で で 情報 と は に の ら い た と り ら が と と り ら が と り り た と り り り り り り り り り り ら り ら り ら り ら り	考察するまでの集をするま養収等に をでの集を記述しているま養収等にしている。 での一考でしてい、最重に での集を計そがに実際がと生的を をのののでは、 でのは、 でのは、 でのは、 でのは、 でのは、 でのは、 でのは	
総合科目	作業療法研究卒 ル I	業ゼミナー	これ ま の での 収察 に が 通い な う での 収察 に か 手 で の 収察 、 析 通 い て う に す で で を で を で で を で を で か ま か ま か ま か ま か ま か ま か ま か ま か ま か	記的に検討して ・確認、研究 ・結果の整理、 ・演習し、作業療法領域に ・るように、 ・さめる。	記計画の立案、 統計学的手法。 検療法研究を実践 テクノロジー導	文献検索等の やその他の 践する。この 【入にする際	方法による分	
総合科目	作業療法研究卒ルI	業ゼミナー	「作業的を対する。」「作業的を検情のを検情のを検情のを適いので、適いので、適いので、適いので、適いので、適いので、適いので、適いので、	F究を 「でなる。 「でなる。 「でなる。 「でなる。 「でなる。 「でなる。 「でなる。 「でなる。 「できる。 「でる。	長を通して、明 に	生について、 発テーマの その要、 を整理 を を を を を を を と に と の を を を と の と の ま 、 に に に ら い る に ら る た る た る た る た る た る に る た る た る た る た	より実践的に 策定や文献を 大要な手法を 計学的作業素 領域のととが科 でとれる い、	

	————— 授	業	——————— 科		の	概	要	L美規格A4 縦型)
			17		0)	11-74	女	
リハビリテーション ⁵ 科目 区分		目の名称			講義等の内容	<u> </u>		備考
総合科目	作業療法研究 ル I	卒業ゼミナー	「作業」 「作一統計算 「大統計」 「大統計 「大統計」 「大統計 「大統計 「大統計 「大統計 「大統計 「大統計 「大統計 「大統計	研究卒業では、 でででは、 でででは、 でででいるでは、 でででいるでは、 ででいるでは、 ででいるでは、 ででいるでは、 ででいるできるが、 でいるでは、 でいるでは、 でいるできるが、 でいるできるが、 でいるできるが、 でいるできるが、 でいるできるが、 でいるできるが、 でいるでは、	E自身の研究テ E計画書を作成 E計画して、統計 E型解し、適切 は思考能力を身 によるディスカ	に学習を進め、 でマを研究を表している分析方法の な分析のでは ないでするでは にッションを にッションを が、	かる。これまで 先行研究の検 法の具体的な策 の他の研究方法 の選択を実践で	
総合科目	作業療法研究ルI		でのめ考て備い究のり究学と 「でのめ考て備い究の機組のびを を禁続するのの含量をを能学指 でのめ考で備い究のも背会み可、目 でのめ考でがある。 でのめ考でがある。 でのめ考でがある。 でのもする。 でのもなる。 でのもなる。 でのもなる。 でのもなる。 での。 でのる。 でのる。 でのる。 でのる。 でのる。 でのる。 でのる。 でのる。 でのる。 でのる。 での。 でのる。 での。 でのる。 でのる。 での。 での。 での。 での。 での。 での。 での。 での	研究学院 できた また な の 連と 方 行 統 限 が で と す が が れ た そ が が れ た そ が が か た こ よ い か た こ よ い か た こ ま い か た こ ま か か か か か か か か か か か か か か か か か か	学生自身なので、 を を を を を を を を を を を を を を を を を を を	テ画やをめクこゼのの析に一の策計というでは、またのででは、できませいが、できまませいが、できませいが、できませいが、できませいが、できませいが、できませいが、できませいが、できませいが、できませいが、できまませいが、できませいが、できませいが、できませいが、できませいが、できませいが、できませいが、できませいが、できませいが、できままないが、できまませいが、できままないが、できままないが、できままないが、できままないが、できままないが、できままないが、できままないが、できままないが、できままないが、できままないが、できまないが、できまないができまないが、できないが、できないができないが、できないができないが、できないができないが、できないができないができないができないができないができないができないができないが	だまないでは、 で研す手がまたとって過ごにには究。法要とって過ごににして発こよっに過ごにににまった。 ま義というができるがなどうでではない。 は究。法要とっし過ごにににいる。 はにににいるのいなる。 はないできるのはいない。 はないできるのは、 はないできるのは、 はないできるのは、 はないできるのは、 はないできるのは、 はないできるのは、 はないでは、 はないできるのはないできるのは、 はないできるのは、 はないできるのは、 はないできるのは、 はないできるのは、 はないできるのは、 はないできるのは、 はないできるのは、 はないできるのは、 はないできるのはないできるのは、 はないできるのはないできるのは、 はないできるのはないできるのはないできる。 はないできるのはないできるのはないできるのはないできるのはないできるのはないできるのはないできる。 はないできるのはないできるのはないできるのはないできるのはないできるのはないできるのはないできるのはないできるのはないできるのはないできるのはないできるのはないできるのはないできるのはないできるのはないできるのはないできるのはないできるのはないできる。 はないできるのはないできるのはないできるのはないできるのはないできる。 はないできるのはないできるのはないできるのはないできるのはないできる。 はないできるのはないできるのはないできるのはないできるのはないできるのはないできる。 はないできるのはないできるのはないできる。 はないできるのはないできるのはないできるのはないできるのはないできる。 はないできるのはないできるのはないできるのはないできる。 はないできるのはないできるのはないできるのはないできる。 はないできるのはないできるのはないできるのはないできる。 はないできるのはないできる。 はないできるのはないできるのはないできる。 はないできるのはないできるのはないできる。 はないできるのはないできるのはないできる。 はないできるのはないできる。 はないできるのはないできる。 はないできるのはないできる。 はないできるのはないできる。 はないできるのはないできる。 はないできるのはないできる。 はないできるのはないできる。 はないできるのはないできる。 はないできるのはないできる。 はないできるのはないできる。 はないできるのはないできる。 はないできるのはないできる。 はないできるのはないできる。 はないできる。 はないできないできる。 はないできる。 はないでもないできないできないできないできないできないできないできないできないできないでき	
総合科目	作業療法研究ルⅡ	卒業ゼミナー	ナ考る画成決とを究るな最実養 一察。書し能し身内。手終践を 一察。書し能し身内。手終践を 第一次を簡つをたきに、に でなるな最実を である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。	こりに継、行う言とといる、研検究に明さいのる、としい本にないのの。めめにことつ、視ときなに研このる、としい本点をもないが、のる、としい本点を明らればといる。としい本点を明られば、変にないない。	だけどうの場合では、大きないで生生がある。 きょうきょう きょう きょう きょう きょう はい こう きょう はい こう きょう きょう はい こう いっぱい できま 死 きょう はい こう いっぱい できま 死 手ない ない こう はい かい こう はい いっぱい できま かい こう はい いっぱい でき はい いっぱい いっぱい いっぱい いっぱい いっぱい いっぱい いっぱい い	に、自の過法プ結収観 を を は は は は り の の の は の の は の の は の の は の の に の に に に に に に に に に に に に に	研室のテラを共一なこれ 研室のテラを共一なこれ 完を、学で、し、ョ、をに 業科習・論で研ン他目伴 もで 業科習・論で研ン他目伴 もで での者標う 研さ である である である である である である である である	
総合科目	作業療法研究 ルⅡ	卒業ゼミナー	ではててを以て、 がにはててを以て、 がにはててをは、力でに容ま続的でした。 がではている。 がではててをはい。 がではててをはい、 がではててをはい、 がではててをはい、 がではててをはい、 がではててをはい、 がではててをはい、 がのできた。 がのできたた。 がのできた。 がのできた。 がのできた。 がのできた。 がのできた。 がのできた。 がのできた。 がのできた。 がのできた。 がのできた。 がのできた。 がのできた。 がのできた。 がのできたた。 がの	Fでは、 できない できない できない 研究 きいっと できない 研このる、としい 本点できない 研ことつ、視点できない できない 本点に といる まできない できない がられ 思言で こくが きょう という にんしい 本点 はいました はいまい いんしい 本点 いんしい かんしゃ はいしゃ はいい かんしゃ はいい かんしゃ はいい かんしゃ はいい かんしゃ はいかん はいかん はいかん はいかん はいかん はいかん はいかん はいかん	だけとうのでは、 できれば できまれば できまから できまから できまれば できまれば できまれば できまれば できまれば できまれば できまれば できまれば できまれば できま できまれば できま	に、自の過法プ結収観 を は は は り ち り の の の の に に た い は り の の 等 で に で に に に に に に に に に に に に に	研りを 研りを で、学を で、学を で、学で、当な で、学で、当な で、学で、当な で、当な で、当な で、当な で、当な で、当な でのおいまで でのおいまで でいると でいると でいる でいると でいる でいると でいる でいる でいる でいる でいる でいる でいる でいる	

		業	——————— 科	目	Ø	概	要	
リハビリテーション	学部 作業療法学	单科						
科目区分	授業科目の	の名称			講義等の内容	容		備考
総合科目	作業療法研究卒 ルⅡ	業ゼミナー	本程の選ば、の選ば、、過ぎは、過ぎは、の選ば、の選ば、の選ば、の選ば、のと実なのである。本のである。本のである。	「作業療法が必然を表する。」「作業を、発表がある。」では、一般をは、一般を表する。」では、一般を表する。」では、一般を表する。」では、一般を表する。これを表する。	ある「論文」形 う」ことを経験 でもらうことを作成 きまする」とい が表する」とび が表するがで	式にまといませんがまた。これでは、過いでは、過いでは、過いでは、過いでは、過いでは、過いでは、過いでは、過い	論文の形式にま ンテーションを	
総合科目	作業療法研究卒ルⅡ	業ゼミナー	おる果の考なンではに最しけ。の研過文の、、関終てる学考究程章方幅とす的、、関終では、と手目業とは、と手目業とのは、対象の対象が、対象の対象が、対象の対象が、対象の対象が、対象の対象が、対象の対象が、対象の対象が、対象の対象が、対象の対象が、対象が、対象が、対象が、対象が、対象が、対象が、対象が、対象が、対象が、	F. C.	て、・・を ・・・ ・・・ ・・・ ・・ ・・ ・・ ・・ ・・	究に表解究効のとらるる科法を、で行力を作業を決議を、で行力の究の場所である。 業別のといる。 業別のといるのである。 大学のできるのが、 一般のでは、 一般のでは、 一般のでは、 一般のというでは、	期い究。高成レを究観 研かうに 大きな 大きな できない できない できない できない できない できない できない でき	
総合科目	作業療法研究卒ルⅡ	業ゼミナー	法、生活動作 援する技術な 関して、実践 野だけでなく として役立つ	はにおいて、 身において、 身には応用する F にどに関している F できな 日々なな チャッ も デザイン 、	1常生活動作支 生生自らが検討 を作成するようでも明でいまる。 この場でも関係として とを目標とす 他の人に理解	援、工学的、 し、策定し その方法は 活動の疑問 る。着眼点	の様々な治療方 大生活療方 、生研究テ・研究 、生研究テ・研究 を一変をで、かる手法 で、ないで、 をいる で、ないで、 で、ないで、 で、ないで、 で、ないで、 で、ないで、 で、ないで、 で、ないで、 で、ないで、 で、ないで、 で、ないで、 で、ないで、 で、ないで、 で、ないで、ないで、 で、ないで、ないで、 で、ないで、ないで、ないで、 で、ないで、ないで、ないで、ないで、 で、ないで、ないで、ないで、ないで、ないで、ないで、 で、ないで、ないで、ないで、ないで、ないで、ないで、ないで、ないで、ないで、ない	
総合科目	作業療法研究卒 ルⅡ	業ゼミナー	「ナに実青連業ら臨をこるけ題集ルいい的期し法る実いらめ。起禁」、「一のまと、「一のまと、「一のまと、「一のまと、「一のまと、」、「一のまと、「一のまと、「一のまと、「一のまと、「一のまと、「一のまと、「一のまと、「一のま」、「一のま、「一のま」、「一つで、「一つで、「一つで、」、「一つで、「一つで、「一つで、「一つで、「一つで、「一つで、「一つで、「一つで	「一年では、一地で経過である。」 「一地では、一地で経過でで発達をといる。」 「一地で発達を必要でで発通で発達を必要でを発達をといる。」 「一地で発通で発達をといる。」 「一地で発通で発達をできるできる。」 「一地で発達をできるできるできるできるできる。」 「一地では、一地で経過である。」 「一地で発達をできるできるできる。」 「一地で発達をできるできる。」 「一地で発達をできるできるできる。」 「一地で発達をできるできる。」 「一地で発達をできるできるできる。」 「一地で発達をできるできる。」 「一地である。 「一地である。 「一は、 「一は	るためにに支援・ 強害領域活可能に支援・ 今後にした。過レや間 が、理観にので、 ののでででででいる。 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、	てな る ・な な、 を に を の で な、 を の が を の が を の が の が し の が し の が し の が し の が し に の が し に が し に が し に が し に が し に が し に が し に が し に が し に が し に の は に が し に の は に の は に の に 。 に に る に に る に に 。 に に に に に に に に に に に に に	研究卒業ゼミ 研究テンス (本)	

							(/11/184 日/平	上美規格A4 紙型)
	授	業	科	目	Ø	概	要	
リハビリテーション	学部 作業療法	学科						
科目区分	授業科目	の名称			講義等の内容	容		備考
総合科目	作業療法研究卒ルⅡ	業ゼミナー	ナ考る画成決とを究るな最実養しまってである。書し能し身内。手終践を一祭。書し能し身内。手終践を簡つをたきに、ににはててを高潔けよの、料つのでは、大のでは、大のでは、大の大学には、大の大学には、大の大学に	所のでは、 研究は、 研究は、 研究は、 できるに、 できるに、 できるに、 できるに、 できるに、 できるに、 できるに、 できるに、 できるといる。 できるに、 できるとしい本点を がまる。 できるに、 できる。 できるといる。 できるに、 できるに、 できるに、 できるに、 できるに、 できるに、 できるに、 できる。 できるに、 できる。 できるに、 できる。 できるに、 できるに、 できるに、 できるに、 できる。 できるに、 できる。 でる。 でる。 でる。 でる。 でる。 でる。 でる。 で	だけとうのでは、 できれば できまれば できる できまか できまか できまま できる できまま できま できま できま できま できま できま できま できま でき	に、自の過法プ結収観 に よ身考程 を が は りの察 の 等の学 が が は は りの な の な の な が と し に は し に に は し に に に に に に に に に に に に に	研題的テ行を共一なこ配 楽員 業科習・論て研ン他目伴 もで 学を吹字で、当、のとをに 楽献 で、学でで、当、のとをに 楽献 で、学での者標う 研き で、登でで を題論方のと適 究る にめ計作解文法研す正 を素	
総合科目	作業療法研究卒ルⅡ	業ゼミナー	にし能し身内る響を研究を引きる。それで表高潔け共のでは一般では一般では一般では一般では一般では一般である。これでは、有いないでは、有いないでは、一般では、一般では、一般では、一般では、一般では、一般では、	売りで たい たい でする たい でする でする でする できる できる できる できる できる できる できる でき	表し、結果の考り一連の研究過程とその手を 過程とその手法を が研究課程やないないが がではいるでは、 がはいるがは、 がはいるがは、 がはいるがは、 がはいるがは、 がはいるがは、 がはいるがは、 がはいるがは、 がはいるがはいるがは、 がはいるがは、 がはいるがは、 がはいるがはいるがは、 がはいるがはいるがは、 がはいるがはいるがはいるがは、 がはいるがはいるがはいるがは、 がはいるがはいるがはいるがはいるがはいるがはいる。 はいるがはいるがはいるがはいるがはいるがはいるがはいるがはいるがはいるがはいる。 はいるがはいるがはいるがはいるがはいるがはいるがはいるがはいるがはいるがはいるが	察等を行いを発の学がというできます。これでは、果実ではいいます。これではいいますがはいます。これには、まずいにはいいない。	通して課題解決 に、研究論文と ションの方法を く、他者の研究	
総合科目	作業療法研究卒ルⅡ	業ゼミナー	およ身をびとプやを理最実けりの行を共レ結収観終践れ、し、ンだで倫に、課践究、し、ンだで倫に、といっている。	研究 を できない できない できない 大学マ・作 の は できない 大学マ・作 解論 かい できない できない できない できない できない できない できない できな	考察する。 素察するれ沿行るまで、 を重著表のによって、 をでいるまでで、 をでいるまでで、 をでいるまででで、 をでいるまで、 をでいる。 をでいる。 をでいる。 をでいる。 をいいで、 でいる。 でい。 でいる。	必続究れ思知。有研方をなに実の過、らる者にしている。という、としい、では、としい、としい、としい、としい、といい、としい、といい、といい、といい、といい	域方し、のそり自でてて卒に 業つたの過法く研広ら署を 療い学考程を伝究くれす研き を を を を を を を を を を を を を を を を を を を	
総 合 科 目	作業療法研究卒 ルⅡ	業ゼミナー	「作一いた」では、 で で で で で で で で で で で で で で で で で で	こ引き続き、当 の研究を実践し 発表を行う。 と と は と は と は と の の に と に と に と に と に と に と に た る た る に る に る に る に る に る に る に る に	、、研究結果の この一連の研 か、基本的な論 習得する。また う適正な手続き ジミナールの学	た研究テーい 考課の研究を程書 文研方を で 、の 習 と し 、 の 習 践 し 、 の で る り る り る り る り る し し し し し し し し し し し	マ・研究計画書 、その成果を 践的な学びを 、効果的なプレ 身につけるべき	

	授	業	科	目	の	概	要	
リハビリテーション	学部 作業療法学	科						
科目 区分	授業科目の	2名称			講義等の内	內容		備考
総合科目	作業療法研究卒業ルⅡ	莨ゼミナー	「て果研のまへに成はと卒業研をの業研覧究会生幅後の東のでは、)で作たの研と学で業の大力の根とは、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、	の作成と公十れ活は間では、場行状の機能では、場合は、場合は、場合は、場合は、の機能を表して、状の研究には、機能を表して、機能を表して、場合は、場合は、場合は、場合は、場合は、場合は、場合は、場合は、場合は、場合は	表分た用い始け論に会の 方分たす。 方分がなうは、 方がかないでもて文をまするでは、 現果基らる は、 見視自含な実 、、本究 、本究	、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、	の研は察論た能シま果、きを集完学を文なとョたを研る身大成生がえている研すン公共完よに大成生が、指デ。料のすというにはめ実す一さの場るし科るというにいる。そのようにはいます。そのようにはいます。	